はげまし

はげまし　創刊号
発行日　昭和49年6月24日
発行所　機動隊員を励ます会
東京都中央区八重洲5－1－28
〒104　ミツヤビル3F
☎03(272)3848

われらがシンボル①

機動隊

第一から第九、そして特科車両隊を含めて10個隊、これを10枚の羽根で表わし、その長兄ともいうべき第一機動隊の1をあしらった。

市民がともした一つの灯

――「機動隊員を励ます会」発足す――

昭和四十九年三月二十二日、私たち市民の自然「機動隊員を励ます会」が産ぶ声をあげた。この会は、一朝にして成ったものではなく、ことあるごとに市民の安全を守り、秩序を正すために身を挺し、黙々として忍苦する機動隊員の姿に常々感謝と賞賛の念を禁じ得なかった多くの市民のいわば声なき声がいつしかふくれあがり、この機動隊員を励ます会という形に発展したものである。以下、さる三月二十二日に行なわれた同会の設立総会の模様とそこに至るまでの経緯についてお伝えしよう。

盛大に開かれた設立総会

「機動隊員を励ます会」の第一回総会をかねた設立総会は、さる三月二十二日、東京千代田区の半蔵門会館に棋野警視総監以下警視庁関係者と機動隊員および会員の多数を集めて盛大に開催された。

最初に会員を代表して世話人の大内俊司氏が立って、会の趣意、経緯など発会のあいさつを述べた。つぎに棋野警視総監が答礼のあいさつ、以下会員がこもごも立って発会に寄せることばを述べた。

あいさつが一巡すると、あとはビュッフェ形式で並べられたテーブルを機動隊員と会員が思い思いにかこみ、和気あいあいの歓談がはずんだ。

宴たけなわともなると、隊員がマイクの前に立って、自己紹介や得意ののどを披露するなど、励ます者、励まされる者一体となってのこの会の門出にふさわしい和やかな集いであった。

会設立に至るまでの経緯

当会設立の気運は、すでに昭和四十四年の東大安田講堂事件のころに兆している。すなわち、同事件において忍苦する機動隊員の姿を目のあたりにした当会の発起人たちが純粋に一市民としての立場から、いくばくかの浄財を出し合って傷つき倒れた機動隊員を見舞ったのが一つの契機となった。

このような一市民としての盛り上りの中から、純粋な気持が、その後同じようなケースを重ねるにつれて第一線で困難に直面する機動隊員の労苦に対し、より広くよりまとまった形で感謝と激励の意を表わす機会をもとうという気運に盛り上り、昨年十一月、九名の発起人を中心に「機動隊員を励ます会」の発会を申し合わせることとなった。

同時に警察庁、警視庁の幹部の方々にも趣旨をご説明しご理解を得た上で、広く一般に呼びかけ、さいわいにも多くの方々の賛同を得て、今回の設立総会開催の運びとなったものである。

当会はあくまで政治、信条に対する個人的見解を抜きにした市民の善意の集いであり現在では一般家庭の主婦に至るまでの広い層の方々からの入会申し込みも相次ぎ、刻々と会員数は増大しつつある。

機動隊員を励ます

機動隊員を励ます会　代表世話人　大内俊司

現代は価値観が猫の目のように変動する時代といわれていますが、法の手に護られ、秩序に従って正しくしかも安全に暮したいという善良な市民の願いは、いつの世にも変りないでしょう。

このような市民の願いに脅威を与えるような大きな騒擾事件が発生するたびにこれを防ぎ、あるいは鎮めるために身を挺して闘うのが機動隊の皆さんです。

こうした職務に忠実な人々の献身的な働きがあってこそ大多数の市民の生活の安寧が保たれているのですが、誰もが案外それに気づいていない傾きがあるのではないでしょうか。それどころか、むしろ安寧を乱す側の方に心情的に味方するような妙な風潮すらあるようです。

忘れもしない昭和四十四年の東大安田講堂事件のとき、無法な学生たちに火炎ビンや石を浴びせられながら、命令があるまでじっと歯を食いしばってがまんしている若い機動隊員の姿をテレビで見て、その労苦に頭が下るとともに、そのような不条理な世間の風潮に憤りを禁じ得ませんでした。同じ日本の若者なのに、無法が甘やかされ、秩序を護るために職務に身命を賭す側が顧りみられないというような不公平なことがあるでしょうか。私はそのときこれはだれかが何とかしなければいけないと思わずにはいられませんでした。

しかし、とかく無責任な世間の風潮はどうあれ、大多数の市民の本心は別なところにあると思います。口には出さずとも、機動隊員の皆さんのご苦労に感謝している人たちも少なくないはずです。

そこで、そのご苦労を慰労し励ましまそうという大衆の中の真実の声が徐々に盛り上がり、一つにまとまったのがこのたび発足した「機動隊員を励ます会」なのです。

今では、会員も千数百人を数えており、このように「はげまし」と題する会の機関紙も創刊を見ました。

この会が、これからもより広い共感に支えられた大きな市民運動として発展していくようにと念じています。

そして、機動隊員の皆さんには、陰ながら皆さんを応援する人々が決して少なくないことを知っていただき、会を通じて有形無形のはげましを送ることによって一層の誇りと情熱の下に安心して使命に邁進されんことを心から願う次第です。

五月晴れのページェント

警視庁創立百年記念観閲式開く

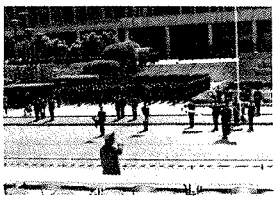
さる五月十二日の日曜日、東京千駄谷の国立競技場メインスタンド前広場で、警視庁創立百年記念行事の一環として、一大観閲式が華やかにくり展げられた。

さわやかな五月晴れの空の下、機動隊員から婦人警官部隊、警察学校生徒に至るまで警視庁職員四千余名が整然と組んだ隊列をオープンカーに分乗した警視総監はじめ警察庁警視庁幹部がしずしずと観閲ついで各隊の分列行進に移った。

一機から九機まで、警視庁ブラスバンドの勇壮なマーチに乗った堂々の行進、おごそかな中にも一まつの華やかさをたたえた婦人警官部隊の行進、さらには機動隊特科車両隊、レスキュー一一〇、白バイ部隊、パトカー部隊からヘリコプター部隊に至るまで、ひきも切らない一大ページェントの展開に、仮設スタンドを埋めつくした招待客の拍手はしばし鳴り止まなかった。

分列行進が終ると一転して選抜メンバーによるアトラクション。若さあふれる警察学校生徒全員によるマスゲーム息を呑む白バイ隊員のオートバイ曲乗りなどいずれも満場の観衆をわかせたが、とりわけ人気の的だったのは、可憐にも美々しい婦人警察官によるバトンガールと鼓笛隊の演技。いかめしい制服と打って変った目もあやなミニドレスに装ったそのみごとな演技は当日の華だった。

かくて警視庁創立百年を祝うにふさわしいこの盛りだくさんの行事はとどこおりなく終了、一千万都民を安きに置く護りの堅さを印象づけたのである。



会則

第一条（名称）
この会は、「機動隊員を励ます会」と称する。

第二条（目的）
この会は、わが国の法秩序維持にあたる機動隊員を激励し、慰安に努め、機動隊員と国民との間の理解と親睦を深める事を目的とする。

第三条（活動）
この会は、前条の目的を達成するために次の活動を行なう。
一、機動隊員の文化体育活動の援助
二、負傷された機動隊員への慰問
三、その他本会の目的達成に必要な事業

第四条（会員）
この会は、本会の趣旨に賛同する法人会員と個人会員とをもって構成する。又、個人会員は特別会員と一般会員とによって構成する。

第五条（会費）
イ、この会の運営は、会費及び寄付金により行なう。
ロ、会員は、次の会費を、この会の本部宛に納入するものとする。
一、法人会員　年額　六〇、〇〇〇円
二、特別個人会員　〃　一二、〇〇〇円
三、一般個人会員　〃　三、〇〇〇円

第六条（事務局）
この会は、東京に本部を、大阪、福岡に各々支部をおく。

第七条（世話人）
この会は、本部及び支部に各々世話人を若干名おく。

第八条（会計年度）
この会の会計年度は、毎年四月一日から翌年三月末日迄とする。

付則
この会則は、昭和四十九年三月二十二日より施行する。

機動隊物語

その一・プロローグ

先頃、警視庁創立百周年を迎え、五月晴れの空の下で華やかにその式典が行なわれた。

その歴史は、順風満帆というわけにはいかなかったが、警視庁の主責務である東京都民の安寧というものに、確実に、そして積極的に挺身してきたのである。

この警視庁・警備部に属する機動隊は、昭和二一三年五月、警視庁予備隊としてうぶ声をあげ、警備交通部に所属した。

以来二六年にわたり、人生でいえば、最も混乱に満ちた時代を生き、人間でいえば、やっと働きざかりの三十代を迎えたところである。

喜びもあった。苦悩もあった。いや苦悩の連続だったというべきかもしれない。

メーデー騒じょう事件、国会乱闘事件、砂川事件、安保反対闘争、日韓条約批准阻止闘争、羽田事件、東大紛争、沖縄返還協定阻止闘争、あさま山荘事件、日航機乗っ取り事件、そして、南伊豆地震……幾多の騒じょう事件に、隊員たちは〝都民の安寧〟を心に深く刻み込み、ある時は、ゲバ棒に身を打たれ、火炎ビンに身をこがし、またある時は、投石の下に前進を続けたのである。

若い隊員達が、その時何を感じ、何を考えたか、それは推し計るべくもないが、同世代の若者を相手に時には父親といってもいいほどの大人を相手に、職務とはいうものの、決して楽しい警備ではなかったろう。それどころか、彼らは、腹で怒り、心に涙し、堅い信念を貫き通したのである。

職務を果し終えた時の感慨も彼らにとっては、実に複雑である。

まだ記憶に新しいあさま山荘事件。

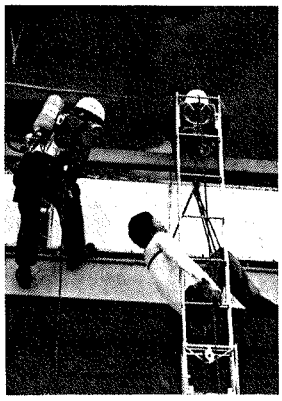
人質を救助すべく、あさま山荘際にたてこもること数日。国民全体がテレビの前にくぎ付けにされ、新聞を食い入るように見つめ、その救出を待った。

そして、あの日、壁を打ち破り、銃弾の飛びかう中を、隊員達は、続々と山荘へ押し入った。激闘の末、一週間の長きにわたる攻防は幕を閉じ、犯人達は逮捕され、人質二人は、無事救出された。その時、事件を見守っていた人々の間に、えもいわれぬ安堵感がひろがったのは、今でも忘れられない。

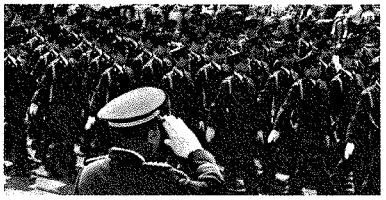
しかし、この時、救出された人質の後に横たわり、息絶えていた隊員、そして、全身を血に染めていた隊員を囲むたくさんの目には、任務を終えた満足感と悲しみが満ち満ちていた。

しかし、この事件を見守っていた人々は、安堵感とともに、その悲しみに心からのねぎらいと感謝の気持でいっぱいであったことは、だれも異論はあるまい。

辛いこと、楽しいこと、それぞれについては、次回からの進展に……。



機動隊の任務と組織



昭和八年に現在の警視庁機動隊の前身として設置された特別警備隊は、混乱をきわめた当時の治安維持にあたるため編成され、首都の防空、戦災者の救護等にあたったが、終戦により廃止された。終戦後の混乱期において第三国人の集団犯罪や労働紛争が続発したのでこれに対処するため警視庁予備隊が創設され、さらに三十二年に現在の名称に改称されて実質的強化を図った。もちろん当時にしても警察体制が不十分であったわけではないが、集団警備の必要性をいち早く察知し、予想し得る騒擾を合理的かつ機動的に処理し、市民の不安をとり除くとともに国家体制を堅持するのに活躍した。この意味において機動隊のあゆみと任務は社会史に反映されているといえよう。

やがて国内の治安が安定してくると、集団警備のほかに、洪水、火災、地震などの際の救助活動分野においても機動隊がきわめて大きな力を発揮するようになった。それ故に、国民は安心して日々の生活を送ることができるともいえる。その組織体制は、任務遂行に最も効果的であるように、時を追って整備され、今日では全国的に一朝有事の際即応できる隙のない姿になっている。

●主な任務

近年の社会世相を見るに、国民が機動隊に寄せる期待はさらに大きくなるようにみえる。過去の事例にも見えるように、治安維持や救護活動などこれまでの社会への貢献からして当然ともいえよう。

機動隊の主な任務は、大きく次の二つに分類できる。すなわち、一つは本来の警備的任務であり、一つは福祉的、社会的任務である。前者の事項としては、①内外要人の警護、②国会や大使館などの警備、③行事・催物の雑踏整理や犯罪防止、④犯罪の多い地域の巡視、などがあげられる。また、後者の主な事項としては、①天災・火災などからの防災・救護活動、②公共的催物や行事に際しての音楽隊による演奏、などがあげられる。そして、交通量の増加とそれに伴う交通事故の多発に対処して、交通の指導および取締まり、さらに、昨今きわだって目立つ過激暴徒集団の鎮圧など、その任務はいっそう拡大されるとともに、それに寄せられる期待と信頼は大きい。

●組織

東京地区の十個隊を中心にほぼ全国的に変に応じて即応できる組織が整っているのは前述のとおりである。国民の社会生活と密着した機動隊は、通常は必要最少限で組織されている。その最高指導者は警察庁長官であり、各都道府県に設置される機動隊は、都道府県警察本部長（都は警視総監）の指揮・監督下にある。例えば、先頃起こった静岡県伊豆の大地震の救助活動は、静岡県警に機動隊の対策本部が設置され、本部の応援を得て、自衛隊等と協力して任務を遂行した、という具合である。ちなみに、東京都の機動隊組織を略記すると次のようである。

警視総監―警備部長
- 第一機動隊
- 第二〃
- 第三〃
- 第四〃
- 第五〃
- 第六〃
- 第七〃
- 第八〃
- 第九〃
- 特科車両隊

各中隊―各小隊―各分隊

機動救助隊（レスキュー一〇）は各中隊に一個小隊以内で編成している。

街の太陽

警視総監　槇野　勇

機関紙「はげまし」の発刊に際し、会員の皆様に親しくごあいさつできますことは、私にとりましても何よりも喜ばしいことであります。

会員の皆様には、常に警察業務に深いご理解とご支援をいただき感謝しているところでありますが、このたび「機動隊員を励ます会」を創立され、機関紙発刊のはこびになりましたことに対し、ここに改めて衷心より敬意と謝意を表する次第であります。

警視庁百年の歴史を回顧してみると、大きな山もあり、深い谷もあったのであります。その幾山河を踏破し得たのは、その時代、時代の都民をはじめ国民の皆様からのご支援をいただいたことによるのは申すまでもありませんが、それと同時に、若い警察官の治安維持に対する献身的な精神とみなぎる情熱であったと思うのであります。

特に若い隊員で構成されている警視庁機動隊は、その前身である警視庁予備隊として創設されてから二六年という歳月の流れがあったわけでありますが、その年輪を刻んだそれぞれのメーデー騒じょう事件や第一、第二安保闘争警備など幾多国家の命運をかけた警備において、皆様をはじめとする全国民の限りないご声援により、幾多の試練に耐えなければその重責を果たしてきたのであります。

隊員は投石、火炎びん、銃器、爆発物等を使用する凶徒に対しては断固鎮圧する勇気と自信をもっておりますが、警備現場における心ない人々の悪口雑言については、自らが身を挺してその安全と平穏を守っているだけに、言いようのない深いさびしさに襲われるのであります。

このような時、一般の方々から「ご苦労さん」の一声をいただいたときなど、隊員の苦労に対する同情と理解が示されたときは勇気百倍、疲労も負傷も忘れ、使命の達成へ向けて限りない前進を続けるのであります。

警視庁機動隊のシンボルマークは「太陽」です。窃盗犯の予防検挙のためのパトロールや雑踏整理に出動するときなどは「太陽」マークの腕章をつけて街頭活動をしています。

これは、隊員が〝街の太陽〟になりたいという念願が秘められているのです。

森羅万象には太陽の恩恵を受けないものはありませんが一日頃は人々の意識外にあります。南極越冬隊の昭和基地は年間のうち百日は、太陽のない暗黒の世界で生活するため太陽を拝むことができたときの歓喜は無上のものといわれております。

隊員は、太陽に及ぶべくもありませんが、心を太陽のように明るく、暖かく持って社会正義を実現する一使徒として、いかなる困難をも乗り越えて活動して行きます。

機動隊員の犠牲的活動が皆様の深いご理解を得て本会の創立を見たことは、いわば激励の一声、一杯のお茶という善意が、警視庁創立百年という記念すべき年に大きな花を開き実を結んだものでありまして、将来の警視庁を背負って立つ若い隊員に絶大なる自信と勇気を与えてくれるものであります。

隊員は皆様のあたたかいご支援を心の柱としてさらに精進努力してその負託にこたえる決意でおります。

本会のますますのご発展と会員諸兄のご多幸を祈念してごあいさつといたします。

機動隊創設二十六周年を祝う

警視庁機動隊は今年五月をもって創設二十六周年を迎え、さる五月二十八日、東京千代田区の半蔵門会館に警察庁、警視庁、機動隊の関係者多数と「機動隊員を励ます会」の会員も招かれて列席、その記念パーティーが盛大に開催された。

パーティーは警視庁警備部大高参事官の司会で開幕、警視庁村上警備部長、横野警視総監、高橋警察庁長官、原元警視総監が相ついであいさつ、さらに後半は芸能人によるアトラクションもまじえ、会場には歴代機動隊長の写真が掲げられるなどふんいき満点のうちに、先輩、後輩一堂に会しての交歓風景がくりひろげられた。

大内世話人に感謝状

機動隊員を励ます会を代表して

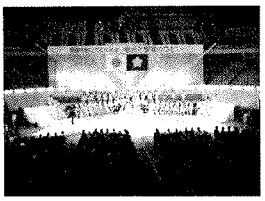
去る五月十三日、警視庁総監室において「機動隊員を励ます会を代表して大内俊司氏が横野警視総監より、日頃、とくに警察活動に協力した功によって感謝状を授与された。

「都民と警察のつどい」開催さる

去る五月十八日（土）、日本武道館において、警視庁創立百年を記念して「都民と警察のつどい」が開催された。

これは、都民によりよく警察を知ってもらうとともに、日頃、とくに警察に協力、あるいは貢献している人々に対して感謝状を贈ろうという主旨で、四九六団体一、〇五二名に感謝状を贈ったあと、警視庁女性ブラスバンド、バトンガールなどによるデモンストレーション、歌手によるアトラクションなどが行なわれた。

会場には、若い警察官や散歩の行き帰りに立ち寄った親子連れ、若い二人連れなど、合わせて一万人ほどがつめかけ、盛況であった。



第一機動隊卓球チーム東京都大会へ

去る五月十二日より行なわれていた全日本実業団卓球選手権大会ブロック予選で、第一機動隊卓球チームは、一セットも落とさずに勝ち抜き、六月二六―二九日に駒沢体育館で行なわれる東京都本予選へ進出した。

会員と隊員のひろば

企画に敬意を表します

私は、この会に心から入会させていただきました。かねて、こんなことをすべきであると思っておりました。この企画をされた方に心から敬意を表します。よろしくお願いいたします。

（宮下組代・主婦）

機動隊めぐり（1）

警視庁第一機動隊

皇居の森の深い緑のほとり、目の前を首都高速が走る。ここは、警視庁第一機動隊。

前庭には、警備車が数台、水洗いされている最中だ。

第一機動隊は〝近衛の一機〟の愛称で親しまれ、皇居をはじめ、警視庁、官邸、最高裁判所、国会など重要防護対象の警備にあたっている。もちろん、都内でなにか事ある時には出動し、公安委員会からの要請があれば、他府県に出動することもある。

隊は、四個中隊の徒歩部隊と車両・特殊装備車にたずさわる特科の五つの中隊から構成され、「治安」「雑踏」「災害」の三大警備をはじめ、日常は、官という役職がある。都内の警備はもちろん、過去の大きな事件、成田空港、横須賀原潜寄港、浅間山荘、そして最近の南伊豆地震など大きな事件のほとんどにその重責を果してきた。

――日頃の訓練では、警備の際に相手に怪我をさせない、自分も怪我をしない、都民に迷惑をかけないの三大原則を貫くことを指標にしています。また、必要最少限の人員で、いかに要領よく警備をするかの検討も続けています。――

人間づくりに通じることだが、小部隊単位の機敏で迅速、適確な判断力の養成も合わせて行なっている。隊が機敏に住宅地、盛り場などの警備、交通整理など、一般の警察官の職務も兼ねる。

現在、隊員は三百余名。平均年令は二三―二四才と若さを誇っているが、中村克己隊長にうかがうと、一機の隊員は、みんなオトナであるという。

――デモ隊の制圧など、オトナでなければつとまりません。日頃の教育も余暇の読書や書道も含めて、人間づくりにつとめています――。

一機の特徴は、昭和二三年設立の警察予備隊以来の古い歴史と各機動隊の世話役としての立場もあり、職制の上でも、隊長、副隊長の他に管理機動力を発揮するには、まず、個人個人の機敏さが必要なのである。隊員になるにも厳しい選考基準があり、社会的にも、人格的にも合格した人でなければならない。

余暇活動も盛んで、書道、華道、茶道、絵画、音楽などがあり、ザ・ファースト・チェリーというバンドは、交通安全運動・老人ホームの慰問など各方面で活躍している。

四交替制勤務のかたわら、このような活動を通じて、一人の隊員として、いや、一人の人間として彼らは成長して行くのである。

北の丸公園の第一機動隊舎と中村克己隊長

はげまし

はげまし　第2号
発行日　昭和49年7月31日
発行所　機動隊員を励ます会
東京都中央区八重洲5－1－28
〒104　ミツヤビル3F
☎03(272)3848

警視庁
第二機動隊

われらがシンボル②

八重桜の10枚の花びらが警視庁の10機動隊を表わし、2人？のカッパは、水防警備に重点を置く二機の特徴を意味している。

大規模な水防訓練行なわる

台風シーズンを控え

八月の声を聞くと、もう台風シーズン。毎年、[illegible]各地で台風によるさまざまな被害、多数の死者、負傷者、そして家屋、橋梁などの浸水、倒壊が続出する。

このような災害が生じた時にきまって活躍するのが機動隊である。

台風シーズンを控えた去る七月九日、いろいろな状況を想定して市民を安全に救出するため、そして被害を最少限にとどめようと、水防訓練が東京・江戸川堤で行なわれた。ここでその訓練の模様をお伝えしよう。

この水防訓練は、警視庁全機動隊が水上警察、航空隊の協力を得て、去る七月九日、東京都江戸川区篠崎町の江戸川大橋下流篠崎水門付近で行なわれた。

三井統裁官以下の見守る中で、まず大型台風が上陸したとの想定のもとに、種目別に

(一)、舟艇の組立と搬送要領
(二)、救命索利用による救助活動
(三)、流出家屋からの救助活動
(四)、漂流者、溺水者の救助活動
(五)、応急タンカの作成と救助法
(六)、堆積土、倒木の除去と埋設車両内からの救助活動
(七)、流出直前の家屋内からの救助活動
(八)、水防工法

と訓練が続けられた。

圧巻は、大雨のために十数名が中洲にとり残されたとの想定のもとに行なわれた救助活動で、まず、ヘリコプターによる状況偵察がはじまり、続いて、車上から川崎式救命索二機を中洲に向けて発射、ロープを張る。そして待機した機動隊員が舟艇二隻によりロープを伝って対岸に移り、被災者を救助した。舟艇がロープによって渡河する際には、舟は速い流れに大きく傾き、実戦さながらの緊張した空気が張りつめ、観衆は手に汗を握った。

その他の訓練についても、手ぎわよく行なわれ、土手に陣どって見物している市民の中からは「ホーッ」という感嘆の声が挙った。

この訓練が終ると最後に、一機から特科までの全隊によるボート競技が行なわれ、それぞれの隊員の懸命な応援の中で、各隊必死のオールさばきが見事であった。結果はスタートよく飛び出した八機が優勝、表彰された。

すべてのスケジュールが終り帰ってゆく市民の中には、満足感と安堵感がただよっていた。

関東管区機動隊 内閣総理大臣賞受賞

去る五月十日、静岡県、伊豆半島を襲った地震により、崖崩れ、生埋めなど大きな被害を出したが、この際出動し大活躍した関東管区機動隊に六月二五日、内閣総理大臣賞が贈られた。

南伊豆地震による被害は、人家が大きな石とも思えるほどの土の塊に押しつぶされ、人力ではどうにもならないものであったが、ブルドーザーは人が埋っているため使用することはできず、一人一人のスコップ作業にたよらざるをえなかった。

水害救助に機動隊大活躍

―横須賀―

五月十日～十七日の期間に関東管区機動隊では二次にわたり計二〇七名の隊員を動員昼夜兼行の救助にあたった。

この懸命の救助活動に対して、住民から感謝の声があがり、同賞の受賞となったのである。

去る七月七日関東地方に夜半より降り出した雨は、八日未明にかけて激しさを増し、神奈川県横須賀市内では二五〇ミリを越す記録的な大雨となった。この集中豪雨により同市内各所で崖崩れが続出、人家が土砂の下敷きとなった。

神奈川県警・第一機動隊は八日早朝出動、市内佐野町などで救出にあたった。現場は極端に狭いこと、土砂が時折落ちてくるなど、救助活動は困難をきわめたが、出動した一五七名は雨の降りしきる中、懸命に作業を続行し、人的被害の拡大防止に努めた。

この大雨により、死者一三名、負傷二一名他の被害を出したが、救助活動を終え、帰り仕度をする隊員の手を硬く握り「ありがとうございました」の一言を発するのが精いっぱいという住民の姿がいたいたしかった。

十月総会のお知らせ

『機動隊員を励ます会』は、去る三月二十二日に設立総会を開催してより半歳足らずで早くも会員数二千名に迫ろうとしており、国民的共感の上に立った市民運動として大きくその輪をひろげようとしています。

つきましては、この期に会の精神のいっそうの高揚を図るため、今一度総会および懇親パーティーを招集することとなりました。まだ細目の決定をみておりませんので、詳細につきましては次号にてご案内申し上げますが、とりあえず左記の通りそのあらましをお伝えいたします。

なお今回は個別の案内状を差し上げず、「はげまし」紙上掲載をもってご案内にかえさせていただきます。各位にはお見落しなきよう、準備の都合上お早目に当会事務局あて各自が官製ハガキにてお申込み下さいますようお願い申し上げます。

記

日時　昭和四十九年十月上旬
場所　東京都内
出席会費　千円（予定）

警視総監賞受賞記念パーティー盛大に催さる

過日、当会を代表して、大内俊司氏が警視総監賞を受賞したが、これを記念するパーティーが、去る六月二四日、ホテル・オークラで盛大に催された。

出席者のあいさつの端々には、当会に賛同する声が多々あがり、市民がともした一つの灯は、これを契機にさらに大きな広がりをみせることになろう。

自由を護るある集団

今月のことば

夏の宵、親しき友とジョッキを傾ける。一杯が二杯、二杯が三杯と重なるほどに仕事の話、家庭の話、生活の話、果ては政治の話へと談論風発、いつしかあたりかまわぬ大声が喧噪なヒヤホールにひびく。

だが、まわりはだれも気にとめない。それぞれのテーブルが、それぞれ思い思いの会話に夢中なのである。飲むときぐらいはいいたいことをいわせてもらいたい、口に税金はかからないハズ、などと太平楽を並べても咎められない――このことをだれもが当り前のこととして少しもあやしまない。そう、日本は自由の国なのだから。

しかし、世界のどこかには、友人と話をするときにもまずあたりを見まわしてからなどという国が少なくないことは、ご存知の通りである。

まことに、自由とは得がたいありがたいものなのである。けれども大切なことは、自由とは得手勝手の謂ではないということ。得手勝手が許されれば、強い者ばかりが栄える野蛮な時代に逆もどりしてしまう。

だから、自由とは、社会には厳正な秩序というものがあり、いかなる個人も従わねばならぬ規範というものが本元的に存在するということをよくわきまえた者のみが享受できる権利なのである。

自由に慣れれば、とかくこのことは忘れられがちになる。一部の若者たちの目に余る反社会的な行動はそのよい例であろう。

そんな風潮の中にあっても、まことに気持のよい若者たちの集団はある。私たちがはげましを送る機動隊の隊員である。各隊の隊長さんたちは口をそろえていう。「隊長からやれと命令されれば、彼等は理屈ぬきハイの一言で火の中へも飛び込むだろう」と。

木偶だからではない。彼等には秩序と正義の側に立つという確信があるからに違いない。古い世代の人なら、そうした姿の中に、今は失なわれようとしている一途でさわやかな何かを見出した思いがするだろう。

機動隊の若い諸君。諸君の若さと正義の名においてがんばれ！

機動隊物語

その(2)・予備隊誕生

旧警視庁が新警察法の施行により、昭和二三年三月七日解散され、東京都二三区が連合して設置する自治体警察として新警視庁が誕生し、その設置条例により明治以来の伝統ある警視庁および、警視総監の名称が生き続けることとなった。

新警察法の施行によって発足した警視庁の定員は、二万四千五百人余であった。旧警視庁の定員が一万八千人余であり、分割後かえって増員となっているのは、GHQ命令による二三年の緊急増員の結果によるものであった。

当時の治安状況は、連合軍の占領下にあったのであるが渋谷事件に見るような第三国人の跳梁、急進的な労働運動、集団強窃盗事件の続出など、騒然とした世相下にあり、内外から集団警備力の即時増強が熱望されていた。さいわい新警視庁の定員増が実現し、逐次充員されていたので、警備部隊の早急設置が決定されるに至った。

部隊名称をいかにするかということで、警備隊、機動隊などの強い要望があったが、いまだ占領下のことでもあり、連合国側への思わくもあって、警視庁予備隊とすることに決定した。したがって、各方面部隊の名称も区隊とし、区隊の下に中隊、小隊、分隊を配置することになった。

同五月二五日、予備隊長以下の幹部が発令された。

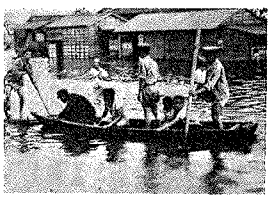
隊長は、渋谷事件で有名な土田精警視（中央区隊長兼務）東部区隊長渡辺武夫警視、南部区隊長近藤貞警視（後の防犯部長）、庁舎は、予備隊本部および中央区隊は本部中庭庁舎、東部区隊は元日本橋警察署跡、南部区隊は大橋の軍施設をあてることとなった。

隊員については、各所属長よりの推せんを受け、個々面接のうえ選択したのであるが、当時は、食糧事情不良の時でもあり、転勤は生活条件の低下につながるというので、本部転勤が好まれないような風潮の中ではあったが、面接にあたっては、むしろ大多数が入隊を強く希望し、選考にあたった者達を感激させた。

ともかくも編成を完了、早速皇居前で所属部長である原警備交通部長（後の警視総監）の査閲をうけることができた。しかし、部隊はまだ混乱状態で、隊規の振しゅくと練成のため、日ごとに激しい訓練が続けられた。とくに分隊長以上の幹部については、日曜日ごと、本部に午前七時に召集し、隊長以下全員による皇居一周のかけ足が行なわれた。

宿直の本部員がこれを見て、「あんなことさしてもいいのか」と首をかしげたことが伝えられている。このように当時はまだ終戦後の虚脱状態から抜けきれなかったのである。

このような混乱期に起ったのが、あの東宝争議事件であった。



機動隊の任務と組織（II）

●市民と機動隊

機動隊の主な任務と組織について、おおまかな点は前号で紹介した。そこで、もっと具体的に市民とのかかわりの上で機動隊の実情を追ってみた。

例えば、九州のある地方で台風による風・水害をうけたとする。この場合、災害救護という命によって、まずその地区の県警機動隊が出動する。そして被害の大きさに相応して管区機動隊および他府県の機動隊が要請により、応援部隊として出動する、ということとなる。

この場合、機動隊の任務は、まず避難命令の連絡や避難民の誘導、負傷者の救護、飲料水の給水、そして惨状の整理などである。また、災害の混乱に乗じておこる犯罪とくに窃盗）の予防も重要な任務の一つとされる。そして被害状況や死傷者救の確認・報告も警察的任務として当然に含まれる。

この例でもわかるように、市民の保護は第一義的な任務である。そして集団的警護または警備を前提とする事態に際して機動隊が出動することが、機動隊員にとって大きな励ましになることだろう。

●機動隊を見る目

ところで、機動隊というと特殊な部隊という誤った認識をする人もいるようだ。実に残念なことである。

しかし、それは先にも触れたように、集団で警護・警備することからくる誤認ではないだろうか。例えば、東大ろう城事件や成田空港事件などの例に見るように、事件の性質によっては、通常の警察官以上の重装備が必要なのは言うまでもない。その光景が、背広とネクタイなど通常の服装をしている市民の目には異様に映るのだろう。だが、そうした違和感を感じる前に、機動隊の任務（とくに先のような事件における任務）を理解することが、守られる市民として当然であるといえないだろうか。そしてまた、理解することである。

●任務の励行

機動隊は、警察官によって組織されている。もちろん、隊員としての任務を遂行するうえで必要な訓練は受ける。その訓練は基礎訓練にはじまり、予測される事態に則した訓練、例えば水難救助訓練・火災現場救出訓練・交通事故負傷者救出訓練などである。また、隊員の情操面から、柔道・剣道・バレーボールなどのスポーツや書道などの手習いなども欠くことのできない修練としておこなわれている。

これらは任務の励行にあたり非常に重要なことであろう。正義と公正のために、また市民を確実に守るためにも、たくましい体力と健全な精神を培う源泉であるからだ。

●任務外活動

緊急出動や通常の任務のあい間をぬって、隊員には数多くの、言わば任務外活動がある。今号で紹介した機動隊の寮祭や家族慰安会、体育祭ならびに柔剣道大会をはじめとする各種スポーツ大会などの年中行事がある。本紙でもそれらをできるだけ多くとり挙げ、紹介するとともに、当会員もそれらに参加し、交流できることを希望したい。

人間機動隊

警視庁副総監　三井　脩

このたび、会員の皆様にごあいさつ申し上げる機会を得まして、大変光栄に存じます。

皆様方には、設立総会直後の懇親会に多数の機動隊員をお招き下さいましたほか、機動隊創設二十六周年記念行事や待機寮の寮祭など各種行事にご多忙な時間をさいてご臨席の上、それぞれご激励を賜わるなど、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、いいふるされておりますが、「罪を憎んで人を憎まず」ということばがあります。

これは、法を執行する警察官のあり方を端的に示したもので、人間尊重と社会正義実現という二つの理想を調和させたものであります。

最近の週刊誌に、戦後史のドキュメンタリーとして、「東大安田講堂事件」が取りあげられ、その中に、「機動隊員が東大別品館の屋上に暴力学生を追いつめた際に『おい！怪我はないか』と呼びかけたその一声が、学生らに抵抗の気力を失わせた」との記事がありました。

この一声こそは、警察の中に脈々と波打つ「罪を憎んで人を憎まず」という理念が、死線を越えた警備現場でごく自然にほとばしり出たもので、当時暴力学生らからは、「人間機動隊」というニックネームを頂戴いたしました。

また、あの「浅間山荘人質救出事件」におきましては、機動隊員二柱の尊い犠牲のもとに、強い使命観と責任感から、「人命尊重」の精神で、冷静に事態に対処し責務を遂行した事実も、この「人間機動隊」の真価を発揮したものといえましょう。

さる六月二十六日早朝、法政大学で内ゲバ事件があり、六十七人を逮捕しましたが、内ゲバによって二十三人の負傷者がありました。

機動隊員は、この負傷した犯人の応急手当を当然のこととして、ところが、報道関係者は、この救急状況を写真でとらえ、夕刊に「内ゲバのあと救急隊員に傷の手当を受ける負傷者たち」との説明付で写真が掲載されました。

「人間機動隊」の伝統は、現隊員に脈々として生きており、外国語に「キドウタイ」の名詞が生れるのも不思議ではないと感じるのであります。

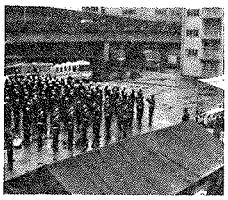
警視庁機動隊員は、無責任な一部の偏見に惑わされず、正しくその活動を理解し見守って下さる皆様、ならびに多くの国民の存在を心の支えとして、「国民の平穏と安全、社会の秩序ある前進のために身命を賭する」ことを人間機動隊の真髄とし、明るく、強く、ヒューマニズムに溢れる若人の集団として、皆様のご期待に応える決意でおります。

最後に、会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げるとともに、警視庁の将来を担う若い隊員のために、今後一層のご激励とご叱正を賜わりますようお願いしてごあいさつといたします。

国家公安委員長、機動隊を視察

去る七月十一日、町村国家公安委員長が就任後はじめて機動隊を視察した。

当日は警視庁第一機動隊において、小雨ふる中で行なわれ、受閲隊による数々の訓練を熱心に視察した。その後、委員長告示で、「今日の訓練を視察して、公安委員長として国内の治安を維持していくうえで、たいへんに意を強くした。昨今の社会情勢から、隊員諸君に寄せる期待はひじょうに大きい。今後も隊員としての信念を堅持し、頑張って欲しい」と挨拶し、視察を終えた。



警視庁機動隊 寮祭はじまる

警視庁機動隊では例年行なわれる各隊ごとの寮祭が今年も四機を皮切りに催されることとなっている。

そのトップをきって去る六月三〇日に半蔵門会館で開催された四機の寮祭に、当会の会員も参加し、激励した。

その模様は、隊員と招待客とが主客入り混じってのゲーム、ダンスなどを楽しむという終始和気あいあいとした雰囲気であった。

とはいえ、初めのうちは、若い女性客は何となくこわごわといった感じ。また、隊員の方も多勢参加した女性客の中に入っていささか緊張ぎみだった。が、隊長のあいさつ（かなりリラックスムードだった）で意を強くした（？）のか、それまでの緊張感も一気に溶きほぐれた様子。そこで「マルタ島の砂」など隊員バンドによる軽音楽の演奏よろしくしばし談笑。うちとけたところでゲーム、そしてダンスと寮祭も最高潮に達した。

その間およそ三時間。一人の女性に寮祭の感想を一言。「ここに来るまでは、肩苦しい気持ちでしたけど、見ていて分るように、とっても楽しかった」そうだ。

警視庁百周年武道大会・祝賀会開かる

去る六月一二日と一三日の両日、警視庁創立百年記念武道大会において優勝した第六機動隊、および第四機動隊の祝賀会がそれぞれの庁舎内で華やかに行なわれた。

この大会において四機は剣道団体に、六機は柔道団体と剣道個人に優勝したもので、案内状を受けた当会では、大内世話人の代理として松田太刀雄氏、および岩井実氏、鈴木章士氏が会を代表し出席、松田氏が大内世話人の代理として祝辞を述べた。

両祝賀会とも、和気あいあいのうちに、寝たけなわとも、なると歌や踊りが飛び出し、出席者はひとつとなってその喜びを分ち合った。

会員告知板

機動隊行事参観　希望者を募ります

機動隊で催されるさまざまな行事の参観に、あなたも一度お出かけになりませんか。

機動隊員の日々の生活や活動にふれ、交流を深めることも機動隊員を励ます会の会員にとって意義あること。とりあえず年内の機動隊の主な行事は左記の通りですので、参観ご希望の方は当会事務局までお申出下さい。人数等に制約もありますので、世話人にて調整の上、紙上または個別にご連絡申し上げます。

なお会では目下、会員証の作成を急いでおりますが（七月中にお手もとにお届けする予定です）、こんどこの種の催しにご出席の際には、必らず会員証をご持参下さい。

寮祭

機動隊対抗柔剣道大会（十月）

クリスマスパーティー（十二月）

家族慰安会

会員の皆様にお願い

皆様方の厚いご支援のもとに本会もいよいよ隆盛をきわめてまいりました。ここに深謝するとともに会員の方々に次のことをお願いいたします。

発送事務の都合上、移転、その他住所変更等がありましたらすみやかに本会事務局（本部東京都中央区八重州五ノ一ノ二八）までお知らせ下さい。

寄稿歓迎

編集部では、常時、会員の皆様方からの寄稿をおまちしています。

会員として、また市民としての立場から機動隊についてのご意見、ご感想や機動隊とのかかわりがあった経験談、あるいは本会に関するご意見ご希望など、幅広くお寄せください。採用文については紙上でご紹介します。

なお、紙面の都合により、四〇〇字詰め原稿用紙で三枚以内とします。

会員と隊員のひろば

はげみになります

今までは、市民を守る仕事をしていて、自分なりの誇りは持っていましたが、果してそれが市民の皆さんにどの程度理解されているか疑問でした。しかし、この「はげまし」を読んで、なにか明るい希望を見つけたような気がしました。

会員の皆さんで、機動隊に対する希望や反省すべき点などありましたら、どんどん言っていただきたいと思います。

（機動隊隊員　淀野芳章）

機動隊めぐり（2）
警視庁第二機動隊

隊舎の門をくぐると、数十名の隊員が水防訓練の真最中。ここは、東京、墨田区横川町の警視庁第二機動隊。〝カッパの二機〟の愛称で親しまれている。

二機が主に掌握している墨東地区は、江戸の昔から防災地区に指定されていた所で、今もなお、周知のように江東ゼロメートル地帯などといわれている。

また、二機で記憶に新しいところでは、浅間山荘事件で殉職された当時の一四代隊長内田尚孝氏である。隊長室には静かなまなざしの写真がかかり、じっと二機を見つめているようであった。

さて、現在の隊長、菅野好雄さん。たいへん気さくな人で、訪れた取材班が口を開く間もなく、その時隊舎前で行なわれていた水防訓練のうちの舟艇訓練とアクアラング訓練をこと細かに説明していただいた。

二機は、治安、雑踏、災害の三大警備はもちろんのこと、大きな特長として、水難救助隊を持っていることだ。〝カッパの二機〟の由来もひとえにここにある。

――都民の皆さんの期待に応えられる、イザという時に強さを発揮する機動隊でありたいですネ――とは菅野隊長さん。

信頼される機動隊としての根本は、強い幹部をつくること、車両部隊の強化をはじめ、冷静で、責任感があり、しかも体力のある隊員の育成を目指して訓練を続けている。

また、隊として行動する際に最も大切な融和と団結、これを薬ように格好なボート競技に力を入れている。二機には警視庁ボート部が置かれ、小隊長以下二〇名で成り、部員は皆ボートマンであり、ジェントルマンである。そして東京大会二連覇、関東選手権三連覇の偉業を続けている。

――今年は国体を目指してガンバッています。見ていて下さい、やりますヨ――と楽しそうにおっしゃる隊長さん。

このほか、書道、音楽、園芸、スポーツと余暇活動も盛んで、とくに隊色を名に取り入れた〝ザ・イエローファイターズ〟というバンドは、今では上野署員などに指導する腕前である。

隊員の団結を強める意味で大きな役割りを果たしているのが、親和寮という独身寮で、その隊員の多くは、昇進試験や各種資格試験を目指して日夜勉強を続けているという。この姿は、菅野隊長の座右の銘ともいうべき〝着々寸進〟ということばが隊員一人一人に浸透しているものだろう。

二機の門を出るにあたり、一人の若い隊員の言った一言が心にいたくしみ通った。

――山谷に近いため、騒ぎがあると一番にわが隊が出動するんですが、山谷騒動は学生騒動などとは本質的に違った、生きること、生活することに密着したものなので慎重に対処しています。――

関東管区機動隊

われらがシンボル③

"赤いダイヤ"
赤心、すなわち真心の部隊を表わし、実戦によって磨かれ、いよいよ輝き、石より固い部隊たらんとする。

はげまし

はげまし　第3号
発行日　昭和49年8月25日
発行所　機動隊員を励ます会
東京都中央区八重洲5－1－28
〒104　ミツヤビル3F
☎03(272)3848

多大な成果 野外訓練終わる

新らたな融和をもって

毎年のこととはいえ、一夏を無事に過ごすということには骨が折れる。そこで、警視庁機動隊では、訓練を通して、この酷暑を切り抜け、あわせて隊員間の融和を図ろうと毎年夏季に野外訓練を実施している。今年も、去る七月二十一日より八月十六日までの間に、本栖湖・梅郷の両キャンプ場にて行なわれた。

訓練の行なわれた場所は、山梨県西代郡にある本栖湖キャンプ場および青梅市柚木町の梅郷キャンプ場の二個所で、第一機から特車隊までの全機が参加し、それぞれ四個中隊に分散派遣される。いずれの場所に派遣されるかは、各中隊の選択によるが、毎年のことでもあり、前年に派遣されなかった場所に行くようである。

訓練の日数は、全中隊ともに一泊二日。また、訓練の内容は、「野外訓練日課時限基準表」に示されたことを基準にし、各中隊が計画することになっているが、各中隊ともおよそこの基準表によっているようである。それによると、初日の訓練は、

(1) 健脚訓練
(2) 無線訓練

二日目のそれは、

(1) かけ足訓練

となっている。

この訓練の内容からもわかるように、野外訓練は、通常の訓練、たとえば基礎訓練や警備技術の訓練などとはまったく趣きが異る。それは、この訓練の特徴が、自然と接して、隊員間の融和を図る、という点にあるといえよう。機動隊の任務が、集団警備を建て前としていることからも、それは大切なことであるといえる。

訓練の主目的もそうであるが、隊員間の融和を図るために、初日の日課基準表では、その目的遂行を補佐する意味で、キャンプファイヤーにかなりの時間を割いている。むしろ、訓練そのものによるよりも、こうした自由で気ままな雰囲気のほうが、かえって隊員間の融和を図るためには有効であるように見えた。

また、食事は、各中隊ともにすべて自前の手づくり。しかも、新入隊員が炊事を担当するというありきたりな仕方ではなく、むしろ上官や先輩隊員が率先して炊事をし、隊員がそれを賞味するというくらいであった。

こうして、全中隊がより大きな成果のもとに野外訓練は終了した。

野外訓練に参加して、今年で三回目を終えた隊員から、次のような感想を聞いた。

「隊舎などで行なう訓練と違って、野外訓練には独特のよさがあると思う。キャンプファイヤーをして、隊員同志がお互いに制服をぬいで語り合ったり、自分達で食事の仕度などをして、隊舎ではできない意志の疎通が図れる。ただ、残念なのは、期間が短縮されたことですね。」

今月のことば

心打つ人間のふれあい

さる五月十日、静岡県、伊豆半島を襲った地震に際し困難な救助作業と昼夜兼行で取り組んだのは、関東管区機動隊の延べ二〇〇名余の隊員であった。その懸命の救助活動に対して住民から感謝の声があがり、関東管区機動隊に内閣総理大臣賞が贈られたのは、前号でご紹介した通りである。

機動隊の任務には警備的なものと、天災・火災などの際の防災、救護といった性格のものがある。社会の秩序を維持し、市民の平安を護るため、前者のような場合に活躍する機動隊員の姿は心強く頼もしいかぎりだが何といっても、別の意味で格別に市民の心を打つのは後者のような任務に挺身する姿である。

とくに、機動隊員から直接救護の手をさしべられた被災者の人々の感謝の気持はいかばかりであろう。

そこには、任務というものの枠を超えた人間一人一人の心の通い合いがおのずから生ずるのも自然のなりゆきである。

このような任務としての救護活動はおおむねマスコミを通じて報道され、広く一般の知るところとなるが、救う者と救われる者、人間同志の感動的なエピソードの多くはついに知られることなく終りがちである。

よし、そのエピソードがささやかな内容のものであっても、そこにある暖なる心役目づくでない人間としての善意の発露、そこから生まれる心打つふれあいにこそ、私たちは私たち市民にとって真にうれしい機動隊の心意気を見る思いがするのである。

たとえば、冒頭に紹介した南伊豆地震の時もこんな話があった。被災によって交通網が分断され、孤立した村々にとって、まず死活問題となったのは飲料水であった。水道設備が破壊され、使用不能になったからである。

これに対し、機動隊では早速給水車を用意、村々を巡回した。人々は容器を持って一カ所に集まり給水車の到着を待つのである。その中に一人、足の不自由な老婆があり、その難儀する姿を見かねた一人の隊員が定めの給水車ルートから遠くはなれたその老婦人のすまいまでみずから水を運びつづけたというのである。話はそれだけだが、このちょっとした心使いが当の老婦人を含めた村人の心からの感謝を呼んだ。平素は遠い存在であった機動隊が私たちの身近な機動隊として一ぺんに親しめる存在となったのである。

語られざるこのようなエピソードはまだほかにいくらもある。そして、そのささやかなことがらの積み重ねもまた私たち市民の機動隊に寄せる何にも増して深い信頼のきづなとなるのであろう。

十月総会のお知らせ

「機動隊員を励ます会」が、三月二十二日に発足して、まだ半年足らずですが、市民がともした一つの灯として、早くも多くの方々のご支援を得、さらにその輪をひろげようとしております。

前号の紙上にて、「十月総会」開会のあらましをお伝えしましたが、その詳細が左記の通り決定しましたのでお知らせいたします。

つきましては、今回の総会招集につき、個別の案内状を差し上げないことは先にお知らせした通りですが、総会出席の申し込み書につきまして は、当会よりその旨を記した官製ハガキを会員証と同封のうえ全会員に送付しますので、出席される会員はそのハガキをご返送下さいますようお願い申し上げます。

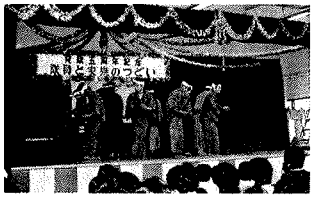
なお、会場の準備の都合上、お早目にご返送下さいますようご重ねてお願い申し上げます。

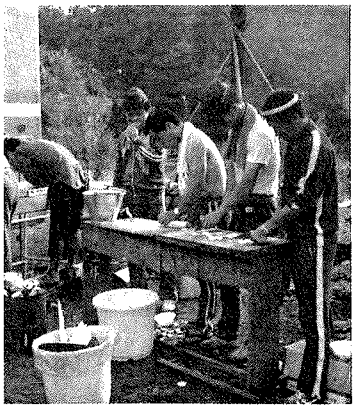
記

一、日時　昭和四十九年十月七日(月)　午後四時　開会
一、場所　半蔵門会館・大ホール
一、出席会費　千円

家族慰安会はじまる

警視庁機動隊では、毎年各機別に家族慰安会を行なっている。これは、年に一度、隊員とその家族を慰労するのが目的で、会場の選定や実施の方法などは各隊がそれぞれに趣向を凝らして実施している。たとえば先月十四日(於隊舎)に行なわれた特科車両隊の家族慰安会は、準備から後片付けまで、すべて隊員の手によって行なわれており、とくに、会場づくりには入念な手の入れようで、メインスタンドの櫓や模擬店の開設など、ムードも満点だった。内容も豊富で、家族対抗の歌合戦や盆踊りなど、隊員もその家族もほんとうに楽しいという雰囲気の家族慰安会だった。





機動隊物語

その(3)・東宝争議事件

昭和二三年五月、戦争の傷も回復せず、喧騒な世情を背景に誕生した警視庁予備隊は、大がかりな警備としては最初の東宝砧撮影所争議事件にぶつかった。

これは、首切り反対をめぐって東宝砧撮影所分会の争議が長期化し、この間、労組は、職場確保のための地位保全処分を、一方、会社側は、建物等保安の仮処分を東京地裁に申請し、その結果、八月一三日に仮処分の決定がなされた。

翌一四日の仮処分の執行に備え、労組は、支援労組など約二二〇〇名を動員し、所内にバリケードを構築するなど、執行吏の立入りを阻止した。

このため、警察官の出動要請がなされ、警備交通部長以下各予備隊が出動したわけである。

この当時の警備装備は、制服に鉄帽、警杖、防弾チョッキという程度のものであり、今からみれば、無装備に近いともいえるが、雪白の輸送車で出動する隊員の士気は、今と変わらぬ意気けんこうたるものがあった。しかし、輸送車も配備数が少なく、全隊出動の際は、借上げ車両に依存せざるをえなかった。車両としては、ほかに、オートバイ、側車、ジープなどが配備されていた。

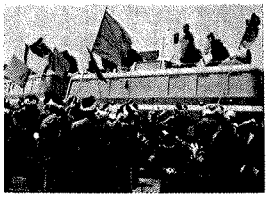
さて、午前七時、青山学院構内に集結を終えた全部隊は、総点検の後、予備隊長を先頭に勇躍現場に向って出発した。

道程は、渋谷から代々木を経て、甲州街道に入り、烏山から左へ折れ、東宝砧スタジオまでであった。

延々と輸送車をつらねて、終戦後初の警備部隊の大出動は、沿道の人々を驚嘆させた。

共産党員を先頭に、あくまで死守を装語した東宝労組も出動部隊の前に屈し、バリケードは撤去され、ついに実力抵抗をやめて、退去するに至り、支障なく、執行吏による仮執行が行なわれた。

この出動に、当時、戦車が使用されたといわれていたが、これは事実ではなく、門扉破壊のために、戦車改造の牽引車を借り上げて、帯同していたことが誤って伝えられたものである。また、内偵による抵抗武器に備えて、鉄甲、放水用具、防護用に消防用さしこなどの器具も準備携行していた。



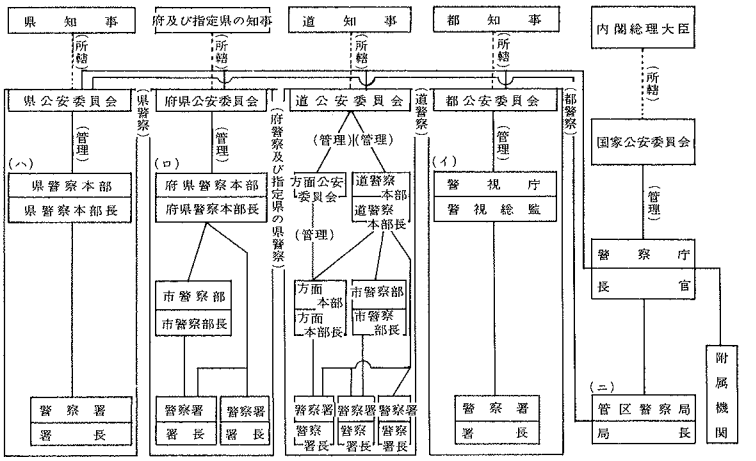
初代、土田予備隊長は、豪放な人と伝えられているが、一面、ひじょうに細心な人であり、このようにどんなささいな警備出動であっても、あらゆる場合を想定し、これに必要と思われる器具の全部をかならず準備させたのである。

この東宝争議事件に見られるように、この時代には幾多の労働争議が起ったが、これらを集約した形で生まれたのがメーデー騒じょう事件であった。

機動隊の任務と組織(III)

警察機構図

（所轄）（管理）とある以外の――は指揮監督の関係を示す。



功績を偲んで

警視庁警備部長　村上　健

故　森田氏

炎天下の八月十日、故警視庁警備部付、警視長、森田高義君の公葬が新宿区の大宗寺において、三千有余人の会葬者、哀惜の中でしめやかに行なわれました。

森田君は、昭和十八年警視庁少年警察官となり、以来、三十余年間、枢要な職務を歴任され、幾多の輝かしい功績を残されました。

とくに機動隊関係では昭和二十三年創設時の隊員として終戦直後の混乱した治安情勢下の困難な諸警備に活躍しつつ、隊の建設に尽され、また巡査部長時代も二年有余にわたり勤務して、キティ台風等の諸警備を遂行し、さらに警部時代は、第五機動隊中隊長として、昭和三十四年から三十五年の第一安保闘争警備に従事して、その名指揮ぶりを発揮したのであります。

昭和四十七年には、機動隊最高の地位である第一機動隊長となり、五月十三日、神田カルチェラタン火炎びん闘争の警備においては、統括指揮をして一三一名の大量検挙をして過激派集団に壊滅的打撃を与えたほか、神奈川県相模原に遠征して、米軍戦車輸送阻止闘争警備に卓越した指揮ぶりを発揮してその重責を完遂されました。

隊長当時、機動隊員のあり方は忍耐にあるとされ、その象徴として、忍耐の像を建立、像はいつも、玄関から隊員を見守っています。

このほか、昭和四十四年以降の熾烈を極めた一連の大学封鎖解除警備等いわゆる第二安保闘争警備や沖縄返還闘争警備において、警備部管理官、理事官、警備第二課長として、その鎮圧に挺身されました。

さらに、戸塚、本所、麴町各警察署長の職にあっては、管内の治安維持に寝食を忘れてあたり、民警一体の実をあげ、名行政官としてその敏腕をうたわれました。

隊員は困難な警備現場で指揮伺をすると、隊長は「なんということはない、自信をもってやれ」と勇気づけ、隊員は迷うことなく仕事ができたといわれています。このように難局に臨んで泰然自若とした豪胆さは、今も語り草となっています。

森田君は、高邁廉潔な人格、温和にして豪快な人柄、果断、卓越した統率力は、部下職員をはじめ多くの人々から厚い信望をあつめどくに警備警察に対する識見はいわゆる第一次安保警備以来の重要警備において遺憾なく発揮され警備の至宝と仰がれてきたのであります。

森田君は、魏町警察署長在任中、持病の胆石症が悪化して手術を要する状態であったが、金大中事件、法政大学内ゲバ事件等のため、加療を投げうち、事件指揮に当たられたのでありましたが、これが病状を進行させ、ついに殉職するに至りましたことは痛恨のきわみであります。

私どもは、故人の遺功を模範として首都治安維持に最善を尽すことを誓うとともに安らかなご冥福をお祈り致します。

会員と隊員のひろば

機動隊員に接して

前号までで、機動隊の任務と組織について、およそのことは理解されよう。そこで今回は、結びとして、警察機構の中で、機動隊がどういう位置にあるかを図示してみた。

十機ある警視庁機動隊は、図中「イ」の下にあり、四十八機から成る県警機動隊は、図中「ロ」および「ハ」にわかれて所属している。そして管区機動隊は、図中「ニ」に所属することになっている。

これら諸種の機動隊が、相互に連係をもって任務を遂行することは前号で述べた通りである。

過日、新幹線を利用して帰郷する時のこと、ホームに並んでいる私達の長い列を無視して、若者三人が、一番前に平然と割りこんできた。たまりかねて私が、再三忠告するが、逆にいきりたってくるのである。あまり関わりあって危害でも加えられたらと困惑しているところへ公安官が近づいてきたので事情を伝えた。公安官も気づいていたらしく乗車の際にすかさず彼らを制止したが、すきをみて二人は乗車してしまった。このことを公安官に伝えると、彼はすぐ車内に立ち入り若者達を立ち退かした。何でも、デモに参加している青年とのことであるが、車内で、もし、不測の事態でも起きはしないかと心配する私に、公安官は、万事手配してあるから大丈夫です、とのことだった。この時の公安官の落ち着いた言動は、当然のこととはいえ、有難いと思った。この出来事を後日、家族で話し合い、いつも危険にさらされた仕事をしている人達のことを改めて思い直した。何事でも、わが身にふりかかり、体験してみないと、物事の有難みが、わからないものである。それから一ヶ月後に夫から、「機動隊員を励ます会」に入会したことを知らされた。機動隊といえば、社会を慄然とさせる血なまぐさい事件に関連して知ってはいるが、いつも彼らが、どんなことをしているのか、知る由もなくまた関心をもとうともしなかったのであるが、逐一、夫より話を聞いている内に、新聞記事や、お巡りさんをみる目にも以前より関心の度合いが増すようになった。幸い過日、機動隊の察祭や、家族慰安会に出席する機会を得た。若い隊員の洗い晒しのゆかた姿は、夏の夜の風物詩である。母親の仕立てか、恋人のプレゼントだろうか、想像するだけに楽しい。若い女性も交じり、輪になって踊る民謡の数々は、ほほえましかった。日頃、鍛えた、逞ましい腕でかく氷の音、のど自慢の歌声にも規律ある生活の中から生まれる、ある種のさわやかさがある。年一回の察祭ならば、若者よ大いに気焔を上げて欲しいと思う。一旦緩急あれば、身を挺して闘わねばならない、怒号や、罵声を浴びても我慢しなければならない、と隊長の言葉にもあった。それなのに、私達は、ただ対岸の火事として遠巻きに眺めているだけではないか。常に陰の力となって、社会を支えていてくれる機動隊の皆さんを私達は、もっと暖かい目でみてあげたい。

人間的な触れ合いを

"市民がともしたこの一つの灯。機動隊員を励ます会発足す。"というみだしの機関紙を初めて手にした時、「正義に味方多し」の感を強め、機動隊員であることの誇りを一層高めました。

真に市民に奉仕するには、人間的な触れ合いが最も大切であることを信条としている私にとって、こんなに嬉しいことはありません。

機動隊員として数々の激しい警備現場を経験してきた私に苦しいことは多くありました。

しかし、その苦しい中にもささいなことかもしれませんが、私にとってはひじょうに大事なことでもあり、かつ勇気づけてくれたことがありました。というのは、王子斗争の頃石やビン類が飛びかう野戦病院の中で警備にあたっていた時、一人の主婦の方が危険にもかかわらず金あみごしに「ご苦労様」といって一袋のあめ玉を手渡してくれました。ある時は、真夏の警備にあたっていた時「大変ですね」といって冷たい水を持って来てくれました。私は孤独と不安のなかにありながらも、物質的な援助もさることながら、精神的な援助、つまり「ご苦労様」「大変ですね」といった音葉にひじょうに人間的な触れ合いを感じたとともに百倍もの味方を得た感じを受けました。以後今日に至るまで心の支えとして頑張ってきました。それが、今回の「はげまし」の発刊により全国の人々が自発的に入会を希望されていることを知り、このように数多くの声なき理解者と人間的な触れ合いができるのかと思うと、今までの私個人としてではなく、組織としてこれ程勇気づけられることはありません。「はげまし」の世話人の方々には深く敬意を表するとともに、会員の皆様のご好意には深く感謝し、皆様の期待に応えるべく仕事に専念するとともに、より人間味をもって人に接し、明るく楽しい社会を保持したいと思います。

第一機動隊　巡査部長　鈴木多賀子

会員告知板

会員の皆様にお願い

皆様方の厚いご支援のもとに本会もいよいよ隆盛をきわめてまいりました。ここに深謝するとともに会員の方々に次のことをお願いいたします。

会員として、また市民としての立場から機動隊についてのご意見、ご感想や機動隊とのかかわりがあった経験談、あるいは本会に関するご意見ご希望など、幅広くお寄せください。採用文については紙上でご紹介します。

なお、紙面の都合により、四〇〇字詰め原稿用紙で三枚以内とします。

寄稿歓迎

編集部では、常時、会員の皆様方からの寄稿をおまちしています。

発送事務の都合上、移転、その他住所変更等がありましたらすみやかに本会事務局（本部東京都中央区八重洲五ノ一ノ二八）までお知らせ下さい。

機動隊めぐり(3)
関東管区機動隊

東京・小平市。バスを降りると、目の前に開けた敷地に静かな中にも緊張感のみなぎった関東管区機動隊の隊舎が緑の中に見えかくれする。

ここは、関東管区の警察学校でもあるため、広い敷地の中には、体育館、教室、寄宿舎などが並んでいる。

門をくぐり、はるかかなたの連隊長室までのんびりと散策。

出てこられた野村與三一連隊長は、厳しい目の中に、学校という雰囲気のためか、柔和な暖かさが感じられる。

しかし、この連隊長さん、訓練の話となると、目の色が変ってくる。

――ごらん下さい。ちょうど今、隊員の完全装備による訓練中です――。

七月の太陽を真上にいただき、重装備を身につけて、隊員達は汗ぐっしょり。その上、大楯を手にかけ足。これを見た取材班も、いつしか手に汗にぎり、ぐっしょり。

四百名程の隊員が一糸みだれぬ訓練を続ける。

管区機動隊は、いうまでもなく各県部隊の混成部隊である。

各県部隊は、それぞれにシンボルマークを持っている。茨城県章（茨木）、那須与一のカブト（栃木）、赤獅子と上毛三山（群馬）、桜に菅（埼玉）、八犬伝で有名な里見の紋章（千葉）、鎌倉幕府の笹りんどう（神奈川）、黒獅子（新潟東）、雪椿（新潟中央）、昆（新潟長岡）、武田菱（山梨）、松本城（長野松本）、天馬（長野中央）、葵（静岡）であり、これを総括する関東管区機動隊のマークは赤ダイヤである。

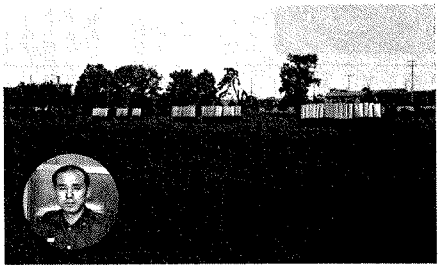
これらのマークは、各隊員の郷土意識を高め、一体感を強める。混成部隊であるための欠点、弱点を持ってはいるが、寄せ集めのための長所も多い。それは各小隊間の競争意識である。

また、年二回の入校訓練により、入校二回目、三回目ともなると、旧知の友人のようなつき合いが各小隊間にも生まれてくる。そして、実際の出動に際しても、お互いが助け合うという。

――不思議な想像もできないような仲の良い友人関係が生まれます――と連隊長さん。

――訓練のあとには、郷土のたとえば、武田節、霧の川中島などが飛び出し和気あいあいです――。

これまで関東管機は、ミッドウェー横須賀母港化反対闘争、南伊豆地震災害など数々の出動をしているが、連隊長のよくおっしゃる"赤ダイヤの下、管機は一つ"の合言葉のもとに隊員一、〇〇〇名が心をひとつに意気高く、警備に備えて心身ともに鍛えているのである。



はけまし

はけまし　第4号
発行日　昭和49年9月25日
発行所　機動隊員を励ます会
東京都中央区八重洲5－1－28
〒104　ミツヤビル3F
☎03(272)3848

警視庁 第三機動隊　われらがシンボル④

"桃太郎さん"一見してわかるマークである。
忍耐強く、気はやさしくて力持ちを地で行き、信頼される隊にと願ったものである。

多摩川堤防決壊に
いち早く機動隊救助の手

九月一日夕刻、四国に上陸した台風一六号は、中国地方を横断したが、この影響で、東京周辺の奥多摩、奥秩父に記録的な集中豪雨があり、多摩川は、同日八時過ぎ、東京都狛江市猪方で堤防が決壊、濁流が市内一部にあふれ出した。この戦後初めての多摩川決壊に、同夜いち早く機動隊が救助の手をさしのべたのである。

台風一六号の影響で関東地方を襲った集中豪雨は、平均一五〇ミリを越す雨量となり、三一日夜から増水をはじめていた多摩川は、一日午後八時過ぎ、下流の東京都狛江市猪方で堤防の一部が長さ五〇メートルにわたって決壊し、一部が市内区域に浸水をはじめた。

これに対し、出動要請をうけた機動隊では、ただちに現場に急行、周辺の住民約五、〇〇〇人を近くの小・中学校に誘導、避難させる一方、同時に救助活動にあたっていた自衛隊、地元消防団などと協力、まず、土のうを作り、これを浸水際に積み上げ、かろうじて市内に濁流が流れ込むのを防いだ。

この多摩川堤防決壊による水害は、これまでに生じたどの水害にも見られない特殊なケースといえる。

これまでの河川の決壊による水害は、どのケースにおいても、人家が堤防より低い地点にあり、濁流が市内に流れ込むというのが常であった。しかし、この多摩川の場合は、人家がかなり高い地点にあるため、一気に市内に浸水するということはなく、河川きわの人家の手前まで水が入り込み、時間の経過とともに、ジリジリと人家に向って浸食をはじめた。

そして、一軒、また一軒と水ぎわの家が地盤から浸食され、倒壊するというものであった。

このため、これまでの水害にみられるような緊迫した危機感というものがなく、傾かけた家に家財道具を取りに入るといった様子もみられた。

これを見た機動隊では、住民の置かれている危険な立場を説明、一時、家財道具を取りに帰る住民と機動隊の間で押し問答が行なわれたが、再三の説得に住民もようやく納得、安全に避難を終えた。

この一日の出動には、一、〇〇〇名を越す機動隊員が加わっている。

二日に入っても機動隊員による土のう積み（自衛隊員、地元消防団員が土のうを作り、機動隊員がこれを運び、積み上げるといった共同作業であった）、危険家屋からの荷物の運び出しが続けられた。

このような状態に、狛江市では、水の素直な流れを妨げている宿河原せきを破壊するよう都に要請、同日、七八〇キロの爆薬により、爆破作業が行なわれたが、せきは、上部をわずかに削り取られただけでビクともせず、流れは、せきに当って大きくカーブ、激流に洗われる民家近くの地盤は、みるみるうちに浸食が進んだ。

これとともに、流れをかえるため、大型テトラポットが決壊した堤防付近に大量に投入されたが、これもさしたる効果をあげなかった。

三日午前中になり、約五〇〇メートルにわたってえぐられている決壊地点にようやく補強作業の足場ができ、機動隊員、自衛隊員約二五〇人が足場に降りた。そして、土のう、石などがどんどん投げ込まれ、決壊場所には石垣が築きあげられ、補強作業に成功、水量が増えないかぎり、これ以上の川岸の浸食はないと発表、市民の間には、ホッとした表情が流れた。

そして、四日、五日にわたる三回の爆破作業の一応の成功をみ、六日には、機動隊員らの懸命の作業によって、濁流に洗われていた岸と宿河原せきをつなぐ長さ六〇メートル、高さ四メートル、幅一四メートルの仮堤防が完成、住宅地の川岸を直撃する濁流のせき止め作業が終った。住宅地をえぐり取っていた濁流の勢いは、五日ぶりにすっかり弱まり、川底に沈んでいた住宅の残がいが見えはじめた。

これとともに同市福祉会館で不安な生活を送っていた住民達の顔には、安堵感があふれ、順次荷物の運び入れがはじまった。

機動隊では、この後、復旧作業にとりかかり、この作業は九月まで続行された。

この災害に、八日間、延べ三、五〇六人の機動隊員が出動した。

めずらしいケースの水害ということもあって、救助作業が思ったほどはかどらなかったが、不眠不休のこの救助活動に地元からは、深い感謝の声があがっている。

今月のことば
たよれるということ

そのとき有楽町駅から丸の内方向に向っており、爆発現場からざっと七～八百㍍のところを歩いていた。音響と白煙とキラキラ降り落ちるガラスの破片をみて即座に一体何がおきたか皆目見当もつかなかった。

しばらくしてガス爆発かとは思ったが、かけよってみてにわかには信じがたい状況をみた。

その後のことは新聞、テレビで詳しく報道されたのではぶくが、災難にいつ出合うか判らないもので、急いでおれば、いや信号待ちしなければ被害者の一人になっていたはずと冷汗三斗だった。

それにしてもだれが何のために、なぜと怒りが先に立つ。

警察当局の努力によって、この憎つくき犯人、何としてもつきとめてもらいたいものだが、今まで、アイルランドにおける無差別街頭テロ、米国における白昼の銃撃戦も日本とは無縁のものと思っていただけに、日本もここまできたのかといささかの情なさがある。

事件発生直後にはパトカーが雲集した。

機動隊も立川市における日教組大会を警備している第七機動隊をのぞいて一一九機それに特科車両隊合計一千二百名が出動した。

負傷者の救護、搬出、集り出した群衆の整理に当って手際よく誘導していた。

何があったんだと執ように聞く人、約束したんだから通してくれとたのむ人、警察は何をやっていたんだという人、さまざまの質問を若い隊員が落ちついて要領よくさばいていたが、その態度は毅然としており爆発現場の三菱通りには誰れ一人入れなかった。

二発目の爆発事故も予告されていたという状況で機動隊の出動が遅れていたら犠牲者はもっとふえていたに違いない。

群衆の多くはというよりも国民大衆のほとんどが機動隊と直接のかかわりをもつことは少ない。

それ故に身近かでないことからくる無関心さがある。

天災や人災にあって、つまり我が身が痛い思いをしてはじめて有用さを思い知る。

その意味では、イザヤベンダサンのいう水と安全を只と思っている日本人感覚は指摘の通りだろう。

だが、本当は一般大衆が曲がりなりにも平隠な生活を維持し安隠な日常を楽しんでいる陰で、黙々とこれを支える人々の存在を忘れてはなるまい。

丸の内事件で出動した機動隊員は約一千二百名。

立川市に出動している第七機動隊をのぞき非番の隊員、つまり前夜勤務体制にあった隊員も出動した。そして危険もかえりみず第一線にでて警戒に当る。

それが任務というのは易しい。

だが誰かがやらなければならないこの危険な仕事を任務として当然のように行なっている人々の存在に我々は思い到らなかったと思うことしきりだ。

万人に一人の不心得者のために災難がいつ起るかわからないことは覚悟するとしても無差別テロはどうにも我慢できない。

亡くなった八名の方にしろ二百人を超す負傷者にしろ、これでは大死であり憤怒のもっていきようがあるまい。

もともと一旦事あるときに出動する機動隊は、トマをもて余して困る世の中になることが理想だが、現実は逆で警察も、機動隊も益々多忙となりそうな情ない世相。ご苦労さん。たのみますよというほかはない。

十月総会のお知らせ

二号および三号の紙上にてお知らせしました十月総会の開催日が近づいています。つきましては、先に送付しました総会の出欠葉書を至急ご返送下さいますようお願い申し上げます。

記

一　日時　昭和四十九年十月七日（月）
一　日時および要領　午後四時より総会、午後四時三十分より懇親パーティー。
一　会場　半蔵門会館
一　出席会費　千円（当日会場にて納付）

納涼大会なごやかに開かる

去る八月二〇日、警視庁第三機動隊において、隊員と家族の納涼大会が、和気あいあいのうちに開かれた。

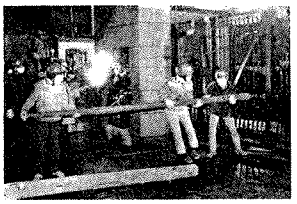
これは、日頃辛苦の多い隊員の家族を慰労し、隊員の慰安も兼ねたもので、隊庭に椅子が並べられ、青空の下、なごやかな雰囲気であった。

隊長、来賓のあいさつに続き、隊員と家族ののび自慢大会、母親の姿を気にしながらほほを真赤に染めて唱う三人姉弟、赤ん坊を抱きかかえ、じっと見つめ合って唱う若夫婦など皆せいいっぱいに、たのしい歌合戦であったが、圧巻は、森進一の真似をした隊員、身ぶり、手ぶりまでそっくり、口をへの字に曲げ、顔面を真赤にして唱う姿に、満場大喝采、結局優勝をさらった。

この後、場所を訓練場に移し、盆踊り大会となった。会場の周囲には屋台が並び、おみこしも登場。踊りは八時すぎまで延々と続けられた。

機動隊物語
その④・メーデー騒じょう事件（前）

終戦後の混乱が今だに続く昭和二七年に、それまでに勃発していた一連の労働争議の集約として起ったのが、五月一日のメーデー騒じょう事件であった。



二七年五月一日の第二三回メーデーは、明治神宮外苑に約一五万名が集合、集会の後、中部、南部、東部、北部、西部の五地区に分かれ、デモ行進が行なわれた。

このうち、中部地区には三万三、〇〇〇名が参加、青山一丁目→永田町→首相官邸→日比谷公園のコースで行なわれたが、午後零時すぎ、デモ出発間もなく、北部地区参加予定の全学連、朝鮮総連、その他極左分子三、〇〇〇名は、「人民広場へ行こう」などと叫んで中部地区に入り、赤坂郵便局付近からデモの先頭に出て以後先頭集団で進行した。

警備にあたる警視庁予備隊の装備、服装はと見ると、今の装備と比較すれば、まことにお粗末だった。

先頭に白バイ、二番目に副隊長同乗の側車付自動二輪車、そのあとに真白な輸送車が二台も続いて走行すれば、それこそ威風堂々の大部隊であり、これをさらに鼓舞するため、「手まわし」のサイレンを力いっぱい回して出動した。

当日の服装、装備を列挙すると、戦時中作られた思われる鉄かぶと、開襟シャツで当日衣替えた黒色合服、帯革、警棒、手錠、編上げ靴、弾六発装てん、一二発携行で中隊員の三分の一だけがけん銃を携行、手投げ式、点火してからしばらくして発煙し、投げ返されると部隊の方が被害甚大になるという催涙ガスを小隊に十発程度というものであった。

さて、この間進行中の駐留軍車両等に投石し、制止しようとした警官に、プラカード、竹やり（戦時中の名残りであろう。今ならばさしずめ鉄パイプといったところか）等で殴りかかるなどの暴行を行ないながら、日比谷公園に到着した。南部地区では溜池交差点にさしかかった際、国会方向へ路線変更しようとしたが、部隊に阻止されている。この頃から、プラカードのない角材、竹等の所持者が目立って増加した。

解散地に到着したデモ隊は、全学連等約三、〇〇〇名を残し解散したが、彼らは場内デモを行ないながら、皇居前広場へ突進する気配がみられた。

このため第一方面警備本部長は、公園各門に部隊を配備した。

午後二時頃デモ隊は一団となって気勢をあげ、こん棒、竹やり等を手にして「人民広場へ」と叫びながら、日比谷門の部隊に激しく抵抗して阻止線を突破、ついに、二重橋で、あの大惨劇をくりひろげるに至ったのである。

会員と隊員のひろば

楽しかった納涼祭

機動隊員と言えども所詮一人の若者「デートの一回も」とは、思っているものの、平素なかなかそのチャンスに恵まれない。女性との会話も最初は、ぎこちなかったが、懇談するうちに和気あいあいのムードとなり、イエローファイターズの演奏する軽快なリズムにのって踊りや歌が飛び出し会場は、いやがうえにも盛りあがっていった。

私は、これで三回目の納涼祭を迎えたが、今回ほど有意義なものはなかったと思う。

というのは、例年の招待者のほかに、「機動隊員を励ます会」から鵜川夫人、模本御夫妻、大沢御夫妻に御出席をいただいたことである。

私は、この会の発足を知った時、「私達機動隊員を心から理解して下さる人がある」と感激したものであるが、直接、両御夫妻から激励の言葉をいただき、隊員一同非常に力強いものを感じた。招待した女性との何となくユーモラスな格好のダンスや演芸にも、終始愛情に満ちたほほえみをうかべて接して下さった鵜川夫人および両御夫妻。

私は、この納涼祭を通じて寄せられた多くの励ましに、あらためて機動隊の任務の重要性を感じた。いつまでも、両御夫妻の愛情に満ちたほほえみを忘れることなく、我々にかせられた使命を果たしていくことを肝に銘じながら楽しかった納涼祭を振り返っている。

第二機動隊　椎葉献一

私たちの頼もしい味方

去る八月のむし暑い一夕、警視庁第三機動隊の家族慰安会にお招きを受けて参加する機会を得ました。会員になっている私にとっても初めての事で、多少かたくなりながら、正門に入ると広場の右手に飾りつけも華やかに舞台が整い、その前にご家族のお年寄り、奥様方、幼い子供さんたちの待遠しげな姿がありました。

やがて会が始まり、アットホームな雰囲気に溶け込み、私もいつの間にか家族の一員になった気持で歌を口ずさみ、手拍子を打っていました。ノド自慢が終ると第二の会場で盆踊りです。四方にできた模擬店はすべて隊員の方々の手づくり、そして勇壮なおみこし。そのはつらつとした隊員の方々を見て、何か事が起こるに際してこの若さ、このエネルギーが国民を平和に守って下さっている源なのだと感じました。

私たちにとって制服を着ている人たち、とくに警察官は正直にいって、必らずしも親しみやすい存在ではありません。同じ人間同志の親しみよりも、どうしてもお役目の方が先に立ってしまうからでしょうか。

それがこうして縁あって機動隊員を励ます会の一員となって家族慰安会などにも出席させていただくようになり、裸の姿に接してみると、にわかに身近に感じられるようになりました。

そんな折、こんなことがありました。夏休みを利用して長野へ行ったときのことです。主人が手にけがをしたため、かわって私が久方振りにハンドルをにぎり、帰路中央高速を出てほどなく、パトカーにつかまりました。「ここは何キロで走っていいのか知ってますか。貴方はご自分が何キロで走ったかわかっていますか」。永い運転で疲れ気味で走っていたので何キロのスピードオーバーかわかりません。警察官は事情を察した上で、この先はきちんと守って帰るよう注意され去って行きました。私は心より感謝しながら無事安全運転で帰宅しました。これからは本当に気をつけよう……。

ドライバー心理として、パトカーや交通取締りのおまわりさんは、「感謝の対象」というよりはむしろ警戒？の対象であるのが普通です。ドライバーの方ならどなたも同感でしょうが、私もそれまではそんな目でしか見ていませんでした。それが、このときは、パトカーが私たちの安全を守る頼もしい味方のように思われました。同じおまわりさんでも、人によってずい分違うことは事実です。このときのおまわりさんが、とても情味のある感じのよい方だったせいもあるでしょう。

でも、何より嬉しい気持ちでいっぱいです。日頃鍛えし体力と気力をもって、挑戦し任務を果たしたのです。

苦労さま――そんな気持でした。市民のだれもがこんな気持で警察の人々と結び合えるようになれば、きっとだれもがもっと安心できる明るい世の中になるのではないでしょうか。そのために私も私のまわりの知人、友人、一人でも多く理解してもらって私達の〝機動隊を励ます会〟に入会してもらい、お役に立てるよう心がけていきたいと感じました。

以上の事柄は一都民の小さな出来事で機動隊の皆様には直接関係のないことかも知れませんが私達一般人は案外こんなちっぽけな事柄から結びついて行くものです。ともかく心身共にご苦労なお仕事ですが頑張って下さい。

大田区西蒲田　北村和子

機動隊懸命の救助作業
――三菱重工爆破事件――

去る八月三〇日昼すぎに東京・丸の内の三菱重工ビルで起きた爆発事件で、機動隊が出動、救助作業、現場の整理、事件後、現場の昼夜兼行の警戒にあたった。

この爆発で現場の周囲約二〇〇メートルの範囲にわたって厚いビルのガラスが飛び散り、即死の六人をはじめ、八人が死亡、ガラスの破片により約二九〇人が重軽症を負った。

事件直後、出動要請を受けた警視庁機動隊では、血にまみれた人の救出、三菱重工近辺の丸の内の交通規制などを行ない、事件後の三週間をすぎた今でも、事件現場をはじめ、丸の内付近の警戒を続けている。

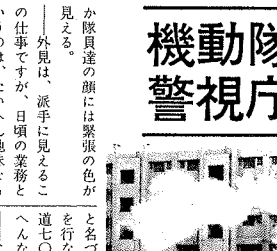
機動隊員明治座観劇会に招待さる

去る八月十日・十三日の両日、警視庁機動隊員およびその家族等約四百名が、「天知茂公演」の明治座観劇会に招待された。

これは、「機動隊員を励ます会」の会員である五十鈴鋼材㈱および谷本鉄鋼㈱の両社が社員および家族への慰安として催した観劇会に招待したもの。

観劇会に先立ち、当会の大内代表世話人が挨拶し、こうした機会を提供した先の両社に謝意を表わすとともに、招待された機動隊員等に対して日頃の警備・救護活動の労をねぎらい、重ねて激励した。その中で、「こうしてくつろいだふん囲気で観劇を楽しめるということは、酷暑に耐えてそれぞれの任務にあたっている他の機動隊員がいればこそ」といった言葉に、一方では社員が機動隊の幅広い任務を知り、改めて機動隊との身近かなことに意を強くすると同時に、他方では機動隊員がその任務に対する深大な理解と激励とに肝銘した。

また、この観劇会に招待された機動隊員より、当会に多数の礼状が送られてきている。



非番員招集
警視庁警備部参事官　北出忠光

八月三十日午後〇時四十五分、「ドカーン」と土軸を揺がす大音響は都心一帯を一瞬どきりとさせた。

警視庁本部において同様であり、入ってきた「三菱重工本社前爆発事件発生、死傷者あり」との第一報は大きく緊張させた。

間髪を入れず機動隊には、レスキュー一一〇（機動救助隊）を先駆けとして在隊部隊全員に緊急出動命令が下され、ただちに現場に出動した。

つぎつぎ入る現場からの報告は、余りにも被害が大きいこと、また子告電話があったことからみて、ある応急措置として、隊員輸送車をこれに早変りさせて警察病院等へピストン輸送を行なった。

隊員は鮮血にまみれて、この寝員達は、午前十時ころ勤務解除となって二時間余休養をとったのみであったが、ただちに、それぞれの隊に参集出動し、本隊と合流現場で活動に当ったのである。

現場は、すでに報道されているように、東京のビジネスセンターの丸の内伸通りの三菱重工ビル前玄関先であり、附近一帯の路上は破損したガラスの海となり、一瞬にして死者八人、負傷者二百四十八人の地獄絵と化していた。

到着した隊員は、ただちに負傷者の救護にあたったが、救急車では間に合わず、救急車の数は不足の状況であった。

この場合も前日朝から二五時間の勤務を終了した隊員を臨時に招集して警備に従事するもので、治安維持の集団警備力としては重要な意義をもっている。

この「非番員招集」というのは、三菱重工ビル爆発事件のような場合はもちろんであるが、その他最近における内ゲバ事件のような突発事案発生のとき、緊急に隊員を招集して部隊編成を行なう場合と、予定されている大警備の場合、計画的に事前に指示し、定時に招集して部隊編成する場合の二つがある。

いずれの場合も前日朝から二五時間の勤務を終了した隊員を臨時に招集して警備に従事するもので、治安維持の集団警備力としては重要な意義をもっている。

こうした応急救護措置をとるとともに、現場保存のためのいわゆる非常線の設定や、群衆の整理、現場附近に何喰わぬ顔をしてこの状況を見ているかも知れない犯人の捜査、あるいは被害調査等々の活動を行なったのである。

さて、このように機動隊員は、「非番員招集」を受けることが多い。

この「非番員招集」というのは、三菱重工ビル爆発事件のような場合はもちろんであるが、その他最近における内ゲバ事件のような突発事案発生のとき、緊急に隊員を招集して部隊編成を行なう場合と、予定されている大警備の場合、計画的に事前に指示し、定時に招集して部隊編成する場合の二つがある。

いずれの場合も前日朝から二五時間の勤務を終了した隊員を臨時に招集して警備に従事するもので、治安維持の集団警備力としては重要な意義をもっている。

この「非番員招集」は爆弾事件の硝煙未だ去っていない九月一日に再び発令された。今度は水害警備である。

すなわち。二百十日台風十六号は、四国から日本海へ去ったのであるが、七百キロ以上離れた関東地方にも記録的な大雨を降らせ特に西部山岳地帯は五百ミリの集中豪雨となった。

この豪雨は、多摩川上流の小河内ダムを満水にして放流させ、さらに午後七時すぎ、狛江地区の多摩川堤防を決壊させて、十九戸、二十五世帯を濁流の中に呑みこんでしまった。

機動隊は非番隊員を含め大部隊を急拠編成して避難誘導や浸食されつつある堤防に土のうを積み徹夜の作業を実施したのである。

機動隊非番員にとっては爆発と洪水というダブルパンチ的試練を受けたのであったが、いずれも、日頃鍛えし体力と気力をもって、挑戦し任務を果たしたのである。

会員告知板

会員の皆様にお願い

皆様方の厚いご支援のもとに本会もいよいよ隆盛をきわめてまいります。ここに深謝するとともに会員の方々に次のことをお願いいたします。

発送事務の都合上、移転、その他住所変更等がありましたらすみやかに本会事務局（本部東京都中央区八重州五ノ一ノ二八）までお知らせ下さい。

寄稿歓迎

編集部では、常時、会員の皆様方からの寄稿をおまちしています。

会員として、また市民としての立場から機動隊についてのご意見、ご感想や機動隊とのかかわりがあった経験談、あるいは本会に関するご意見ご希望など、幅広くお寄せください。採用文については紙上でご紹介します。

なお、紙面の都合により、四〇〇字詰め原稿用紙で三枚以内とします。

★★★

機動隊めぐり(4)
警視庁第三機動隊

――〝埃（ホコリ）の三機〟と昔は、冗談半分に言われたように、このへんは広漠とした所でした。そのせいもあって警視庁機動隊の中でも、一番ゆとりのある隊舎、隊庭を持つことができました。〝ホコリの三機〟も今では、胸はって〝誇りの三機〟と言えます。――とは、〝埃〟どころか顔は日頃の訓練、警備のためか、真黒にやけ、テカテカと黒びかりしている警視庁第三機動隊、有田富可隊長さん。

音をたてて降りしきる雨の中、忙しく車両が行き交う。ちょうど多摩川水害救助、立川日教組大会警備など、いくつかの警備が重なり、心なしか隊員達の顔には緊張の色が見える。

――外見は、派手に見えるこの仕事ですが、日頃の業務というのは、たいへん地味なものです。そういう意味で、日頃から、隊員達には「明るい職場づくり」ということを目指させています――。

この明るい職場づくりに役立っているのが、三機に置かれた警視庁ラグビー部。昭和三七年に生まれた同小隊は、現在小隊長以下二九名、関東社会人ラグビー連盟の一部に属し、その実力のほどは、リコー、新日鉄釜石とともに、東日本のビッグスリーにランクされ、今年の社会人ラグビー東日本大会においては、宿敵リコーを破り、念願の初優勝を果たしたのである。

――三機は、たいへん環境に恵まれています。一個隊として独立した隊舎を持ち、広い訓練場と……それに近隣に対抗隊がないため、のんびり、穏やかといった世評もありますが、広い訓練場では十二分の訓練ができ、隊にまとまりと強い団結心が生まれます。そして、ひとたび警備となれば、のんびりどころか、とても結っこい根性を発揮します。

隊内ばかりでなく、地域住民とのふれ合いによる明るい社会づくり、そして少年の健全育成に資することを目的として「駒場少年柔剣道クラブ」と名づけて柔剣道の指導訓練を行なっている。会員は、柔道七〇名、剣道八〇名とたいへんな盛況ぶりである。

――ここのところ、日教組大会警備、多摩川水害警備、そしてもうすぐ中国展の警備と続きます。中国展の話がでましたが、いわゆる重要防護対象として、中国大使館があるのですが、三機が来てくれれば安心といわれるほどの信頼を受けています。

このようにして、隊内の団結はもちろん、一般市民との融和をはかり、信頼される機動隊目指して、毎日、焼けつく太陽の下、訓練にはげんでいるのである。

はげまし

はげまし　第5号
発行日　昭和49年10月24日
発行所　機動隊員を励ます会
東京都中央区八重洲5ー1ー28
〒104　ミツヤビル3F
☎03(272)3848

警視庁
第4機動隊

われらがシンボル⑤

愛情を示す円形に、一本角を幾何学的にあしらったマーク。その意味は“仏の四機„“鬼の四機„を表形し、全体の形は“学問の四機„を示している。

盛り上る市民の善意

「機動隊員を励ます会」臨時総会開く

去る十月七日、東京・千代田区の半蔵門会館で「機動隊員を励ます会」の臨時総会が開催された。既報のように、設立総会をかねた第一回総会は今春三月二十二日に行なわれているが、その後、会の趣旨の浸透とともに、会員数はうなぎ上りに増加し、東京はもちろん、名古屋、大阪、九州などでの地域的なひろがりもいちだんとすすみ、全国的な市民運動としての発展期を迎えようとしている。そこで、この段階で一度全会員に呼びかけて一堂に会する機会を設け、活動、運営状況の中間報告を行なうとともに、会の精神のいっそうの高揚を図ることになったもの。

ただいま二千十名

「機動隊員を励ます会」の臨時総会および懇親パーティーは、会場に三〇〇名の会員と槇野警視総監はじめ警視庁、警察庁関係者と機動隊員など五〇名を招き、盛大に開幕した。

司会の鈴木　実氏の開会の辞のあと、代表世話人の大内俊司氏が満場一致で議長に推挙され、まず冒頭のあいさつを行なった。

その中で、十月五日現在で会員数が設立総会当時の約六倍の二、〇一〇名に達したことが発表され、会員がまとまった数に達した大阪、名古屋などの地域における時期を選んでの発会式開催の予定も示唆された。

ついで、議長の指名により松田太刀雄氏が会計報告、満場一致をもってこれを承認した後、再び大内議長からこんごの事業計画について、従来行なってきた各機動隊行事への激励参加、機関紙発行などに加え、機動隊員傷病者、殉職者への見舞い弔慰基金の設定に関し、目下細則の検討がすすめられている旨、説明があった。

以上をもって総会を終了、ひきつづき懇親パーティーに移った。

結び合う懇親のうたげ

総会終了と同時に、満場の拍手に迎えられて、警察庁、警視庁、機動隊関係者が入場ます会員を代表して、東京から村山文雄氏、大阪から石原幸男氏がそれぞれ励ましのことばを述べた。

これに対し、槇野警視総監が来賓を代表してあいさつ、ついで小川雋三氏の発声により乾杯、これより和やかな懇親の宴に移った。

宴なかばにして、この日出席した会員の一人で、テレビドラマ「非情のライセンス」で主人公の会田刑事を演じて茶の間をわかせている人気タレント天知　茂氏が歌を披露し、喝采を浴びた。

会場には、機動隊十個隊各隊代表者の手になる玄人はだしの油絵の力作と最近の機動隊員の活躍ぶりを伝える写真パネルなどが展示され、会員隊員打ちまじっての懇親のふんいきを盛り上げ、かくて九州の会員を代表しての森山満治氏の音頭による万才三唱を最後に、この臨時総会は設立総会をしのぐ盛況のうちにその幕を閉じたのである。

共感呼ぶ市民の声

そこかしこにできた歓談の輪をぬって、出席者に感想をたずねてみたので、そのいくつかをご紹介しよう。

最初からの会員で、設立総会にも出席したというS氏は「総会や各機動隊の催しなどに出席し、素顔の隊員に接する回を増すたびに、いわゆる人間機動隊への親しみを感ずる。とくに、今日、この会場に飾られた絵を見てもわかるように、職務以外の趣味の分野でも実に立派な才能をもった人たちが多くいることには驚かされる。職務一点ばりのきびしさばかりでなく、人間としての豊かな情操面の涵養にも十分留意されている機動隊のあり方というものがそこにうかがわれ、古いことばでいえば文武両道というのか、花も実もある人間の集りというところに、かえって深い信頼感を覚えさせられた」と語っている。

また、最近入会し、はじめて総会に出席したO氏はつぎのようにいう。

「日本には、自分の仕事や利害から離れた純粋の社会活動市民活動を生活の一部としてもつ習慣があまりないようだが、税金を払っているだけで公民のつとめはすべて果たしているとしてすましていてよいものではないと思う。最少限のことだけすましていれば よしというところには、真の社会道徳、市民倫理は育たない。少しでも余裕のある人は世の中の役に立つことに積極的に参加し、人まかせでなく自分たち自身の手によりよい社会を護り育てようという意識をもつことが大切と思う。そんな意味でこの会に参加させてもらったが、世の中にはその意志はありながら、自分から何かを始めようというほどの勇気も実行力もない人も数多くあろうから、そうした人々に呼びかければこれは一つのよい機会になるだろう。いずれにしてもこのような会を実現させた人々に深い敬意を表したい。」

この日出席した数少ない女性会員の一人、Kさんは、「隊員の方々はみんな若くて素朴で純情な青年ばかり。皆さん、ご両親や奥さんや恋人がお仕事の性質上どんなにご心配なさっていることか。それでも私たちみんなのためにたとえ危険なことでもだれかがやらなければならないことを代ってして下さっているご苦労に本当に感謝し、せい一ぱい力づけてあげたい気持です」といかにも女性らしい感想をもらしていた。

このような会員の声に代表されるように、時とともにつのる市民の善意の集まりが、「機動隊員を励ます会」をますます盛り上げていくことであろう。

今月のことば

長島選手と「誠意」

ご年配の方々なら大ていご存知だろうけれど、近ごろすっかり忘れられてしまった言葉に「気ばたらき」というのがある。

どうも、この言葉の持つさまざまなニュアンスを正確に説明することは大へん困難なようであるが、まあ、つづめていってしまえば「なんでもない顔をして、他人が本当に必要としていることを、目立たぬようにサッとやってしまうこと」とでもいえようか。

つまり、本当の意味での人と人の心のふれ合いを大切にする、ということにも通じるわけだが、こういえば、なるほど、現代はたしかに「気ばたらき」が欠如している、とご納得いただける方も多いと思うのである。

どちらかといえば、この「気ばたらき」は女性の挙措について用語のようであるが、実はこの言葉、病める現代日本にとっては、もっと広い解釈と語感をもって響いているように思えてならぬ。

――タクシーに乗ればロクに返事もしない運転手。レストランではウェイトレスが、ベチャクチャと同席とおしゃべりを交しながら、ガチャンと音を立てて皿を無造作においてゆく。金を貸したらいつまでたっても返そうとしない男、そして罪もない人々を殺傷して、なおそのおぞましい行為を繰り返す暴破チロ犯人たちにいたるまで……お年寄りのせりふではないが、近ごろの世の中どうも何かが不足しているのである。

きりげなく人のために尽すということの大切さを誰しもが痛感しながら、そのくせイザわが身となると、なかなかそれが身につかぬ……たしかに一面のみを捉えていえば、最近の世相にそのむかしのあの陰湿ともいえるような情念が見当らぬことは、人間関係の近代化にとっては大きな前進といえよう。

しかし反面、人の誠意を素直によろこぶ当然のことが失われてゆくことは悲しくも淋しいことである。

ところでいろいろ好ましくないことのみ多い近ごろ、スカッと澄みわたった秋の青空のように爽やかだったのが、長島選手の引退だった。ジャイアンツのファンならずともあの燃える男の涙は文句なしに人の心を打つものがあった。

それは、たんに十七年間を野球一筋に賭けた男の魅力ばかりではなく、人々はそこに一人の男の「誠意」のようなものを見出すことによって彼の引退に心ひかれるものを感じたのではあるまか。

話がいささか飛躍はするがこうした「誠意」の集まりというか、権化というか、そうしたものをわれらの機動隊にも見ることができるのである。

綿の下の力持ち、といってしまうと何となく気休めに聞こえるけれど、やはり一人一人の機動隊員の心情をこそもっと理解したいものである。そしてそこには義務感ではなくむしろ男性の「気ばたらき」的なものがあるように感ぜられる。もちろん、隊員諸氏はそんなつもりは毛頭ないに違いないが――。

だからこそ、ひとたび事件が起きた際の機動隊員のあの職務への異常なまでの責任感に寄せる人々の感謝のまなざしは、とりもなおさずあの長島選手の一挙手一投足を見つめるファンの眼のそれと、何かしら共通点があるような気がするのである。

機動隊物語

その(5)　メーデー騒じょう事件(後)

暴徒化した集団は、日比谷交差点から、午後二時半頃、馬場先門皇居外苑入口に配備中の第一方面予備隊の阻止線を突破、喚声を挙げて二重橋に殺到し、入口車止めの木柵を引き倒し、十数名が二重橋の手すりにあがって赤旗を振り気勢をあげた。

これに対し、一予備二個中隊が急拠支援し、第一方面予備隊とともに規制したが、約三千人の集団全員が、竹竿、プラカードの柄で作ったと思われる棍棒（当時の名称、今でいえばゲバ棒）を持っており、竹竿は見れば、先端をとがらした竹ヤリ、棍棒は、先端に五寸釘を打ちつけ、突き刺さるようにしたものであり「ウォー」と両手をあげて喚声をあげると、まさに竹林、山林のように見えた。一瞬隊員達の胸には異様な恐怖感が横切った。

これら暴徒の一部が祝田警備派出所を襲撃、ボックスを押し倒し、打ち壊した上、勤務中の巡査二名に重傷を負わせ、けん銃を奪取した。

このため、皇居前においては、催涙ガスを使用し、祝田町警備派出所先銀舎台付近まで規制排除した。

しかし、暴徒は一たん後退したものの再びその勢力を増し、棍棒、竹ヤリ、投石等で激しい反撃に出てきたため、部隊のうち数名は命令によりやむなくけん銃を使用した。

何回目かの攻防が終り、馬場先門方向から進入した集団と、祝田橋方向から進入した集団が合流して約六、〇〇〇人となり、集団全員が手に手に武器を所有していた。

警察部隊も増援隊が到着して、広場側、お堀側でそれぞれ態勢をたて直し、互に動向注視の緊迫状態にあったとき、対象集団のほぼ中央部付近でとつぜん大太鼓が鳴り出した。

「ドーン、ドーン」と長打のときは、それに合わせてじりじりと部隊に肉迫し、「ドン、ドン、ドン」と短打のときは、歩速をゆめて攻撃をかけるなど、一糸乱れぬ行動をとったのである。

この直後の接触で大太鼓をいったん警察部隊で押収したが、多勢に無勢、再び暴徒の手にわたってしまったのである。

午後三時頃に至り、南部地区に参加した一、〇〇〇人の集団も丸の内部隊の警戒する桜門を突破し、皇居前に乱入した。

ここで群衆は、七、〇〇〇名にふくれあがり、部隊に対し激しく抵抗した。

これに対し、急拠部隊（七予備約三〇〇名）を増強し、部隊はやむなく催涙ガス、およびけん銃を使用し、暴徒を祝田橋方向、楠公銅像付近より馬場先門方面に規制、午後四時二〇分頃、皇居前広場より完全に排除制圧した。

会員と隊員のひろば

都民の理解と協力を

警視庁 第三機動隊　柳沢　成光

日本人の警察観は、「空気の如く、水の如くそして社会生活上に不可欠のものとして信頼している」というのが一般的であるといわれている。

新警察法施行二〇周年を迎えた今日「民主警察」は定着したと見ていいのではなかろうか。

そこで私達が平素の勤務において「民主警察」となるためどんなところに、細かい神経を駆使しているかの一端を紹介することとした。

当隊は、昨年五月から本年一月までの間、重要防護対象である「中国大使館」の警備を担当した。

勤務環境は余りよくない中で一歩誤まれば国際問題化は必至という重要な任務であったが、この間ひとり一人が重要性を認識しその任務を全うした。その陰には、付近住民とのスキンシップがより効果を高めたと認められる。

◎　常に朝夕のあいさつはこちらから

◎　勤務、待機場所付近の清掃は入念に

を合言葉に我々は警戒警備に従事した。

住民には、交通規制その他で多大の迷惑をかけたにもかかわらず付近住民からの物心両面の激励は二三五件にのぼった。炎天、そして厳冬下、昼夜の別なく勤務した私達の士気は盛り上った。

それは、私達の良好な勤務姿勢のみによる結果とは決して思わない。

所轄署のCR活動はもとより、住民の警察活動に対する感謝の念と惜しまぬ協力と、私達のちょっとした心くばりが一致したことによるものと思っている。警察活動は、ただその目的を達成するだけでなく、それに到達するプロセスの中で、地域住民の理解と協力を得る面にウェイトを置くことによって、警察の力が最高度に発揮され、その目的を達成することができるのではなかろうか。「民主警察」の完成は至難の業かも知れないが、それに近づく努力を惜しんではならないと思う。

機動隊員と国民とのパイプ役として「励ます会」が誕生した意義は大きい。私達は、この会の期待を裏切ってはならないことを肝に銘じ、社会の平穏維持につとめる義務を負っている。

機動隊員の心を支えるもの

警務部参事官第二方面本部長　大高時男

日本人ほど「安全」と「水」について、無関心な民族はないといわれて久しくなります。今日「水」については、大都市の河川汚濁が問題となって以来、国民一般に生存に不可欠な貴い資源としての認識が広がりつつあります。しかし、組織体としての人間社会、すなわち国家の生存に不可欠な「安全」についての認識は依然として乏しく、時にはこの「安全」を破壊することが、国民の幸せにつながるかの如き論議も一部には堂々と語られているのが実情であります。このような感覚は、ヨーロッパや、アジアの諸国のように、地続きの民族国家が長きにわたって相争った歴史を持つ国民には到底理解し難いことで、今日、自衛力の問題をはじめとし、内政、外交にわたって国民のコンセンサスが得られない諸問題が簇生する理由もこのあたりにあろうかと考えられます。

このような「安全」への無関心は、四面海に囲まれ、単一の民族としてその生存を脅やかされることがなかった事実も、大きな背景となっていますが、明治以来今日に至るまで、敗戦直後の未曾有の混乱期においても、各戸に武器を持ち、自らの力で家族と財産を守るという潮戸際の状態がほとんどなかったこと、すなわち治安が良好であったことが、皮肉にもその原因となっているともいえるのであります。これが一種の信仰といえましょうか、いかに極端な言動を弄しようとも、少なくとも自分が現在享受している平穏な生活が破壊されることはないとの錯覚を生み、一部に治安維持への努力を正当に評価しないのみか、これを阻害しても自らには影響はないとの甘えを育てたのではないでしょうか。もとよりこのような安全な社会をつくるため、過去、現在において物言わぬ数多くの犠牲と献身があるわけでありますが、警視庁機動隊もその一つといえるのであります。今日わが国の警察、とくに警視庁が、急テンポに展開する内外情勢と権利主張のみに走り易い風潮の中にあって頻発する各種集団のあつれき、広域、スピード化する犯罪、災害の大規模、複雑化等々をコントロールし、諸外国の注目を受けてきたのは、個々の警察官の資質、能力、あるいは警察各部門の有機的連携もさりながら厳しい規律に貫かれたダイナミックな集団警察力としての機動隊の存在に負うところが大きいのであります。

機動隊の隊員は市民の安全のために、敢えて身を賭することを決意し、極左暴力集団の鎮圧から住宅街のパトロール、レスキュー活動に至るまで、黙々として多様な活動を展開しておりますが、やはり現代に生きる多感な若者であります。一部の為にせんが為の非難はもとより、投石、火えんびんの雨にもたじろがない精強の隊員も、治安についての安易な考えからくる一般の人々の無関心、一部の人々の心ない言葉には、やり場のないいらだちを感ずるのであります。この意味において機動隊員を励ます会をはじめとする多くの市民のご理解とご支援ほど、隊員を奮起させるものはありません。今日、本会は、大内世話人はじめ関係者の皆さん方のご努力により、会員も着実に増加し、機動隊員に対する慰労、激励も、寮祭家族慰安会等各種行事への参加、スポーツ小隊の応援、極めて多彩なものとなっており、本会発足に際し、いろいろとご無理をお願いした一員として、心から感謝申し上げます。首都の治安を担う警視庁の前途は、いよいよ厳しいものがありますが、機動隊の若者は今後共、皆さんを父とも兄とも頼み、たくましく、明るく伸びるに違いありません。このたびの異動により第一線で機動隊と苦楽を共にすることになりました。この若者たちと共に一層のご指導を賜わりますようお願いいたします。

終りに本会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申しあげます。

機動隊員特別寄稿

かねてから紙上で募集していた寄稿文が、機動隊員より入稿しましたので次に紹介します。

狛江災害に出動して

警視庁 第七機動隊第二中隊 隊員　塚原　守

九月一日、前々日から降り続いていた雨は、滝のような降り方であった。

私は、朝から中国大使館の警備につきながら、台風情報を聞いていた。

夕刻、大使館警備を終了して帰隊したが、多摩川の水量は、「あと一メートル位で堤防を乗り越えそうである。」との情報も伝えられた。

寮に帰ってからも、機動隊員としていつでも出動に応じられる態勢を整え、本隊からの連絡、またテレビのニュースに見入っていた。間もなく本隊宿直から、「狛江地区災害警備のため、寮員は直ちに出動」の下命が入った。本隊に集合して、部隊編成をしているところへ、近くに居住している幹部も参集し、先発部隊に続き私達も出動した。

現場についてみると、付近の住民は近くの市立第三小学校に避難しており、機動隊員を始め消防団等が既に活動を始めており、周囲には緊張した空気が漲っていた。

私達は、すぐに付近の家々を廻り、まだ残っている人は居ないかと確認を急ぎ、全員避難させた後直ちに土のう作りにかかった。雨は小降りになったが、まだ降り続いている。私達は、雨の中、泥まみれになりながら精根を傾けて土のうを作り堤防に積み重ねていった。しかし多摩川の濁流は、荒れ狂い、遂に堤防をえぐり取りさらに民家に迫り土台をえぐり始めた。土台をえぐり取られた民家は、メリメリと不気味な音を残し、みんなの眼の前で濁流にのみ込まれていった。苦労して積み上げた土のうも自然の猛威には抗し切れず、濁流の中にのみ込まれてしまい手の施しようがない。続いて第二の民家も濁流にのみ込まれ消えていった。

家を失った人達は、着のみ着のままで避難していたのだが、この多摩川の水かさが異常に増え始めたとき、誰れがこの結果を想像しただろうか。私達が避難の説得を始めたときでも「私のところは大丈夫です。水がきたら二階にあがります。」と頑強に言い張り、説得に応じようとしない者が何人もいた。

雨をついての徹夜作業にもかかわらず、夜が明けるまでに十戸を超える家屋が流失したなかには、完成後間もない建物、もう少しで完成という家もあり、自然の前には私達の力のはかなさ、また家屋を失った人々の気持を考えると残念でならなかった。

夜を徹しての作業が何日も続けられ、私は九月四日にも出動した。この日は、東京地方に大雨注意報が発令され、どしゃ降りの中での作業であった。幸いにして堰の爆破作業が効果を現わし住宅地を洗う濁流の勢いは大分弱められていた。

しかし、三軒の家が土台下の土をえぐられており再び増水した場合は大変である。

隊長から「危険度を確認しながら慎重に作業にかかれ、被害はこれで食い止める努力をしよう。」との命令があり、私達は、これ以上土が濁流にえぐられないようにするため蛇籠作り（蛇籠を縦に水中に入れその中に石をつめる）などの作業を行なった。中には半分土台下の土をえぐり取られやっとロープで固定されている家の土台下に入り腰まで濁流につかりながら、蛇籠の石をできるだけ下の方まで入れるようにと作業していた隊員もいる。水中や水際で作業する隊員には、確保ロープをつけ他の隊員がそのロープを持ち、いざというときにはすぐ救助できる準備はしているが非常に危険な作業である。

私の分隊長も卒先して濁流の中に腰までつかり、私は上から注意をしながら祈るような気持でそのロープを持った。思えば私もいろいろの仕事をしてきた。投石や火災ビンの中で警備をしたこともある。しかしこのような作業は始めてである。欲や得でできる仕事ではない。私はロープを握り、被害はここで食い止めようと危険の中で必死に作業を続ける幹部や同僚を見守りながら感動を憶えた。

その日は交代しながら夜を徹しての作業が続けられ、翌朝交代部隊が到着して帰隊の途につく。帰隊して隊長から「みんな悪条件の中でほんとうによくやってくれた。地元の人や報道機関の人達からもよくやってくれたと感謝された。諸君ありがとう」との言葉を受け、私はこみあげてくるものがあった。そして、他人のために尽すことの意義を再認識し、機動隊員になってよかったと思った。

"これからもやるぞ"と心の中で誓った。

「機動隊員を励ます会」の歌成る

この度、本会では会員の希望により「機動隊員を励ます会」の歌を作詞・作曲しましたので、その歌詞を紹介します。

なお、楽譜はでき上り次第に全会員に送付します。

機動隊員を励ます歌

作詞　機動隊員を励ます会

一粒の麦　地に芽生え
実る市民のこの集い
君のうしろに友がいる
心はひとつ　もろともに
奮え　われらの機動隊

若い至情の燃えるとき
平和の鎖め　うれいなし
君をはげます友もある
願いはひとつ　もろともに
つくせ　われらの機動隊

明日の日本のしあわせを
護るつとめの尊さを
いつも見守る友がある
未来はひとつ　もろともに
築け　われらの機動隊

昼夜わかたずひとすじに
はげむ若人讃うべし
名こそわれらの機動隊
名こそわれらの機動隊

はびこる悪に立ち向う
死をもおそれぬその勇気
きたえし力ひとすじに
はげむ若人讃うべし
花ぞ　われらの機動隊
花ぞ　われらの機動隊

猛き心をうちに秘め
任務に耐えるその姿
国たみあげてひとすじに
はげむ若人讃うべし
誇れ　われらの機動隊
誇れ　われらの機動隊

機動隊員をたたえる歌

作詞　嘉悦康人

若き心にたぎり立つ
重きつとめの使命感

会員告知板

順調に増え続く会員

今年三月に発足して以来、十月総会が開催されるまでのおよそ半年の間に会員の数は逐月増加している。その状況を示すと次の通り。また、それに伴なって当会の活動も急速に活発になってきている。

三月	四九六
四月	七六三
五月	九二一
六月	一四二一
七月	一五四三
八月	一七三二
九月	一九〇六
十月	二〇七五

（十六日現在）

会員の構成はさまざまで、主婦・会社員・会社役員・芸能人と広範囲にわたっている。

会員の皆様にお願い

皆様方の厚いご支援のもとに本会もいよいよ隆盛をきわめてまいりました。ここに深謝するとともに会員の方々に次のことをお願いいたします。

発送事務の都合上、移転、その他住所変更等がありましたらすみやかに本会事務局（本部　東京都中央区八重州五ノ一ノ二八）までお知らせ下さい。

寄稿歓迎

編集部では、常時、会員の皆様方からの寄稿をおまちしています。

会員として、また市民としての立場から機動隊についてのご意見、ご感想や機動隊とのかかわりがあった経験談、あるいは本会に関するご意見ご希望など、幅広くお寄せください。採用文については紙上でご紹介します。

なお、紙面の都合により、四〇〇字詰め原稿用紙で三枚以内とします。

機動隊めぐり(4)
警視庁第4機動隊

正面玄関を通りロビーに立つと、「誠実・剛健・機敏」の三語が額縁に収められている。

ここは市ヶ谷の本村町にある警視庁第四機動隊、同第五機隊は"お隣りさん"どうし。隊の外門もいっしょなら隊舎も棟続き、といった具合。

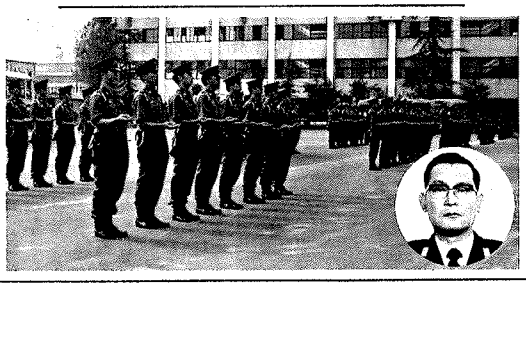
この隊は通称"鬼の四機""仏の四機"と呼ばれている。有名な砂川闘争の警備に活躍して以来"鬼の四機"と異名をとり、東大事件から"仏の四機"というニックネームで呼ばれるようにもなった。これらのニックネームについて島津　清隊長は、「悪に対しては"鬼"であり、善に対しては"仏"でありたい。」と説明する。隊の歴史は古く、予備隊が設置された翌年の昭和二十四年三月に、警視庁予備隊西部区隊として発足、その後数回改称され現在の名称になっている。

その活躍ぶりは、知る人ぞ知る、学生暴徒等は四機の警備車両を見ただけで戦意半減してしまうほど。さながら竹中進兵衛の猩猩緋の鎧といったところだろうか。

隊舎の正面入口の右手には沖縄から持ち帰った記念石がきれいに設置されている。この石の由来は、「昭和四十六年の沖縄返還に伴ない、通貨交換が行なわれたが、当時、それによる混乱から市民を護るために警備隊として派遣された。そして四機が本土からのフリーパス第一号となったことを合わせて、記念として隊舎に設置した。」（島津隊長）とのこと。

また、隊のご自慢は、近代五種競技における卓越した実力。「四機節」の一節にある「世界の四機」をクロス・ワードに、その活躍には目覚ましいものがある。坂下俊雄隊員をコーチに、選手は十名前後だが、実力は全日本はもとより世界ランキングクラスである。とくに、四十五年に発足したばかりのフェンシングでは、今年七月十六日から行なわれたグルノーブル世界選手権に出場した選手のうち石川　誠、秋保　寛両隊員は準々決勝まで進出、大いに気をはいた。続いて行なわれたテヘランでのアジア大会では秋保・石川・大塚各隊員がそれぞれサーブル・エペ・フレールで個人優勝を成し遂げ、サーブル・エペでは団体準優勝を獲得した。

また、隊員らの創造性・自発性は隊長自身も驚くほどだという。なかでも、ある大学寮歌の替え唄である"四機節"は隊の名物の一つ。隊舎の行事などでは、隊歌より好んで口ずさまれている、といって隊長さんも苦笑していた。



神奈川県警
第一機動隊

われらがシンボル⑥

神奈川県章を中央に、左右には荒鷲の羽根をあしらう。隊員が若鷲のごとく、勇荘に飛びたち、正義を貫き、悪に立ち向かう意である。

はげまし

はげまし　第6号
発行日　昭和49年11月24日
発行所　機動隊員を励ます会
東京都中央区八重洲5－1－28
〒104　ミツヤビル3F
☎03(272)3848

市民の年の瀬はかく護られる

水ももらさぬ年末警戒体制

年の瀬を間近にひかえて、心なしか街のたたずまいもいちだんとあわただしさを加えたようである。フォード米大統領の来日を迎え、その警備という大任を果たしてほっと一息したのも束の間、年末警戒という地味ながら日夜をわかたず気骨の折れる仕事が機動隊員を待っている。機動隊員といえば、何か大きな事件のあったときだけとびだしていくと思っている向きもありそうだが、決してそれがすべてではない。そうした事件の合い間には地道な日常活動がたゆまずつづけられているのである。

事件の合間を結ぶ日常任務

今年もまた多事多端な年であった。とくに後半には、三菱、三井の爆破事件、多摩川の洪水のような世上を騒がした大きな天災、人災、さらには中国展、冒頭にふれたフォード米大統領の来日といった国家的な行事などが重なった。これらを追って職務に寧日なかった機動隊員はさぞかしご苦労の多かったことだろう。

さて、すでに師走も目の前。一般市民にとっては、いそがしくはあるが反面何かと楽しみも多い季節の到来である。

子どもたちにとっては楽いクリスマスとそれにつづくお正月、街は歳末大売出し、クリスマスセールでにぎわい一家の主婦も家を留守にして出歩く機会が多くなる。亭主たちは忘年会や何やらのおつきあいもいちだんと増えてくる。何とも平和な日本である。

だが、歳末には空巣やせっ盗、街中や乗り物の中などでの暴力犯罪などが多発するのが常である。

一般市民が平和な生活を楽しんでいるかげには、そうした犯罪を未然に防ぐために、機動隊員を含む警察関係者の黙々とした努力がつづけられていることを忘れてはならないだろう。

厳重に護られる市民の安全

さて十二月に入ると同時に機動隊では年末特別警戒体制に入る。毎年の経験から、要所に必要十分な人員が配置され、水ももらさぬ体制が敷かれるのであるが、その中で機動隊員が果たしている役割のあらましを東京の場合を例にとってみよう。

機動隊員はまず本部直轄部隊と警察庁応援班の二手に大きく分かれて、街の要所の年末警戒につく。それぞれの役割と内容はつぎのようである。

■本部直轄部隊

①機動隊レスキュー部隊
不時の災害の発生に際して即時に出動できるように配置され、一日につき五個分隊約五〇名が常に待機する。

②国鉄・私鉄警乗班
管掌区域の国鉄、私鉄の全線に一日当り約六〇名の隊員を配し、二人一組のペアで夕刻から終電まで各車両に乗車して警戒に当る。車内犯罪の防止、検挙から酔っぱらいの世話に至るまで、その任務は広い。

③駅対策部隊
各地区の駅周辺を中心に爆発事件の防圧検挙、学校周辺で起りそうな内ゲバの防圧検挙などを主任務とし、一日当り一〇個分隊約一〇〇名が配置される。爆発事件の多発に鑑み、今年から新設された。

■警察庁応援班（各警察署に応援派遣され、派遣先警察署長の指揮下で任務につくもの）

①集団警羅班
繁華街のすべてを含む都内二三署に一日当り二五個分隊約二五〇名が配置され、二人一組ペアで、午後二時から午前一時まで毎日パトロールする。任務は前項の③と同様で、盛り場における暴力犯罪の取締はもちろん、市民生活の安全を害するあらゆる危険環境の早期発見とその除去に当る。

②窃盗予防検挙班
住宅街のすべてを含む都内一六署に一日当り一〇個分隊約一〇〇名が配置され午後二時から八時まで毎日パトロールする。住宅地の空巣、ひったくりその他の犯罪の予防検挙を任とする。

③交通取締班
交通事故多発地点に一〇個分隊約一〇〇名が重点的に配置され、交通指導に当る。

以上のような日夜の厳重な警戒体制あってこそ、私たち市民は今年もまたつつがなく歳の瀬を送ることができるのである。

今月のことば

"隠徳"をつむ集団に！

目下、私は、「週刊サンケイ」に"わが経営者・人間鑑定法"を連載執筆している。

私の体験から、ホンモノ・ニセモノの経営者を見わけようというのである。あれは面白いとか、ヤリ玉にあげられた経営者はかわいそうだが、キミのいう通りだとか、ごうごうたる反響がおきている。

私は、"人"や"○○会"等の世話する場合、直接自分や、自分の会社の利益につながるときは、評価しない。もうそのときは"隠徳"にならないからだ。尊いのは、名を求めず、利を求めず、もくもくとお世話することだ。隠徳こそ陽報があるのだ。「おれは、あいつの世話をしてやったんだ！」とか「あの会はおれがメンドウみているんだ！」といふらす輩がいるが、もうそのとき、どんなにそれがいいことであっても"隠徳"でなくなってしまう。それで名を売ろうなんていうヤツは、もうお話しにならない。

その点、「機動隊員を励ます会」の幹部の人たちには、頭がさがる。かくいう私も、私のほか、編集局長・編集長と三人法人会員になっているのであるが……。この会の発会式が三宅坂の半蔵門会館でおこなわれたとき、私はかけつけてみた。ちょっと見渡してみても、私が知っているような"有名経営者"が一人もいない。それこそ、その業界では知られていても、一般的には"無名"の人たちばかりであった。えてして、こういう種類の会には、いわゆる"有名人"が、会長や役員に名をつらねているものであろうが、この会にはそれがない。また、司会者が名を呼びあげるときにも、職業上の肩書をいわずに、「○○君！」と氏名だけをいった。すがすがしい思いだった。この会の創立の精神からして、そうでなければならない。庶民大衆のものでなければならないからだ。

これから、多くの"有名人"が入会してきたとしても、特別あつかいをする必要はさらさらない。また、有名人だからと"役員"にしたりすることもない。

きけば、当初、シャッポに有名政治家をもってくるとか、財界で高名な人をかつごうかということも話題になったという。ところが、結局、「……名はいらぬ、無名なわれわれでやろう！」ということになったという。その結論や、よしである。

ついさきころ、三井物産会長の橋本栄一氏から大内代表世話人に電話があって、「……物産爆破事件で、いろいろと機動隊の人たちにお世話になりました……。心ばかりですが、お役に……」といって百万円寄付を申し出たという。その"額"ではない。心が、うれしく、心あたたまるではないか。

"無賃任国"日本。政治家どもは、自分だけの権力を追い求めている。経済人だって、えらそうなことはいえない。

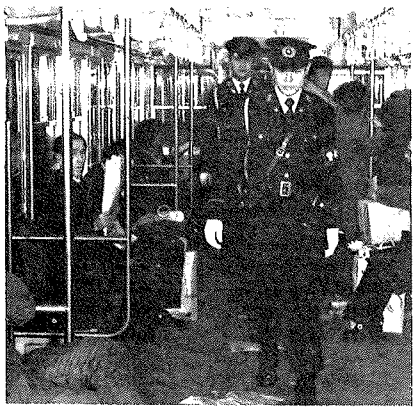
さいごは自分だけの"利"を求めるのにきゅうきゅうしている者が多いというのが現状ではないか。誰が、この祖国"日本"を守ってくれるのか！私は、黙々と、殉死"していった浅間山荘の若い機動隊員を見て、「彼らこそ、この国を守ってくれている！」と、あのテレビを見ながら心で叫んだものだ。

だからこそ、この会は"無名"な多くの日本人でささえなければならないのだ。そして、これからも、黙々と"隠徳"をはどこす集団であってほしい。

人生意気に感ず、功名赤誰が論せん、である。

若い根っこに混る機動隊員

洋上大学スタートす



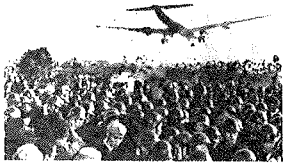
機動隊員五〇名を含む青年警察官総勢九六名が参加する第五回若い根っこ九洋上大学が、この十一月二十九日、横浜からサイパン、グアムに向けて船出する。

この洋上大学は働く若い男女の共通のひろばとして活動している若い根っこの会が主催するもので、機動隊ではその二回目以降から毎回、隊員中からの選抜者を参加させている。警察という特殊な職域の中にあって、より広い視野に目を開き優秀な警察官であると同時にすぐれた社会人としての人格を磨くために、異なる環境の多くの人々、他の世界にふれる貴重な経験を与えようというもの。

このようにして研修を積んだ若い機動隊員の中から明日の日本をになう人材の輩出が期待されよう。

機動隊物語

その(6)　第一次砂川事件警備



昭和三〇年中頃、戦後の基地反対闘争の嚆矢として起ったのが砂川事件であった。

同年八月頃から砂川基地拡張に伴う第一次測量、翌三一年秋頃から第二次測量が行なわれたが、この測量が始められる一年も前から基地の問題が国論を二分するかのごとく新聞その他で論ぜられ、第一次測量が行なわれた当時は、地元反対派の他、革新系団体や学生などが砂川に集結し、反対闘争はひじょうに盛り上っていた。

すなわち立川基地の拡張計画に基づく調達局の測量・調査に対し、地元反対同盟を中心に、立川基地拡張反対支援協議会や全学連の反対・妨害行動が行なわれ、そのため測量、土地収用等の一連の手続きは三年越しに及んでいた。

昭和三〇年には、五月七日、調達局から砂川町長に土地接収に関する正式申し入れを行ない、最初の測量調査を六月三〇日から三日間予定していた。

これに対し、地元町長をはじめ、町会議員を委員長とする立川基地拡張反対同盟を中心として結成した共闘会議は、強い姿勢を見せていた。

これらの勢力は現地に結集、強力な妨害行動に出たため、測量は不能となった。このため、八月二四日から強制測量を実施することにし、調達局長から警備部隊の出動要請がなされた。

反対闘争集団はその数を増しながら部隊と対峙した。

隊長の「警棒を抜け！」という号令とともに、隊員は警棒を前に構え、「部隊前へ」の合図で、じょじょに前進し、集団同志のものすごい押し合いとなった。この抵抗にはばまれ、測量は中止のやむなきに至った。

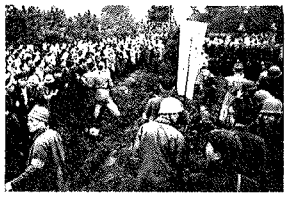
その後、九月一三日から続行したが、反対派の抵抗を部隊により排除し、無事、外部測量を完了させた。

この強制測量により、反対派同盟は一挙に動揺し、町議会は、反対闘争派と条件闘争派に分裂するのやむなきに至ったのである。

反対派同盟の闘争手段は、土地柄を反映して、クラックといおうか、いやらしいといおうか、畑の境に植えられたお茶の木に糞尿をまいてあり、これに黄金バリケードと名付けたのである。

警備戦術面では、現在のような進んだ装備器材は少なく、比較的ひんぱんに警棒が使われ、また排除した対象者を移送するのにトンネル作戦をとったのである。

そして、ついに十一月一日から一週間、拡張地域内反対派三四人の土地測量を行ない、計七万六〇〇平方メートルの測量を完了、残る五万余平方メートルについては翌年に無事終了したのである。



会員と隊員のひろば

心のふれあい

警視庁 第四機動隊巡査部長　工藤　譲

去る十月七日、半蔵門会館で行なわれた、"機動隊員を励ます会"の懇親会に、お招きを受けて、参加する機会を得ました。

懇親会は、俳優の"天知茂"さんの敬愛など、終始なごやかな、ふんい気の中で進行し、最初は多少緊張の面持でいた私も、すぐに会員の方々とうちとけ、いろいろの話題に花が咲きました。全国の会員の方々の、ねぎらい、そして、はげましの言葉をいただき、感謝の気持と同時に、私達の使命の重さをひしひしと感じました。短い時間ではありましたが、真の人間の心の触れ合いを肌で感じ、本当に楽しく腹の底から、笑うことができた貴重な時間でした。

第四機動隊員一同、会員の皆様方のご好意には、深く感謝し、今まで諸先輩の築きあげた"鬼の四機"の名は勿論のこと"学の四機""武道の四機""スポーツの四機"の名を恥かしめることのないよう、隊長を中心に、一致団結して"世界最強の第四機動隊"を目ざして、"血"と"汗"と"涙"を流し、この世を花にするまで、前進する覚悟でございます。

"市民の機動隊"に拍手を

東京　T・T

最近の世相は、毎日の新聞の政治・経済・社会欄などに象徴的に表わされているように思う。戦後最低の内閣支持率、三菱重工・三井ビルの連続爆破事件、狂乱物価の中での大不況、などとあたかも戦後の歴史の流れが大きく変わったかの錯覚さえ与えるショッキングなニュースが多い。

こうした世相の中で、さわやかな一服の清涼剤を与えてくれたのが、巨人軍・長嶋茂雄の引退試合での光景である。後楽園の五万人の観衆はもとより、多くの人々がその劇的シーンに感動したはずである。彼の真摯なプレーぶりは、デビューから四年までの十七年間、いつでもファンの、いや国民の何らかの支えであったはずである。終戦直後の復興期の国民のアイドルが美空ひばりとすれば、三十年代以降のいわゆる高度経済成長期の国民のアイドルであり、英雄は長嶋茂雄そのものといって過言ではあるまい。

この二十年の間に、わが国の国力は先進諸国と肩をならべるまでに成長を遂げた。当然、国民の価値観や生活態度もそれなりに変わってきている。電化製品・自動車といった耐久消費財の普及はもとより、インフレとはいいつつも、物質的には相当高い消費水準を享受しており、他方、ゴルフに海外旅行にと余暇の活用が国民各層に浸透してきている。また、こうした変化の中で、忘れられない多くの出来事が起こっている。私たち市民と直接かかわりのある治安警備では、例の六〇年安保闘争が最も忘れられない事件である。国家と国民とを二分し、相対立させるがごとき様相を呈したこの事件をまのあたりに見て、ある人は機動隊を指して"国家の番人"とさえいったものだった。ところが、先般の中国展における警備の活躍ぶり、また、海外旅行から帰ってきた人々は、わが国の治安を賛賛し、治安がいかに国民生活のベースになっているかを改めて認識している。

"無目標社会"といわれる近頃だが今こそ市民生活の安定が求められる時かも知れない。市民は、市民の側にある警察を渇望し、このことが現実になってきているのは、実に喜こばしいことである。それは、安保闘争で"国家の番人"といわれた機動隊が、東大事件では"人間機動隊"と呼ばれ、さらに中国展の警備では"市民の機動隊"と呼ばれたことにもあらわれている。長嶋の引退が、わが国の歴史のターニング・ポイントを象徴しているとすれば、私たちの"機動隊員を励ます会"も、今こそこうした機動隊の存在を知り、市民と機動隊とが同じレベルにたって"市民の機動隊"にすべく努力したいものである。

隊員の家庭を預る人々

警備部参事官警備第一課長　椿原正博

機動隊員の随筆などをのせている"あゆみ"という月刊小冊誌がある。その"家族コーナー"には主として、機動隊員の奥さんが寄稿しているが、編集者の意図からか新婚の奥さんのものが多い。夢のような新婚生活から次第に警察官、とくに機動隊員の妻としての厳しさというようなものを自覚していく過程が実によく表われている。

念のため、火炎びんが燃え盛った四十四年の国際反戦デーをはじめとして、暴徒が投げた一発の爆弾で一瞬三十七名の重軽傷者を出した沖縄返還協定調印阻止闘争、火炎びんの中に殉職者を出した沖縄返還協定批准阻止闘争、さては、あさま山荘事件に至るまで遡ってその時々の機動隊員の家庭を守り抜いた奥さん方の手記を見るに及んで私は、深い感動を覚えた。帝王切開の予後が悪く入院中にある妻が「火炎びんやダイナマイトで夫はやられはしないか」と案じつつも、警察官の妻として取り乱してはいけないと、ジッとこらえたというもの、日頃は放っておいた成田山のお守りを抱きしめて無事を祈り続けたその夜ふけ、うす黒く汚れた顔をして帰ってきた夫を迎える妻の安堵、無数の爆弾の破片を身に喰い込ませ意識不明ながら、傷と斗っている夫に対面し、「うろたえてはいけない、泣いてはいけない」と自分を叱ってこらえた奥さんの悲痛な自制、激しい警備を終えて無事帰った夫をみて、ありったけのビールを飲ませてやりたいと思った」素朴な妻の喜び、ビニール袋に汗まみれの下着を詰め込み「みやげだ」と言って無事に帰ってきた夫をみて、自分も夫と共に世の中のために様々の下の力もちになろうと誓ったという妻の述懐、警察官の妻は何時どんな事があっても取り乱してはいけない、という夫の言葉を思い出しながら、大勢の負傷者を出した明治公園の爆弾事件のテレビ放送に息を詰ませて見入ったという妻の複雑な心、暴力集団の暴挙をみて、自分も出動服を着て一緒に警備したかったという若妻の怒り、「おれに万一の事があったら開けてみろ」と遺言状を残して成田空港警備（機動隊員三名殉職）に出て行く夫を「勇気と誇りをもって」と励ます妻の心情、「熊や野兎のように山から山へ大変だったのねー、しかしお母さんと一緒に帰りましょう」というあさま山荘における犯人の母親の呼びかけに憤って「もしもよ、もしも正章ちゃんがあんなことをしたら、もう死んでしまいなさい、自分で責任をとりなさいとお母さんは言いますからねー」と我が子に教える母の願い、妻の両親に万一のことがあったら妻と子供をよろしく頼みます、と電話をかけてあさま山荘に出動した夫に二度惚れしたという妻のユーモラスな述懐、そして、"幸福な星を常にみつめて生きよう、治安を守る者の良き妻として、機動隊の良き協力者として"という妻の祈り等々真情あふれる言葉が限りなく続いていたのである。何んという豊かな光芒を放つ言葉であることか。若い隊員の妻として、そこには何んのてらいも気取りもない。ただ優しさと、けなげさだけがある。私はこれを紹介するのに何の註釈も要らないと思う。

この家族に支えられるわが機動隊をただ誇りに思うのである。

機動隊員特別寄稿

（山口県警機動隊員の回想より）

ドキュメント・「光事件」

●銃声とともに

セミの声も聞こえようとする七月三日。山口県の光警察署管内で頻発していた車上狙いの犯人を捜査していた同署刑事課では、犯人とみられる市川憲二方に同課の藤木巡査部長・近藤巡査の両名をおもむかせた。藤木巡査部長が同家の表側から市川憲二に声をかけたところ、猟銃一挺を持って現われ、いきなり藤木巡査部長に発砲、二発目が間巡査部長の左胸部にあたった。その銃声を聞いて、裏口に張っていた近藤巡査が駆けつけたが、市川の持つ猟銃が三発目の火を吹き、同巡査の左胸部を撃ち抜いた。

その後、犯行者の市川は近隣の家々を次々に押し入って銃を突きつけ脅迫した後、農作業中の市川シゲコさん・近末ハル子さんの主婦二人を人質にとり山中に三日二晩、五十六時間もの長きにわたってたてこもり続けたのである。あとは、マスコミなどで周知の通りである。

●村の平和を壊わす者を許すな

なんの変哲もない田舎の町である。このような事件が起ころうとは予想だにできなかった町の住民は、一時は恐怖と平和な笑顔もはたとたえ、緊張感にこわばらせた顔だけが行き交う。

——何んでこんなバカなことを……

平静さを取り戻した住民は、心中穏やかならぬものがこみ上げてきた。恐怖心が転じて憤怒心に化したのだろうか。

——早く自首して、罪を償えばいいのに。

口々にもらす住民の声は、犯人逮捕を望む反面、同じ土地の人間としての連帯意識からくる感情的な何かが複雑に交錯した。

機動隊員の説得がくり返し行なわれた。時折、肉親による説得も行なわれる。しかし、投下されたハンドマイクを通して聞こえてくる声は、きまって人質のものだった。住民の表情が次第にこわばってくる。

●憲二、しっかりせい

暗雲が立ちこめてきた。夕刻から夜にかけて暴風雨に見舞われるという天気予報に逆わず、あたりは急に暗くなりはじめた。一刻の猶子もならない。台風圏内に入っては、人質の安全を誰が保証し得よう。突入隊の編成が急務である。

ややたって、山頂へ通ずる六〇度前後の急勾配を登りはじめた。もちろん、物音一つたてられない。犯人に気付かれては人質の安全が危いからだ。連絡用の無線のスイッチさえ切った。小一時間ばかり注意深く進むと、ようやく山頂の端にたどり着いた。犯人の居場所からおよそ二〇メートル前後に接近したのが確認できた。

この間、犯人の市川ははじめてハンドマイクで話し出したとからはじまり、人質二人をとって山にたてこもったいきさつをながながと説明したもので、機動隊員や肉親らの呼びかけに応じるというものではなかった。そして再び人質の声に変わった時、救出隊は一瞬たじろいだ。「わたしたちが危険ですので、そこにいる警察官は近寄らないで下さい。」数回くり返した後、その状況を犯人の市川に告げに行った。間髪を入れず、それに追随して救出隊も十メートルほど前進した。この時、人質の市川シゲコさんが、犯人に低い声で警察官がすぐ近くまできていることを告げ、それに対して犯人が何事か答えるのが聞こえると同時に、救出隊に銃口を向けたが、市川シゲコさんに押えられ、発砲を思いとどまった。退却か、突入か。前後の状況から判断して班長は突入を決意し、両翼と後続の隊員に「行くぞ」と声をかけて三／四メートル駆走前進、本陣から犯人に向かって大声一番、憲二、手をあげて出て来い、何人殺せば気が済むのか！」と呼びかけたところ、これに応えるかのように銃声が一発。犯人の市川は自殺した。駆け寄って応急手当てを施す隊員の大声で呼びかける「憲二、しっかりせい！」という言葉も空しかった。

●わかりに

「無念の終焉だった。」というのが隊員の実感である。人質の無事救出と犯人の完全逮捕、これが隊員に下された命令であった。そして、それを完遂せんがために、難行苦行をものともせず、忍んできたからである。最後に、無事に救出された人質の一人の話の中で印象に残ったことばをもって結びにしよう。

——犯人の市川は、機動隊員の退却を要求し続けていたが、内心は、本当に退却してしまったらどうなるのかと非常に不安がっていた様子が手にとるようにわかりました。

当会に心あたたまる寄付が……

最近、相次いで起った爆破事件の被害者である三井物産がこの程お世話になった関係各方面に対し感謝の意を込めた寄付を行なった。

当会に対しても、これまでの活動の労をねぎらい、今後の会の発展に役立てて欲しいと「百万円」の寄付があった。

なお、これまでに寄せられた心あたたまる寄付は次のとおり。

寄付金報告

			円
S48.12.12	大東鋼機㈱	清谷　清	100,000
49. 1.29	豊鋼材工業㈱	森山満治	1,000,000
2. 9	小栗鋼材㈱		5,000
3.26	津田鋼材㈱		1,000,000
5.27	伊藤忠商事㈱	中村貞夫	52,000
6.15	〃	戸崎誠喜	88,000
〃 〃	〃	前田健蔵	38,000
7.15	〃	瀬島龍三	38,000
8. 2	日本精工㈱	今里広記	100,000
9.26	㈱東急エイジェンシー	前野　徹	30,000
10. 7	大東鋼機㈱	清谷　清	100,000
〃 〃	豊鋼材工業㈱	森山満治	300,000
〃 〃	匿　　名		1,000,000
〃 〃	〃		3,000
10.31	三井物産㈱		1,000,000

会員告知板

●会員証に写真をお貼り下さい

当会で発行している会員証である。このような事件が起ったため、過去のために会員証には必らず裏面に会員本人の写真（免許証用が最適）を貼付し、契印を押して下さいますようお願い申し上げます。

●会員増幅状況

前号にひき続き、当会の会員増幅情況をお知らせします。

一般会員　一、五九一名
特別会員　四九六名
法人会員　二四二社
計二、三二九名
（十一月六日現在）

機動隊めぐり(6)

神奈川県警第一機動隊

お会いするなり、開口一番「市民に信頼される機動隊員になるには、一個の人間として人格を練磨することがかんじんです」とは、神奈川県警察本部・第一機動隊・千野茂隊長さん。

横浜市南区中村町といってもわかりにくいが、伊勢崎町より歩いて十分ほどの所といえばだいたい見当がつくだろう。ここに隊舎を構える一機は、昭和二四年、前身の特別警察機動隊として誕生、当時は四個中隊であったものが、同四五年、二つに分割し、二個中隊・七個小隊の現在に至っている。

神奈川県警一機は、北に丹沢山塊、南に相模湾、そして、県内各所に、厚木、横須賀、の基地、相模原補給しょうなどの米軍関係施設を持っているため、山岳パトロール、海浜パトロールの災害警備の一般警備の他に、これまで横須賀米原潜寄港問題警備、相模原補給しょう問題警備などの特殊な治安警備にたずさわってきている。

「これまでの治安警備では、いろいろな経験ができました。治安警備には、ある一定のパターンが経験から考え出されています。これまでの警備からわが隊では、力には力をもってする警備から破られない範囲内で最少の部隊でこれに当る方法を検討・研究を続けています。」

機動隊員には表芸と裏芸があるという。

表芸とは、いわゆる警備実施であり、裏芸とは、日頃から隊員自身が心身を練ることだという。

表芸もこの裏芸があってはじめて生き、その真価を発揮するのだとおっしゃる隊長さん。

「しかし、表芸を生かすためには、やはり、市民から親しまれ、真に愛され、信頼される機動隊になることです。強いだけの機動隊であってはなりません。正しく、みんなに愛される隊員になってもらうためには、一にも二にもこれを市民の方々に知ってもらわれわれは目指しています。

"奉仕"の精神ですね。」

隊内には多くのクラブ、レクリューションの場が設けられ、隊員達の憩いの場、息抜きの場が広く開放されていることは、隊長さんのおっしゃる明るい隊への実践であろう。

こういった方針の下に、隊員達は、夜に日を継ぐ激しい訓練にも耐え、明日の明るい機動隊へ、そして明日の日本の建設を目指して励んでいるのである。

帰りぎわに、隊長室に高く掲げられた"容威を正し、規律を守れ"、"責任を自覚し、全力を尽くせ"という隊規が隊員達を見守っているのが印象的であった。

はげまし

はげまし　第7号
発行日　昭和49年12月24日
発行所　機動隊員を励ます会
東京都中央区八重洲5－1－28
〒104　ミツヤビル3F
☎03(272)3848

大阪府警察　われらがシンボル⑦
第一機動隊

「機動隊」という呼称を最初に載いた栄誉をそのまま中央に赤字で㊙と表現し、左右に流れる白線はスマートさのシンボル。目下、新しいマークを作る気運がある。

西にもともった励ましの灯

大阪支部　正式に発足

「機動隊員を励ます会」では、発足当初より、福岡などの地区に支部世話人を配し、全国的な活動態勢をとっていたが、大阪地区では同地区会員数が五〇〇名を超えたのを機会に、さる十二月五日、大阪の農林会館にて大阪支部発会式を正式に開催した。

当日は、大阪とその周辺在住の会員および大阪府警察機動隊隊員あわせて三〇〇名が参集、また東京本部からも大内代表世話人をはじめ世話人数氏が駆けつけ、支部正式発会を祝うとともに隊員を激励するなど、改めて会の精神をなかだちに懇親を深め、いちだんの発展を申し合わせる意義ある集いとなった。

熱気あふれる会場

大阪。そんな中で、「機動隊員を励ます会」大阪支部発会式の会場に当てられた、ここ農林会館大ホールは、来会者およそ三〇〇名の熱気であふれんばかり。

会は高島浩一氏の司会によって開幕、まず平井達三氏が開会のあいさつならびに経過報告を行なった。

これに答えて、雨森和雄大阪府警察本部長および須藤博忠近畿管区警察局長があいさつに立ち、昨今の警備状況の分析、機動隊の役割、当会の存立とその意義などについてふれたのち、当会が機動隊員にとってまことに心あたたまる励ましとなっていることに対して感謝の意を表明した。

ついで、森山満治氏の音頭で乾杯、しばしの歓談の時をはさんだあと、川淵長一氏が立って、「過去においては、市民と機動隊とは、少なくとも今日のように緊密ではなく、むしろ疎遠であったといってもいいくらいだ。だが、浅間山荘事件以来市民の機動隊に対する理解が漸次深まり、然の発意の中から当会が誕生してからはその度合は急速に高まってきている。危険な任務が多いなかで、何かとご苦労なことだが今後も大いに頑張って下さい」と激励の挨拶、また、「日本ほど税務署と警察がしっかりしている国は他に例を見ない。これは財政と治安のよさを意味することで、喜ばしいことだ」とユーモアたっぷりに述べ、参加者全員の爆笑をよんだ。

ここで再び懇談時間、あい間に、府警第一機動隊員および第二機動隊員らが、それぞれ「治安の闘士」「この世を花にするために」を合唱、万場の喝采をあびた。

こうして会員と隊員は一つに融合し、発会式も高潮の極に達したころあい、大内代表世話人が立って要旨つぎのように激励の言葉を述べた。『国があって安寧あり』といわれるように、一国の安寧は国民の幸福に通ずる。社会の情勢が暗たんとしている昨今、身を挺してわれわれ市民を護り、国を護ってくれるのは機動隊の諸君である。また、警備に際し、隊長の下命がおりるまで、投石されようが、棒でこずかれようが、じっと辛抱する隊員の忍苦の態度の立派さ、そうした隊員に心から『ご苦労さん！頑張って下さい』の一言を、会員としてかけてあげて欲しい。」

最後に、斉藤裕氏が万才三唱の音頭をとって閉会となった。

▲川淵氏ごあいさつ　▲府警本部長ごあいさつ

広がりゆく市民の共感

懇談の時間に参会した機動隊の若い隊員さんに二・三の質問を試みた。

――今日の大阪支部発会式について？

……私の場合は、学校を卒業してすぐに入隊しましたので、同じ社会人でも会社勤めをしている一般社会人と接する機会が少なく、また、世事に関して外観は知ることはできますが、肌で感じられないのが実情ですからこうして一般社会人の人々と懇談できることは本当にうれしいですね。

――当会の発刊している「はげまし」を読んでの感想は？

……毎月、隊に送られてきますので読むようにしています。もちろん、そんな時に自分達の隊のことが何らかのかたちでのっていればうれしいですけど、他の機動隊の活動や実情を知ることができるだけでも価値があると思います。

――当会に希望することがあるとすれば、それは？

……さきほども触れましたが、こうして世界がちがうように、他の職業に従事している人々との懇談の機会を多くもち、見識を広められたらと思う。

ところで、この大阪支部の発会式は、今年の三月に設立総会が開催され、その後一年も経ないうちに行なわれたことになる。機関紙「はげまし」の『会員告知板』でも紹介しているように、一大阪地区のみならず、その会員数は全国的に逐月増加の一途をたどっているというのが現状である。発会式に参加した会員の、「会員数が増えると同時に運営面が技術的に難かしくなると思いますね。」という発言に見られるように、今後の会の活動に際し、支部の役割は今まで以上に大切になってこよう。この意味でも、大阪支部発会を皮切りに、各地での支部活動の確立が望ましい。

名古屋支部、福岡支部でも発会式開催への機運が高まりつつある。それぞれの支部が緊密な連係と地道な活動を続けていくことが、当会の目的を遂行するうえでの基盤となり、ひいては機動隊員を励ます原動力となることであろう。今後とも一層の努力を期待したい。

今月のことば

機動隊員を励ます会　大阪支部発足にあたって

さる昭和四十九年十二月五日、大阪市中之島の農林会館で大阪支部の発会式が開催されたことは、会の今後の発展に大きく寄与するもので、大へんよろこばしいことであります。

発足以来の物心両面にわたるさまざまな活躍は、高く評価されてよいと思いますが、これまで会の活動範囲が関東地区中心であったのは止むを得なかったわけで、これを契機として、全国各地区での後援活動が大いに期待されます。

さて、当会の活動状況等は機関紙〝はげまし〟などで報道されていますので重複をさけますが、〝はげまし〟6号の「今月のことば」にありますように、当会には会長とか理事長という名誉職的なものは一切なく、皆様の暖いご支援をすべて世話人がとりまとめ運営する、という組織になっていることをここであらためて強調したいと思います。

東京の総会に参会された隊員の方々が、本当に心からよろこんでおられるのを拝見するにつけ、やり甲斐のある仕事だと思うと同時に、できればこのような感激を全国の隊員の方々にも味わっていただきたいものと念願しています。もちろん、衣食住については国家より十分な配慮がなされているでしょうが、何と申しましても、よくいわれる生甲斐といいますか、金銭であがなえない使命感の充実に会の存在が役立つのではないかと思っております。

大内世話人代表からも、一日も早く全国に支部をつくりたいというお話もあり、とうぜん、われわれの間でも、このことが話題になっていたのですが、現在会員数は全国で約二六〇〇名となり、うち、大阪支部に属すると思われる会員数も六七〇名と急増していますので、ようやくその機が熟し、今回の発会の運びとなったものです。何分にも世話人がそれぞれ本務を持ち、事務的にも時間的にも余裕がなかったこともあり、発会式が延びていたようなわけです。

これからは心ある人にもお手伝い願うとともに、さらに知己を動員し、幅広く各階層の皆様のご賛同を得て会の拡大を図り、大阪支部一千名以上の規模にしたいと考えています。

なお、これを契機として、各地区世話人の方々に努力していただき、ぞくぞく各支部が結成され、それが隊員の方々も、われわれ会員にも、より力強い心の支えとなるよう要望する次第です。

（大阪支部会員寄稿より）

ご苦労さま！
フォード大統領来日警備

アメリカ・フォード大統領は、さる十一月十八日―二十二日の五日間にわたる来日日程をつつがなく終了し、日米親善にはかりしれない大きな実りを残して去った。

フォード大統領は、日本を離れるに際し、田中総理（当時）にあてたメッセージの中でとくに警護に当った全警察職員の卓抜した職務執行をたたえ、懇切な謝辞を述べている。

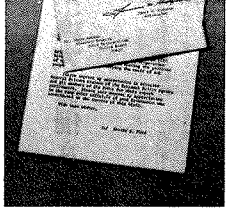
一国の元首が、訪問先の警察当局の活動にとくに言及し賞賛するというのは異例のことであり、フォード大統領がわが国の警察の有能さに大きな感銘を受けたことを物語っている。

また、ホドソン駐日米国大使からもこれとは別に、槇野警視総監に当てて、フォード大統領訪日の成功が警視庁職員の努力に負うところ大であることを謝し、とくに村上警備局長とその麾下職員の働きに感銘を受けた旨を述べた礼状が寄せられた。

さらに大統領専属のボディーガードとして常に大統領の身辺にあるシークレット・サービスの責任者ジェンキンス氏も「大統領を警備して五〇カ国を訪問したが、日本警察が最もすぐれている」と絶賛している。

日米親善をまっとうせしめたかげの功労者として、警備当局および要衝に当った機動隊は改めてその名を内外に高めたといってよかろう。

いずれにしても機動隊員の皆さん、本当にご苦労さま！



機動隊物語

その(7)　伊勢湾台風警備

昭和三四年九月二六日、東海地方を襲った台風一五号は、災害の規模からいって有史以来未曾有のものであった。いわゆる伊勢湾台風である。

台風の来襲時が満潮時に近く、伊勢湾が風の強い側に当るという悪条件が重なり、名古屋港で午後九時半最高潮位五・八メートルに達した。この満潮時前に最大風速四五・七メートルを記録したため、異常な高潮波浪となり海岸に打ち寄せ、あるいは河川に逆流した。これにより堤防決壊九二二ヵ所に及び、一瞬のうちに流失壊滅した家屋が著しく多く、そのために未曽有の死者三、〇六五名、負傷者二八、四〇〇名、行方不明三六七名を出したのである。とくに人口の密集した名古屋市南部地区が中心となったため死者が多数にのぼった。

出動要請を受けた中部管区機動隊、愛知県警機動隊および警視庁機動隊らは、災害発生以来一一月初旬まで一ヵ月半の長きにわたり、救助作業、ほとんどが仮寝台、むしろ敷き、浸水家屋の屋根裏という施設の〝警備詰所〟に分散し、家屋が軒まで海水に没して見渡すかぎりの泥沼に、ドラム缶で流木利用による筏を急造し、ぼう大な漂流物と汚水に悩まされながら、あらゆる障害を克服して昼夜を分かたず罹災者の救援救護に、遺体の収容にと挺身し、また〝台風泥棒〟の横行に、これの予防検挙に、あるいは罹災者や救援物資の輸送にと活躍し、地元民、現地の各警察署や、各方面からたいへん感謝され、警察に対する信頼感を深めたのである。

この伊勢湾台風がその後の台風災害に対する救護活動方法に与えた教訓は、はなはだ大きく、〝機動隊〟そのもののイメージをも変えたのであった。

死体の収容にあたっては、死後そうとうの日時が経っているため腐敗し、独特な異臭を放っており、収容には相当の困難と時間を要したのである。

収容方法は、付近に浮いている戸板を拾い、舟艇を適宜前後させて死体を戸板の上に乗せ、むしろをかぶせて戸板をとび口で引っぱって行くという方法で、一体収容するのに二～三時間はたっぷり要した。とくに子供を強く抱きしめて死んでいる母親、臨月の妊婦などを収容する時、隊員達の目には涙があふれていた。

現地に派遣された各機動隊は、それぞれ部隊ごとにそのほとんどが仮寝台、むしろ敷き、浸水家屋の屋根裏という施設の〝警備詰所〟に分散し、家屋が軒まで海水に没して見渡すかぎりの泥沼に、ドラム缶で流木利用による筏を急造し、ぼう大な漂流物と汚水に悩まされながら、あらゆる障害を克服して昼夜を分かたず罹災者の救援救護に、遺体の収容にと挺身し、また〝台風泥棒〟の横行に、これの予防検挙に、あるいは罹災者や救援物資の輸送にと活躍し、地元民、現地の各警察署や、各方面からたいへん感謝され、警察に対する信頼感を深めたのである。

会員と隊員のひろば

花の機動隊

大阪府警 第一機動隊
中西 康之

私は、機動隊に入る前、よく先輩や後輩から「警察官であれば、一度は機動隊に勤務すべきだ。非常にプラスになる。」と聞いていたので、自分も「一度勤務したいなあ！」とあこがれていた。

ところが、幸運にも昨年四月警察に入って十年目にして初めて、あこがれの第一機動隊に分隊長として赴任することができた。この時ばかりは、〝神も仏もあるものよ！〟とばかり非常に感激した。

赴任した当初は、治安警備、雑踏警備など各種の警備に出動し、少なからず不安もあったが、そんなものは、わずかの間に吹き飛んでしまった。というのは、これら警備出動の合間をぬって、警備訓練、柔剣道、学科、クラブ活動および体育など教養訓練の時間も充分割り当てられており、文武両方の面で、各人の心身を鍛えるとともに、より強い団結力を培っているからである。

やはり、先輩や後輩から聞いていたとおり男として、警察官として、本当に精一杯やれる、やりがいのある職場である。

国民から信頼され、期待される警察官像が〝明るく、強く、正しい〟〝気はやさしく、力持ち〟的な警察官ということになれば、まさに機動隊は、理想の警察官を育成する絶好の職場であろう。

このようなことから、私は次代を担う若い警察官が、一度は機動隊に入り、心身共に鍛練し直すことは、ひとり警察のみならず、国民のためにも有意義なことだと思う。

機動隊のより良い発展を願ってやまない。

四谷駅頭午前四時四十五分

東京地区会員○生

午前四時三〇分、暗闇明けやらぬ初冬の早朝、わが家を後にする。薄っぺらなジャンパーを突通す寒風の冷さに思わず首を縮めて歩調を早めると、担いだ背物の重さがズンと肩にこたえる――。

このあたり、登間はけっこう人通りがはげしいのだが、朝がこれだけ早いと、自分の足音があまりの家並に谺するくらい静ひつである。

星空を仰いで表通りまでの15分間、ついに人っ子一人めぐり合わずじまいで駅前の大通りから、四谷駅のかたわらにフト視線をやると、うす明るい照明灯の光がやっと届く木かげに、ひっそりと二人の男がたたずんでいる。思いなしかこっちの挙動に瞳をこらしているようだ。

近づくと、ようやく白みはじめた東雲の彼方からのかすかな曙光を受けてキラリ光るジュラルミンの楯が二本、そしてあの濃紺のヘルメットと警備服――。ひしひしと肌を刺す寒気に身ぶるいをしいす立尽す二人の機動隊員の姿がそこにあった。

――ご苦労さま――口には出さなかったが、そっと頭を下げて足早やに通り過ぎるとヘルメルトの下から白い歯が無言で笑ってくれた。

ふと見回わすと、ここばかりではなく、四谷駅付近数カ所を隊員が固めている。おそらく、ここから迎賓館にかけて、夜を徹して黙々と警備に当っている数十、いや数百名の隊員がいることだろう。

「励ます会」の会員になって数ヶ月、お恥しい話だが、実際に機動隊についての関心は無かったといってもよいように思われる。いや、はっきりいえば実感として会員になった気がしていなかったともいえる。

しかし……駅前の二人の隊員の童顔からこぼれた白い歯を見た瞬間、生（なま）の機動隊員のプロフイルが何故かジーンと心に滲みたのである。遠く、寒く、そして暗い駅までの道のり、その上、ズッシリ重い荷物……だからといって、四十男が決して感傷的になったわけではない。

寒風吹き荒ぶ人気のない駅頭に黙々と任務をまっとうする隊員達の目のあたり見た時、理くつ抜きで頭が下ったといったら理解してもらえるだろうか。

それにひきかえ、朝早いとはいえ、なにかなし気がひける吾身。実は、休暇をとって茨城のはるか奥地のゴルフ場へのお出ましの途上……こうして、しがないサラリーマンの一人一人が、浮世のうさを一日のグリーン上に発散できるのも、あなたがた隊員の努力によるところが大きい……と思ったとたん、背中のバッグが急にズシンと重くなった。そくさと乗車券自動販売機に向かいながら振りかえると、さきほどの二人の隊員が、同じ姿勢のまま、何事もなかったように前方を見据えていた。

十一月中旬、フォード大統領来日中のある朝のことであった。

治而不忘乱

大阪府警察本部長
雨森 和雄

師走を迎え、会員の皆様には、ますますご繁多のことと存じます。日頃、何かと警察の業務に深いご理解とご支援をいただき、感謝しているところであります。

が、このたび、「機動隊員を励ます会」大阪支部を正式に発会されましたことに対し、重ねて衷心から敬意と謝意を表する次第であります。

大阪府警察発足以来二十年をかえりみますと、その間には、学園紛争、爆弾闘争、内ゲバ事件等、爆弾、火えんびんとの対決にあけくれた一時期もありましたが、ようやく沈静期を迎えるに至りましたことは、まことに喜こばしい次第であります。

しかしながら、なお昨今の治安情勢をみますと、「日曜爆弾魔事件」、「大阪電解専務」など、衆目をあつめた凶悪、悪質な事件は後を絶たず決して楽観を許しません。従いまして、私は、府警一万九千の全職員に対し、基本姿勢として、二つのモットーを示しております。その一つは、「治にいて乱を忘れず」であります。有事即応の態勢づくりに「もれ」のないこと、問題点を先取りして処理すること等を柱としております。

今一つは、「常に府民の信頼を得よ」であります。親切に、そして自信と信念に基づいた執行務等が、その内容であります。もとより治安維持の責務は、府警全職員が等しく負うところでありますが、その中にあって、「集団警備力」としての機動隊は、まさしく府警の中核部隊であります。このことは、「城東区銃乱射事件」等で、つとに皆様のご評価をうけているところでありますが、その裏側では、「治にいて乱を忘れず」のモットーを、そのまま日常勤務にひきうつし、血のにじむ訓練を続けている機動隊員は、平均二十五才の若者揃いで、その青春の情熱を「訓練で泣いて実戦で笑う」ことにかけております。機動隊員としての誇りをかけ、面を喰いしばって頑張っておりますが、それでも、寒中のアクアラング、酷暑のレンジャー、深夜寒風の無線通信等々の訓練には、男泣きする風景をままみうけられます。この関門を乗り越えた隊員は、ただ強くなくし、人く育っただけではなく、人間警察官としても、一人成長するのであります。しかし、機動隊員も人の子、時に、「集団警備力」としての中核部隊であります。

こんなとき。一声のはげまし〝で勇気をとりもどし、士気をたかめるのであります。

機動隊員は、腕章にすべての誇りをかけております。このことは、とりもなおさず自分の誇りすべてを機動隊員であることにかけているといえましょう。

古い言葉でありますが、「武士は己れを知るもののために死す」といった滅私の気風が、隊内では醸成されております。

皆様の深いご理解を得て、水を得た魚のように、ますます自らの身心に磨きをかけることは間違いありません。どうか今後とも機動隊に多大の関心をお寄せいただき、ご支援賜りたいと存じます。

最後に、本会のご発展と皆様のご健勝を祈念致しまして、ご挨拶と致します。

厳寒一喝、柔剣道大会催さる

警視庁機動隊では、去る十一月二十七日、中野にある警察学校において、迎えて第五回目の柔剣道大会を開催した。

当大会は、歴史こそ浅いが、警視庁機動隊各隊間の対抗試合の白眉として、全隊とも一だんと闘志を燃やし、回を重ねるごとに大きな盛り上りをみせている。

競技の方法は、柔・剣道ともにトーナメント方式で、勝負はすべて〝一本勝負〟。制限時間内に技が決まらない場合は、攻勢点による判定、と原則として、引き合け試合はないという厳しさ。それだけに各選手は真剣そのもの。

大会関係者は、「日頃、十分な練習ができないので、選手らには厳しいだろうが、ケガをしないように、もてる力を存分に発揮してもらいたいものです。」と、各選手を見守りながらの観戦。一方、チーム・リーダーである各機の隊長は、関係者のこうした声にうなずきながらも自隊の選手を叱咤激励し、大変な熱の入れようであった。

また、応援合戦も激しく、チームの一人が「○○選手に拍手ノ」と声援をとばせば、これに呼応してチーム全員が応援の拍手を送る。そして、一人がチームの応援の拍手をひき出すように拍手をはじめると、その拍手のあとを追うように全員の拍手が大会会場いっぱいに鳴り響く、といった具合。

結局、柔道では二機、剣道では一機が順調に勝ち進み、決勝戦でそれぞれ九機、三機を接戦の末敗り、第五回大会の優勝旗を手中にして、閉会となった。

物心両面から暖かい励まし

今度の大阪支部発会式に参加した会員各位から、『今日の発会式に参加して、とくに感銘を受けた。』として、多数の寄付が寄せられましたので、一般の寄付とあわせてご報告します。

寄稿文

フォード米大統領一行の警護警備に従事して

日米修好一二一年にして、はじめて現職アメリカ大統領の来日が決定したとき、私の小さな脳裏には「いよいよ、来日することになったか」「アイゼンハワー元大統領の二の舞いになっては大変なことになる。」「どういう警備になるのであろうか」と私なりにいろいろのことが思い浮んで落着かない気持であった。また一面では、来日となればこれに反対する勢力、中でも極左過激集団は訪日阻止闘争に出ることが十分予想された。私達、機動隊員は警備部隊の中核としてその防圧という重大な任務をまっとうしなければならないのだという使命感と、そこに生き甲斐を求めて日夜努力してきたのであったという意識の加速的な高まりを感ぜずにはいられなかった。

十一月に入るや、隊長から本警護警備の大綱が示され、いよいよ、具体的行動が始った。

まづ、現場を知らずして適正な警備実施はできない。そこで平素の諸警戒活動を通じて勝手知った蒲田・羽田地区、霞が関・赤坂地区ではあったが、変動の激しい都会のこと納得のゆくまで何回となく現場実査が繰り返えされ、また、これに併行して資器材の整備、さらには予想されるあらゆる事犯に対処するため図上訓練・警備訓練とその日に備え着々と隊長を中心に諸準備が進められた。これまで幾度も火炎びんの中、雨のような投石の中に身を挺して重要警備に当ってきた私ではあったが、そのためか、神経のいたぶつ思いのする毎日が続いた。

そして、歴史的な昭和四十九年十一月十八日の朝を迎えた。

平素より早めに目がさめ、心配された天候も昨夜来の雨はやみ、曇り空ではあったが正午ごろからは、まれにみるスモッグのない澄きった青空となり、大統領一行の来日を祝福するかのように思われた。

私は副隊長付無線要員に指定され、当日は赤坂見附で警戒にあたった。午後三時三十分、一行の羽田空港到着を知ったとき、いよいよ現実になったと緊張の色はかくせなかった。

この日以降、二十日までの三日間は早朝から出動し、毎晩午後十一時過ぎに帰隊するという長時間の警備であった。そのため遠くから通勤している隊員の中には帰宅できず、連日泊り込みのものもあったが、誰一人として不平をいう隊員はない。あたえられた任務の重大さをそれぞれが胸に秘め、もくもくとその任に当った姿こそ、警察の基本的な姿勢ではなかったろうか。

一行が東京での日程を無事終了して二十一日午前九時四十八分、羽田空港を離陸して大阪に向ったという無線通話を耳にして、私は自分なりの立場で全力を傾けて大任をはたしたという実感と機動隊員について本当によかったという感慨がこみあげ、そして、大統領一行の旅の無事を祈らずにはいられなかった。

寄付金報告

S. 49. 12. 6.	医　名		2,000,000
〃 12. 7.	自見産業㈱		500,000
〃 12. 9.	大阪日線会(26社)		500,000
〃 〃 〃	村上鋼業 大阪製鉄 大東鉄線		300,000
〃 〃 18.	辻子丈太郎		300,000

会員告知板

●会員証に写真をお貼り下さい

当会で発行している会員証の盗難、紛失等による不正使用防止のため、送付された会員証には必らず変面に会員本人の写真（免許証用が最適）を貼付し、契印を押して下さいますようお願い申し上げます。

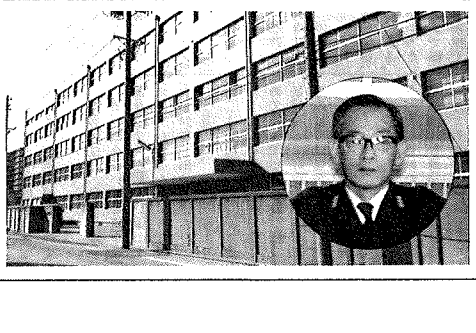
●会員増幅状況

前号にひき続き、当会の会員増幅状況をお知らせします。

一般会員　一、九五四名
特別会員　五二六名
法人会員　二五八社
計二、七三八名
（十二月十三日現在）

機動隊めぐり(7)

大阪府警察第一機動隊



隊舎へ取材に行くと、レンジャー部隊の面々が訓練を終えて引き上げてきたところだった。聞くに、大阪城が今回の訓練場所だとか。

さて、今回は大阪城が鮮やかに見える大阪府警察第一機動隊におじゃました。ここは、大阪城の北東部、車で高速道路を突走ること約二十分くらいの所にある。東京に次ぐ第二の大都市を誇る大阪の府民を護る要目といえるのが、この府警第一機である。

現在は、五階建ての立派な隊舎に本拠を構えているが、かって、昭和二十三年に大阪府警察機動隊が設置された当時は、大阪城のたもとにある府警察に同居していたという。その後、昭和四十四年四月に一機・二機に新編成され、今の隊舎に移転している。機動隊として、こうしたよい環境を得られたことは、任務を遂行するうえで結構だが、隊庭が狭く、訓練場に不自由なのが悩みのタネらしい。

「フォード警備にはたいへんな神経をつかいましてね。終えて、ほっとしたところですが、すぐまた釜ヶ崎特別警備があとを控えていますから」とは南隊長。一機を預かってまだ一年足らずだが、警備関係ではベテラン中のベテラン。特別機動隊、管区機動隊の隊長も兼任している頼もしい隊長である。

「洗練された機動隊づくり」をスローガンに、府民の安全に全身全霊を投げこむ」南隊長一という志気が全隊員に周知徹底されており、府民からの信頼も高い。過去、原子力潜水艦エンタープライズ号の佐世保港入港に際しての警備や中国経済使節団の身辺警護、近くはさきのフォード米国大統領の身辺警護など、輝やかしい実績もさることながら、交通違反の取り締りや、雑踏警備など府民と密接な関係にある警察警備にも多大な力を入れている。

隊のご自慢はいろいろあるが、中でも装備工作班を有していることだという。当班は任務の合間小間に装備の研究・開発をしているが、さきごろ〝爆発物遠隔処理機〟を開発した。これは爆発物を、カメラを併用してリモコン式に運び去ることができる有用な装置で、遠く警察庁からも職員が見学に来たほどである。爆破事件の相次ぐ昨今、この装置に寄せる期待は大きい。

また、ここ数年は不調に陥ってはいるものの、一中の特練隊にある第一小隊は、社会人ラグビーのAクラスにランクされる実力をもっているという別れ際に、隊長がきっぱりといった。「機動隊員を励ます会」の人々に励まされ、隊員も志気が高揚しています。今後もそれに応えられるよう努力します。」

警視庁　第五機動隊

われらがシンボル⑧

「学の５機」にふさわしく、５べんの桜である。日本男児として勇壮、勤勉であれとして日本を代表する花〝桜〟にこれを象徴したものである。

はげまし

はげまし　第８号
発行日　昭和50年１月24日
発行所　機動隊員を励ます会
東京都中央区八重洲5－1－28
〒104　ミツヤビル３Ｆ
☎03(272)3848

謹賀新年

静かに明け初めた平和な日本

年頭のごあいさつ

警察庁長官
浅沼清太郎

新年おめでとうございます。

昭和五〇年の年頭にあたり、機動隊に対する深いご理解とご激励を賜わっております「機動隊員を励ます会」の皆様方に対し、心から敬意と謝意を表するものであります。

さて、本年は七〇年代の後半に入った最初の年でありますが、内外の情勢はますます、激しく流動し、人心の帰趨も予断を許さないものがあります。したがって政治、経済をはじめ、あらゆる分野で変革への動きがきわだってくる年であると思われるのであります。

また、転換期に伴う流動的かつ不安定な状態は、従来から指摘されておりますように、価値観の多様化あるいは法秩序軽視の風潮に拍車をかけ、秩序維持の基礎となるべき社会的基盤のぜい弱化傾向を強め、治安の面にも多くの問題を生じさせるおそれがあると考えられるのであります。

ところで、昨年は、わが国に近代警察が創設されてから一〇〇年という記念すべき年でありましたが、私達は、この一〇〇年という輝かしい警察の歴史を築きあげてきた多くの先輩が、血と汗で得た尊い教訓を忘れてはならないのであります。

「歴史は最良の教師である。」と申しますが、私達は、この一〇〇年の歴史に学び、多くの先輩が培ってきた警察の道統をしっかりと受け継ぎ、常に組織の団結と融和をはかりながら、警察の体制を盤石のものにし「待つあるを恃む。」の体制をもって、まさに難局ともいえるこれからの諸情勢に対処してまいりたいと思うのであります。

私は、警察は「国民とともにある警察」でなければならないと考えております。

が、このような「混迷の時代」であればこそ、激動の波に押し流されることなく、警察の基本をしっかりとふまえて、公平中正かつ誠実に職務の遂行に当るとともに、現代のような「不安の時代」であればこそ、国民の中に飛びこんで、喜びと憂いを共にするという確固たる心構えが必要だと考えるのであります。その意味で、この「励ます会」は、まさに国民と機動隊を結ぶ「かけ橋」の一つであり、平素のご激励、ご支援に感謝しているのであります。

機動隊は、これからの難かしい時代に対処していく警察における集団警備力の中核的組織として、たゆみなく研鑽を積み有事に際しては、集団的不法行為や災害等の脅威から社会の平穏と国民生活の安全を守り、もって国民の期待にこたえたいと思うのであります。

新らしい年のはじめにのぞみ、所懐の一端を申しあげましたが、終りに当りまして、貴会のますますのご発展と会員およびそのご家族のご多幸とご健康をお祈りして年頭のごあいさつといたします。

新春雑感

代表世話人
大内俊司

今年の正月三箇日はゆっくり家で過ごすことができました。静かに家に寛いでいる限り、そこだけは不景気や世事から隔離され、鋭気を養うこよなく貴い空間といえましょう。

新年を祝い、あらたな感慨にひたっていると、やはり私達日本人のことに思いが廻ってまいります。これからは、世の中がこれまでと異なり多元的な価値観のもとで激しく動き、それにつれて日本人の心も大きく変わっていかざるを得ないだろうということです。現在、政治、経済という私達をとりまく外圧が長い間培われた日本人の生活や心に変化を強要しているだけに、総論ではとにかく、個人が受けとめるとなると納得し難く、不平不満を誘いやすい深刻な問題を数多くはらんでいます。けれど日本人は潔くこれを受けとめざるを得ないと覚悟を決め、昨年来、日本人の環境の変化に対する豊かな適応力という優れた資質をもって、それを乗り超える努力を精一杯重ねていると思います。どんな時代でも一部のはねあがり者は出ましょうが、第三者の共感を呼ぶことはないと確信しております。何故なら、昨年の一連の爆破事件の反撃によっても、機動隊をはじめ皆様の地道な努力が、私達日本人の心情としっかり結び付いていることが明らかだからです。すなわち世論が「機動隊員を励ます会」に入会しているようなものです。

最近外国を廻って来た人々に聞きますと、異口同音に現在の世界的な経済の混乱を受けとめる姿勢は、個人でみる限り日本人が一番しっかりしているといいます。昭和50年代のこれからの数年間、日本人は辛い思いをしなければならないでしょうが、困難を克服して、自らの手で立派に自分を育て上げるでしょう。その時、日本人が何を貴び、世界にどのように受け入られる国民となるか期待をこめて見守りたいと思います。

正月三箇日の貴重なくつろぎを与えてくれた皆様のたゆみない努力に感謝しつつ、明日からの仕事に取組むあらたな覚悟を決めた次第です。

会員と隊員のひろば

「モチつき大会」に招かれて

東京　R生

昨年末、機会に恵まれて、東京・牛込にある第8機動隊での「モチつき大会」に招ばれ、知られざる機動隊員の一面を肌で直接感じることができた。

定刻十時、古びた木造の隊舎つづきの中庭から朝冷えの空気をつんざいて威勢のよい隊員たちの、モチ付きの掛声が聞こえはじめる。とてもあの勇ましい機動隊の隊長さんとは思えぬような温厚な岩田隊長さんじきじきのご案内で中庭の一隅に据えられた数個のうすの前へ…。

何しろ、こんな場ちがいなことの不なれな、むくつけき荒武者の面々が集まってのモチつきのこと、さぞかし男くささがプンプンしているだろう、と思いきや、これが意外や意外？ビックリするほどの手ぎわのよさ、なのである。

米をとぐものから、本番のもちつき係とコネ係の呼吸の合わせ方まで……どれを見ても、水が流れることくで、全員がまったくムダな動きをしていないのである。さすが、一糸乱れぬ隊員の日ごろの規律がこのような勤務外の集いにも十分うかがえたのである。

モチつき会場は2ヵ所で、全部で百キロ以上のモチをつくとのことだが、この日ばかりは、日頃の厳しい勤務の緊張から解放されて和気あいあい、皆、童顔をほころばせてモチつきに精魂を傾けている。それでも岩田隊長が近づくと、打ちとけた中にも、折目正しい彼等の態度が同行する私にもヒシヒシと感じられる、その間にも、湯気の立ったふかし上りの米が、あちこちのウスに入れられてゆく。さっそく岩田隊長に「初づき」の要求がある。

そこでまたまたおどろかされたのである。失礼ながらおそらく五十路はとうに越しておられると思われる岩田隊長が、いともかんたんに息ひとつ切らせずにキネを振り上げられるのである。「ヨイショ、ヨイショ」という隊員の掛声に合わけて、軽々とキネを持ち上げられる……しばらくして「それでは、あなたに」ということで、隊長のキネを受けとり、二・三回ついて見てまたビックリ。なんと意外とキネが重いんである。

数回もたたないうちに、腰は定まらないワ、手は重くなるワ、息ははずむワで、とにかく大へんな重労働なんだということがわかったのである。再度にわたって失礼ながら、岩田隊長とは少くとも十才は違うであろう私の方が逆にフラフラなのだから、わが身の不甲斐なさを嘆くよりも、改めてきたえ上げた機動隊諸氏の体力についてつくづく考えさせられたのであった。

さて、そうこうするうちにつき上ったモチを隊員が、一切女気なしで、納豆、大根オロシを和えた「カラミモチ」「アンコモチ」を、これもまた大へん手ぎわよくスピーディにつくってゆくのである。

お世辞ではないけれど、味の方もなかなかイケる。ふかし器、セイロ、ウス、キネ一切合財、民間からの借り物であるから、ほとんど、リハーサルらしいことはしていないはずなのに……と思うと、機動隊員のこのような集団の力といおうか、機動力というべきか……その限りないパワーに改めて敬意を表したくなったのである。

私の生きがい

中国管区機動隊岡山小隊　小林三雄

あなたの生き甲斐は？総理府が行なった世界青年意識調査によると、調査した十一ヶ国の青年たちが第一位に選んだのは、お金でも、地位でも、仕事でもなく、「誠実」、「愛」という項目であったということです。

激しい対立や不信感のみちた現代においても、十一ヶ国すべての青年たちが一様に選んだ「誠実」、「愛」は、まさに人類の一つの目標ともいえると思います。

そして、同時に、市民の暮しを守る事を責務とする警察官にとっても、欠かすことのできない徳目だと思います。

なぜなら、真に市民の警察を自負する以上、仕事に対しての中に溶け込むためには、民衆情の心が必要だからです。

そして警察官に絶対欠かす事のできないもう一つの徳目、それは、経済的な繁栄と平和な社会の中で、多くの国民が忘れ去ろうとしている使命感です。それを私が切実に感じましたのは、江田島海軍兵学校の教育参考館で見た特攻隊員の遺書からでした。その中には、死を目前にしながらも、死ということについて恐れ悲しんでいる内容の遺書はひとつもありませんでした。

人間として二つの世に生れ、命の惜しくない者はいないと思います。

しかし、自分の生れ育った懐しい山や川が、そして親兄弟が、大きな危機に直面している時、自分の尊い生命を犠牲にしてもこれを守らなければならないという純粋な使命感が彼等を決心させたのだと思います。

今日も、平和すぎるぐらい平和な一日が終ろうとしています。沈みゆく太陽、当時の若者は明日の平和を願って、いくたびもこれを見つめたのではないでしょうか。そう思うと胸が熱くなり、使命感の尊さを思わずにはおれませんでした。

私は現在、機動隊員として治安警備、災害警備、雑踏警備などのあらゆる仕事に従事していますが、一線の警察署、派出所、駐在所など勤務している警察官と違うところは、市民との接触の余りないことです。本当に市民が、機動隊というものを理解してくれているだろうか、と不安になる時があります。事実、理解してくれない市民がいることを痛感する時があります。

デモ警備などの時に浴びせられる「国家権力の手先」、「税金ドロボー」等の罵声、特に同世代の若者達から浴びせられる罵声には心の中を隙間風が吹き抜けるようなさびしさを感じます。

でも私は信じたいのです。私達が誠実と愛をもってした行動なら、罵声を浴びせかけた若者も成長した時必ずそれを理解してくれるとまたほとんどの市民が治安維持の使命に生命を賭けた我々を信頼し、応援してくれていることを。

国家公安委員長 機動隊を視察す

去る十二月二十六日、午後二時三十分より、およそ一時間にわたり、警視庁第一機動隊隊庭において福田一国家公安委員長による機動隊視察が行なわれた。

国家公安委員長が機動隊を視察するのは慣例であり、同委員長の交代が行なわれた場合に実施されるのが通例。機動隊が所属している都警察（警視庁）などを指揮・監督する警察庁を管理下においてある国家公安委員会の代表である同委員長が、全国の機動隊を代表して警視庁機動隊を視察するものである。

この日受閲された機動隊の訓練は、一・二機のうちの五個中による治安合同訓練、七機のレンジャー部隊によるレスキュー訓練および特科車両隊による車の放水などであった。これらの訓練が次々に行なわれたあと、対爆装備資器機・警察車両を視察した。

そして場所を隊舎に移し、槇野一勇警視総監、各機隊長同席のうえ、中村克己第一機隊長より隊務概況報告がされた、再び隊庭にもどって国家公安委員長の告示をもって三時五十分過ぎに全終了となった。

その中で、今日の社会情勢を治安の立場から分析し、「人心の動揺、社会の不安という不穏な情勢は昭和六・七年頃の社会情勢に酷似している昨今、身を挺して国民を護る諸君こそもっとも賞讃されるべき人である。今日披露された力強い訓練と崇高な精神で今後も邁進されることを願ってやまない」と隊員を鼓舞した。

特別寄稿 第五回若い根っこ丸洋上大学に参加して

警視庁第六機動隊　内藤裕治

初冬の横浜港、加藤日出男団長のもとに、全国津々浦々から集った四百余名の青年男女の夢を乗せ、海と船と出逢いに全てをかけて第五回若い根っこ丸は十一月間の航海へ旅立った。

加藤団長曰く、「人生は出逢いだ。ぼくは美しい人間の出逢いに泣く。涙よ誰に遠慮がいるものか。」と。

さて、帰国後早くも一ヶ月を迎えようとし、日々の激務に追われる今となっては、あの十一日間はまるでタイムカプセルにでも乗って別な世界にいたような気がするが、思いつくままあの日々をふり返ってみたい。

誰しも別れを惜しむ出港、やがて港の人影もはるか彼方の波間に消え、空と海と船の毎日が始まる。船旅ならではの気やすさからか、船内いたる所で知らぬ同志が話しかけ合い、まるで旧友との集いのようなふんい気が広がっている。しかし、それとはうらはらに内気で話し下手な私は陸と同じ様に、話しかけられても返事をするのがせいいっぱい、船室にこもりがちな日が続いた。

そんなある日、これではだめだ、ここは一番意を決し自分のカラを破り、自己の限界を試そうと決心し実行に移した。案の定、大部分の人が警察官、機動隊員と知ると一瞬けげんな顔をしたが、そこは同じ若者同士、話すうちに共通の話題を見出し、やがてすっかりうちとけ忙しい日課の合間を縫って、三十代の労組の人と酒を汲み交わし人生を語り、また競争率のやたら高い女性（男性六対女性一）を必死の思いで探し当て、赤面しながら女性の心理についての氷山の一角を聞かせてもらい、自称大和男子の心意気も十二分に理解してもらった。

そしてときには一人、抜けるように澄んだ青空をながめ、果てしなく続く大海原に我を忘れ、しばし瞑想にふけることもあった。

こうして最初の引っ込み思案はどこへやら、眠る時間ももったいないほど充実した日々を送ることができた。

そして洋上大学のハイライトであるサイパン上陸……。目を見はる美しい自然、素朴な人情、楽園とはまさにこのことかと感動する反面、三十年前にこの足元で激戦が続き幾名の生命が失われ、今なお島に散在する赤く錆果てた旧日本軍の戦車、野砲、高射砲の数々。それは歳月の流れを無言のうちに語り、平和の意義を我々に問いかけているかのようであった。

ああ!!幾多の英霊よやすらかに……。

あのバンザイクリフで線香を焚きながら、はるばる来たこのサイパンで日本ではなくなりつつある何かに気づいたのは私のみではなかったであろう。

さらに加藤団長は言う「人生は出逢いだ。」と。しかし私は「人生は別れだ」とも言いたい。だがその別れは、これを機にひとまわりもふたまわりもスケールの大きい人間に成長し、いつか日本のどこかでの再会を楽しみの別れでありたいと思う。

今回参加した我々機動隊員六十名は、今日もそれぞれの持ち場で洋上大学で得た小さな根っこをすくすくと育てていることであろう。

ともあれ我々にこの意義ある洋上大学に参加の機会を与えて下さった若い根っこの会、そして陰に陽に我々を励まし、我々に機動隊員としての誇りと夢を与えて下さった機動隊員を励ます会の皆様、さらに歳末の激務のさ中に我々を気持ちよく送り出してくれた同僚、それぞれの皆様に紙面をお借りして、厚くお礼を申し上げたい。

そして、この貴重な体験を生かし、これからの私の警察官としての人生に大いなる糧とし、皆様のご厚意に報いるべく努力しなければならない。

愛唱歌二編

あの歌を唄うと郷里が懐かしくなる、この唄を聴くと思いだす、というような歌が誰の心にもあるもの。そうした歌はいつまでも忘れ難く、またふと口をついててくるものです。本紙に掲げた二編の歌は、日頃から私たちが励ましている機動隊員の皆さんが、時には合唱し、またある時にはひとり心の中で唄い続けてきた歌です。会員の皆さんもぜひ暗唱し、機会をみて隊員の人々と肩を並べて合唱して下さい。

治安の闘士

作詩・作曲　明本京静

一　鐘はなる鳴は昇る自由の夜あけ
さつ収と戦かに正しく強く
国の治安を担いて起こる
ああ　感激のこの使命
お、　挙り起つ吾らこそ

二　故郷の山や河父母わが子
友もきけ雄叫びを五月の魂呼
破邪の竹棒練磨の日夜
お、　満々のこの心
お、　挙り起つ吾らこそ

三　風吹け国徒来れ何するものぞ
断呼起つ我ら在り死をも恐れず
熱血こるところ理想の楽土
お、　期するありそのあした
お、　挙り起つ吾らこそ

治安の闘士

この世を花にするために

作詞　川内康範
作曲　猪俣公章

一　若いいのちは誰でもおなじ
空と海とが好きなのさ
けれども街が暗いから
この世を花にするために
いのちを歌う機動隊

二　恐もなさけも人間らしく
してもみたいさかけたいが
それから自由になりはせぬ
(だけど使命はまげられぬ)
この世を花にするために
鬼にもなろうそうじゃ機動隊

三　何より好んでそしりをうける
損はやめろと言われても
信じているんだ太陽を
この世を花にするために
明日に生きる機動隊

会員告知板

昭和五十年度会費納入等についてお願い

年もあらたまり、会員の皆様方はますますご健勝のことと思います。

さて、新らたに入会された方の数を次のようにお知らせします。

法人会員――二五八社
特別会員　五三六名
一般会員　二、二六一名
合計　三、〇五五名
（一月十八日現在）

本紙九号紙上にて発表の上、追って個別に必要書類を送付申し上げます。

会員増幅状況

入とともに会員証更改手続きをされますようお願い申し上げます。

なお、詳細につきましては

機動隊めぐり(8)
警視庁第五機動隊

――年末から正月三が日は、正月休みどころか警備の連続です。三十一日の夜からは、初詣、皇居一般参賀、そして山谷地区警備と続きます。

一般の人達が休みを満喫している時の勤務に隊員達は、残念がるどころか生きがいさえ見出していようです――頼もしいかぎりですヨ――とは、警視庁第五機動隊長・川島昭さん。

市ヶ谷の自衛隊のすぐ隣、仲良く四機と同居する第五機の隊庭では、一〇台ほどの車両が整備中。

同隊は、昭和二五年第五方面予備隊として誕生以来、はや一五年、今やその名も「学の五機」として内外に知れわたっている。

「学の五機」のいわれについては、諸説が乱れ飛んでいるが、これまで同隊員の昇任試験の合格率がきわだってよかったことから、第三者がこれを名付けたというのがどうも本当らしい。この説に五機発祥の地である小石川台が大学に囲まれていたという地理的条件も加わったのかもしれない。

――過去の大きな警備で最も印象深かったのは、日大紛争警備、東大封鎖事件など大学の警備です。この「学の五機」の名と奇妙に結びついているのもなにかの因縁でしょうか……――

もちろん、知識ばかりの頭でっかちではない。日頃の厳しい訓練では、迅速な行動と統制ある活動を指標に、警備にあたっての事態の収拾と対処方法を頭と身体で収得している。

――毎日の訓練では、機動力を十分発揮できるような研究を続けています。機動隊が機動隊たるゆえんは、やはり機動力です。先日、部外の方に五機の活躍は〝学〟よりも〝疾風〟の五機だねといわれは時は、この上もなく喜しかったですヨ――

さて、前述のように現在の五機は、兄貴分の四機と隊舎を同じくしているが、独立隊舎と違った同居のよさが五機にはあるという。

――おたがいが、いいライバルとして競い合い、磨き合う同居の理想的な姿があります。出動の際などもどちらが早いかスタート競争です――

隊員達の往き交う隊庭に立ち、隊舎を見上げる時、四機、五機合わせて六百余名が事に備えるにしては、いささか狭いように思われる。しかし、この狭さをものともせず、活躍を続ける五機の姿を最も適確に表現する言葉をひとつの歌に見つけた……隊歌である。

治安の誓い固くして
叡知と技を鍛えつつ
隊旗のもとに集い合う
精鋭の意気天を衝く
おおわれら第五第五機動隊

警視庁　第六機動隊

われらがシンボル⑨

"明るく、強く、頼もしく"という六機の隊訓を、はやてのごとく野山を駆けめぐる牡鹿の角によりシンボル化したものである。

はげまし

はげまし　第9号
発行日　昭和50年2月24日
発行所　機動隊員を励ます会
東京都中央区八重洲5－1－28
〒104　ミツヤビル3F
☎03(272)3848

昭和五十年に向って力強く始動

年頭部隊出動訓練

昨年はフォード米国大統領の警備という近年まれにみる大警備を行ない、また相次ぐ爆破事件など、ことさらに下半期は緊迫した日々の連続であったといえよう。

こうした背景のもとに新年を迎えた警視庁機動隊は、去る一月十一日、東京の明治神宮外苑絵画館広場にて多数の関係者および本部部隊・婦人警察官部隊・方面機動隊など十一部隊合わせて約三千五百人によって行なわれた大規模な年頭部隊出動訓練に参加した。

首都の治安維持を万全に

今回の訓練は、警視庁の多数の関係官庁員を結集して行なわれ、年頭にかける意気ごみがひしひしと感じられた。

警視庁がその総力を結集して行なう行事は、特別な式典などに限られるが、この年頭出動部隊訓練は数少ないその一つにかぞえられる。

今年は、とくに警視庁創立一世紀の初年にあたり、全庁員の気分の一新と士気の高揚を図り、もって複雑困難な警察事象に対処する覚悟を新たにし、首都の治安維持に万全を期する、とこの訓練の目的に謳われていることから、警視庁の本年にかけるなみなみならぬ決意のほどがうかがわれる。

主な訓練とその内容

この年頭部隊出動訓練は、寒風が身を切る早朝七時よりおよそ一時間にわたって実施された。その訓練内容はつぎの通り。

一、招集訓練　自主参集
二、出動部隊訓練　部隊の集結・整閲・分列行進
三、残留部隊訓練　年頭訓練に相応する訓練

部隊編成は出動部隊と残留部隊に大別される。出動部隊は、機動隊・本部部隊・警察学校部隊・方面機動隊・婦人警察官部隊による徒歩部隊、交通機動部隊・自動車警ら部隊・公安特科部隊機動捜査隊特科車両隊で編成された車両部隊および航空隊・音楽隊による特殊部隊の三部隊から成り、残留部隊は、所属部隊で編成される

また、出動訓練に使用した巡視車・白バイ等の車両は合わせて一八九台、ヘリコプター七台という大規模なもの。

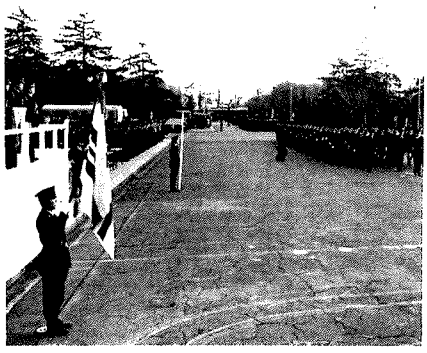
華やかな分列行進

午前六時五五分の人員報告が終わると同時に国旗が掲揚され、訓練が開始された。

訓練のハイライトはやはり分列行進。音楽隊を先頭に徒歩部隊・車両部隊と続き、およそ三〇分にわたり絵画館前広場に設置された観閲式場を中心に行進、その中で婦人警察官部隊がひときわ華やかに映った。

分列行進が終わると観閲官訓示が行なわれ、ついで警視庁の歌を斉唱、総指揮官による訓練終了報告がされ、国旗降下とともに終了した。

およそ一時間にわたってくりひろげられた訓練を通じて、一糸乱れぬ陣容のみごとさを目のあたりにした沿道の市民の中から、期せずしてさすがは警視庁という賞賛の声があがり、首都の護りの固さ、頼もしさが改めて強く印象づけられたようであった。



昭和五十年度年次総会のお知らせ

当会は、昨年四月の設立総会を皮切りに十月に臨時総会、十二月には大阪支部発足会と全会あげての行事を行なう一方、会員個々にも機動隊の数々の行事への支援、参加活動を横極的に継続し、実り多い最初の一年を終えようとしています。これもひとえに会員の皆様方のご努力とご協力の賜物と感謝しております。

さて、当会では、一年間灯り続けた市民の灯を、さらに強い光明を放てるようにと、来る四月上旬に年次総会および懇親パーティーを開催する予定です。とくに今開催におきまして、警視庁音楽隊のご協力をいただき、作曲家でありかつ歌手としてもご活躍している、藤山一郎先生指導による当会の詩二編「機動隊員をたたえる歌」および「機動隊員を励ます歌」（本紙八号参照）の歌唱指導を予定し、盛大な会になると思われますので、多数の方々が参会されますようご案内申し上げます。

なお、詳細につきましては次号紙上にてお知らせしますので各位にはお見落しなきようお願い申し上げます。

今月のことば

極限状態にも活路あり

人間、誰でも極限状態に追いつめられると、つい本性がムキ出しになってしまうもの――ということは誰でも知っていることなのだが、さて実際、本当の極限状態に直面したといえる人はごく少数の方しかいないのである。

そもそも、どういう状態を指して極限状態というか、という定義がこれまたなかなか判定しがたいのである。

他人の冷静な眼で見たら大した事件でなくても、本人にとっては、この世の終わりのような極限状態に追い込まれているような切っぱつまった気持になっている場合だってあるものである。

戦争体験者の方々は、多かれ、少なかれ極限状態といえるような事態に遭遇されたと思われるが、それでもいまになってジックリ考えて見ればそれが本当のギリギリの最悪の場面であったかどうか、ハッキリ、そうだったと断言できる方は意外と少ないのではないだろうか。

どうも、最近の人達の言動には、いわゆる極限状態的なあるいはヒステリックな騒ぎが多いと思われる。今様の言葉でいえば、オーバーな、というのだろうか。ほんのちょっとした事でも、まるで地球の破滅のように大袈裟にまくし立てる。それにまた輪をかけたように付和雷同する輩がゴマンといるのである。

"小人和シテ同ズ"がウヨウヨしているのだから近ごろのわが国のヤカマシさは筆舌に尽しがたいものがある。

いちいち実例を挙げぬまでも、そのような「極限族？」の被害を受けられた方ならば、いちいちご納得がいくはずである。

えらそうに、かく申す私も、小人根性丸出しで、何か小事件のたびに右往左往、つい本性ムキ出しにしては恥をかき、毎度後悔の涙にくれている小市民の一人なのだが、おたがい仙人部落に住んでいるわけじゃなし、なかなか超人的な境地にはなれぬものである。

たしかに、こう情報時代華やかになってくると、情報なしの生活が三日も続いたら、大ていの人間は、情報飢餓状態に陥入って落着いていられなくなる。それがなおのこと極限族の跳りょうを許す結果にもなっているわけだ。

ここらで、われら日本人もそういう他動的なものに惑わされることなく、もう一度腰を据えて周囲を見回わしたいものである。おりしも空前の大不況といわれる今日このごろ、ジックリ構えるにはまことによいご時世ともいえそうだ。

本当の極限状態に追い込まれて予期されなる前に一歩下って回わりを見直せば案外活路が幾条もあることに気付くのではないだろうか。

それにつけても、機動隊員各位の態度には感服のほかはない。それが仕事だとはいえ誰が見ても極限状態であるというドタン場に際会しても、本性などはサラサラ出さず、ひたすら事態の好転を狙って地道に待ち続け結局最後に活路をひらくさまは、今日、この苦しい経済情勢において、いかに身を処すかに苦慮なさる方々に何かしら鋭い指針を与えてくれているように思えてならないのであるがどうであろうか――。

機動隊物語(8)

前代未聞・安保警備（前）

機動隊誕生以来二十余年の歴史の中でもっとも激烈で、しかも、今日の機動隊にいまなお教訓を残しているのがあの第一次安保反対闘争警備であった。

この第一次安保反対闘争は、三四年四月から三五年七月までの長期にわたり、安保条約改定阻止国民会議が軸となり、大量動員による国会包囲の形で第一次統一行動から第二二次まで、しかも、行動の半数は無届デモにより強力に展開された。

この間、二度にわたる国会乱入事件をはじめ、何回か国会、官邸等に突入をはかって警備部隊に激しく突き当り、阻止車両に放火するなどの暴挙を行なったほか、総理大臣をはじめとする安保条約調印全権団の訪米に際し、これを阻止しようとして空港内の一部を占拠する事態や、いわゆるハガチー事件をひき起こしたのである。一方、右翼は、危機感を強め街頭宣伝活動を活発に行なうなど、反対勢力との対決姿勢を示し、維新行動隊によるデモ隊突入事件等を引き起こした。

さて、三五年六月一五日、第一次安保闘争は、この日を中心に荒れ狂った。

文化人、学者といわれる人達の多くが安保に反対することが、即進歩的であるかのごとく反対を唱え、反対運動は、火に油を注いだかのように盛り上った。安保改定期日の六月一五日前後には国会周辺はもちろん、いたる所で反対デモが行なわれているという状況であった。

これらに対峙する機動隊の装備はと見ると、全員鉄カブトはかぶっていたものの、楯は木製の小さなものを前列の数人が持っている程度で、現在のそれと比べれば、まことにお粗末なものであった。

部隊配備は、すべて内張りで、南通用門は門の内側を資材車や輸送車等で押え、車両をロープで立木に固定し、守りをかためていた。

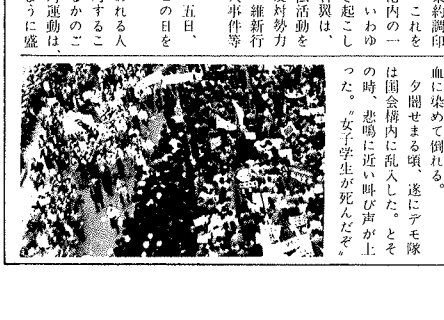
時間の経過につれ、国会周辺は反対デモで埋まり、いつしか南通用門には学生集団がとりつき、歩道の敷石を割り、部隊にめがけていっせいに投石をはじめた。投石は射程外のため足元にころがってくるだけであるが、その一瞬、隊員達の顔には緊張の色がみなぎった。

学生達の投石は、激しさを加え、ハンマーやバールを使用して門柱を壊しはじめた。

次の手があがるが放水によってすぐに消される。

ひとりの隊員の鉄カブトに"ガーン"という音をたてて石が当り、たちまち顔面を鮮血に染めて倒れる。

夕闇せまる頃、遂にデモ隊は国会構内に乱入した。とその時、悲鳴に近い叫び声が上った。"女子学生が死んだぞ。



就任のごあいさつ

警視総監　土田国保

このたび、槇野前警視総監のあとを受けて警視総監に就任いたしましたが、時局重大な折柄、首都の治安維持の責務の重大さを痛感いたしている次第であります。

私は、二十八年にわたる長い警察生活の中で機動隊の諸君と苦楽をともにする機会もたびたびありましたが、常に青年機動隊員は、わが国の治安維持のため、昼夜をわかたず真剣に取組んでいる姿をまのあたりに見て、この若人の心意気を一人でも多くの国民に理解して欲しいものだと願っておりました。

意義ある警視庁創立百年を迎えた昨年春皆様のあたたかいご理解が大河のように結集されて「機動隊員を励ます会」が創立されたことを知り将来を担う若い隊員の心に大きなささえとなる立派な燈台ができたというほうしさで感慨無量のものがありました。

その後、貴会は全国的に輪を広げ着実に発展されて機動隊を激励する顕著な活動を展開されておりますことに対し深く敬意を表するものであります。槇様もご承知のとおり機動隊は、終戦直後の混乱期における集団警備力として、昭和二十三年創設されたのであります。物資欠乏の時代で十分な警備装備もないまま治安の闘士の気迫のみで、東宝砧撮影所争議をはじめ流血の吾妻会館事件、メーデー騒じょう事件等の難局を打開して隊の基盤を確固不動のものにしたのであります。

その後技術、装備の強化充実に心血を注ぎ、安保闘争、沖縄返還阻止闘争、連合赤軍あさま山荘事件など、火炎びん、爆弾、銃器まで使用された厳しく困難な警備を血と汗と涙で遂行して、治安を確保したのであります。

特に日米修好百二十年の歴史の中で、初めて来日した昨年秋のフォード大統領警備では警備部隊の中核となって不眠不休の活動を展開してその責任を果たし、大統領から「すばらしい警察活動であった。」との賞讃を受け国際親善に寄与しました。

また、オリンピック東京大会や恒例の皇居参賀、初詣等の雑踏警備においてもスマートに国民の安全を確保して集団警備力の真価を遺憾なく発揮しております。まさに機動隊のあゆみは、わが国の戦後史であるといっても過言ではないと思うのであります。

現在の治安情勢は国民を無差別に殺傷した連続爆破事件や血で血を洗う陰惨な内ゲバ殺傷事件など目的のためには手段を選ばぬ極悪非道の犯罪が続発の傾向にあり、また経済不況に伴う社会不安は法秩序軽視の風潮によって増幅され、予断を許さない厳しいものがあります。この情勢に対処する機動隊は、さらに精強でなければなりません。

私は、純真にして正義感に燃える若人達とともに、国の平穏を確保して、会員諸兄のご期待にそいたいと念願しております。

どうか、身命を賭して活動する隊員にますますご理解を賜わり、ご支援をいただきますようお願い申しあげますとともに、会員皆様のご多幸とご発展をお祈り申し上げまして就任のごあいさつといたします。

感謝のことば

前警視総監　槇野　勇

私は今回お許しを得て退官することになりました。今日まで寄せられたご芳情に対し厚くお礼を申し上げます。

私が警視庁在任中の十年間を顧みますと、昭和四十二年の羽田事件をはじめとする熾左暴力集団の街頭暴力行動から一連の爆弾事件まで重大警備事件が続発したことが忘れ得ぬ思い出となっております。

これら警備事件の続発に対して若い機動隊員が「自分がやらなければ誰がやる」という責任感にもえて死中に活を求めた姿が未だに私の脳裏から離れないのであります。

私は、この熱血あふれる若人達に限りない愛情を覚え、折あるごとに激励してまいりましたが、何分にも若い青年であるだけに彼らの心の隅には一抹の不安にも似た気持があったのではないかと推察されたのであります。ところが、昨年三月「機動隊員を励ます会」が誕生して、数々のご激励をいただいております。さぞかし隊員達は「自分の仕事が社会のためになっている」という実感を肌で感じてます治安維持に対する決意を強めていることと思うのであります。どうか、この「青春の集団」、黙々として社会の礎として任務を遂行している機動隊にますますのご支援をお願いいたします。

終りになりましたが、会員皆様のご健勝を衷心からお祈り申し上げ、私のごあいさつといたします。

さようなら槇野さん

約二年半の間、警視総監として東京都の治安を預り、二千万都民に親しまれ、頼られてきた槇野　勇氏が、さる、二月一日付をもって、惜しまれつつその任を退いた。

大正六年四月十八日、奈良に代々伝わる医家に生まれた。昭和十六年十月、東大法学部在学中に高文試験に合格、同大学卒業後、昭和十七年一月に、当時の東京府に奉職したのがふり出し。

太平洋戦争開戦後ほどなく昭和十七年一月には応召、海軍主計中尉として活躍、翌昭和十八年十月には大尉に昇進。

戦後は、昭和二十一年の群馬県勤務、同二十二年の福島県勤務をはさんで、昭和二十九年七月、滋賀県警察本部長に就任。ついで兵庫県警察本部警務部長、大阪府警察本部刑事部長などを歴任、昭和三十五年四月、警察庁刑事局捜査第二課長に就任。昭和三十八年五月同第一課長、同年八月には同人事課長を経て、昭和四十年三月、警視庁刑事部長に就任した。

昭和四十二年七月、同警務部長に転じ、四十四年十月副総監に就任、四十七年六月、警視総監に昇進して、今日に至るまで約二年八ヵ月の間その任を全うして勇退の運びとなったのである。

機動隊員を励ます会は、槇野氏総監在任中に発足、発足総会懇親パーティーには臨席ごあいさつをいただいており、本紙「はげまし」創刊号にも祝辞を寄せていただいているなど、機動隊員を励ます会の生誕から今日の発展に至るまで、陰に陽にご支援をいただいてきた。

私ども機動隊員を励ます会の会員にとっては、まことに名残り惜しいことではあるが、同氏のこれまでのご苦労に心からお礼を申し上げ、こんご、のご健康とご多幸を祈りたい。

会員と隊員のひろば

機動隊鏡開き餅つき会

岐阜県警機動隊　北川　栄

北風が吹きすさむ寒空の中に、一段と高い歓声が流れ響いている。そこには柔剣道衣姿の隊員や警備常装の隊員、相撲のマワシ姿の隊員達が顔を赤く染め、つきあげられる餅に一喜一憂していた。

本日の餅つき会は県警機動隊発足以来初めての試みであり各分隊ともこの日のために、前前日より創意工夫し、本日の姿に相成った訳である。当初、寒さのため、外色を頭からスッポリかぶっていた隊員達も、いざ蒸した餅米を臼に入れるや俄然、一張り切り出し、我先にとばかりまるで蜂の巣をつついたあり様であった。

来隊されていた本部長、警務部長も自ずから隊員の中に入り杵を振りあげられ、そこに僅かな時間ではあったが県警最上級幹部と我ら機動隊員との間に意思の疎通が生じたのである。

昼食会には報道関係の記者等を招き、機動隊自慢の料理人うが、ぜんざい、キナコ餅、すハギ、オロシ餅等をご馳走した。

本部長もことのほか御満悦で昨年末に於ける激務に対する慰労と本年への期待の言葉を述べられ、和気あいあいのうちに鏡開き餅つき会の幕を閉じた。

会員の声

号令の世界

名古屋　I生

近ごろの学校では、始業のベルが鳴って先生が教室に入って来たときのあの「起立！礼！」というのをやっているのだろうか。

おそらく、そんなやり方はもうどこでも見られないだろう。先生が来る、皆が席につき、私語がおさまり、何となく授業が始まる――といったところだろう。

かくいう小生、小学校入学は戦時下の国民学校、中学入学は戦後の新制中学と、新旧二つの教育体制を二つながら経験しているので、「起立！礼！」も、何となくの方も、つながら知っている。

だが、「起立！礼！」の方は何分にも大分昔のことなので、その記憶たるや、いまはおぼろ……なのである。

先日、機動隊で行なわれたある競技大会を参観させてもらった。

競技の進行は、何をやるにも号令一下、まことにきびきびしていて気持がよい。久しぶりに凜（りん）然の気にふれる思いを味わいつつ拝見させていただいたが、最後に表彰式の段になって、ひときわ思いを深めた。

何人かが名前を呼ばれ、二人以上が壇の前で賞状を受け取るような際、必らずその中の一人が、「礼！」と号令をかけるのである。すると、全員が一斉乱れず頭を下げる。

はじめから、だれが号令をかけるのか申し合わせてあるのかもしれないが、これでことが実によどみなく、しかも一種のはずみをもって進行していく。

戦時下のあの無茶苦茶な全体主義への苦い記憶失せやらぬ人は、号令と聞いただけでアレルギーを起すかもしれない。

しかし、このようにして、久々に号令の世界にふれた小生にとって、それはまことにさわやかにも心うれしいものであった。あながち、心情的な懐古趣味ばかりでもない。

何というのか、集団の中における号令というものの合理性が印象的だったのである。

機動隊員の諸君は、このような日常習慣の中から、集団の規律を肌で学び、あのような礼儀正しい若者となるのだろう。「できればうちの社員に」とか「うちのムコに」などとひそかに考えている会員も多いのではあるまいか？

決意も新らたに　年頭巡視

去る一月二十八日、当取材班は黒田区の横川にある通称「かっぱの二機」を訪問、村上警備部長査閲の年頭巡視を取材したのでその模様をお伝えしよう。

年頭巡視というのは、今年からはじまった行事で、機動隊を指揮・命令する警備部長が新年に際して各隊を巡視するとともに隊員の志気高揚を図り訓示を与えるというもの。

この日は、年頭巡視が行なわれる日ということで、隊員以下隊員一同は早朝から受閲の最後の準備に大わらわ。それでも警備部長の着隊予定時刻の午前十時には受閲態勢も整った。

査閲官が登壇すると、隊長の号令で査閲がはじまった。併列横隊に集合した隊員の一人一人を査閲する。隊員らははじめまでは緊張の色を見せていたが、それでも気合は入っていたようだった。

査閲が終わると場所を隊舎の教場に移し、訓示が与えられ、最後に、隊歌を全員で合唱し、およそ一時間にわたる年頭巡視を無事終了した。

受閲を終え、隊長室に戻ってきた菅野隊長以下各中隊長は、今回の受閲にあたり各隊員が協力し合い、首尾よく終えたのに満足げ。隊長はつぎのように語っていた。

「隊長として、日頃から部下を信じているが、その信じている隊員らが、今日のように互いに協力し、事の大小を問わず一丸となって一事を遂行してくれることは、隊長冥すね。」

会員告知板

●昭和五十年度会費納入について

ついてのお願い

年度がわりにともなう五十年度会費納入および会員証の更改について、つぎのように決まりましたので、ご案内申し上げます。

記

つぎの順序にて行ないます。

一、通知書および振込書の送付（二月上旬。地域により多少のずれがあります）

二、会費納付

三、新会員証の送付

なお、会費納付の際は当会より発送の振込書をご使用下さい。また、旧会員証は新会員証が到着次第、各位にて破棄して下さい。

●会員増幅状況

大井競馬場の駐車場などを借りて訓練等を行なっている。

もちろん、こういった地元民の協力がたやすく得られたのも、日頃、同隊が年来モチツキ大会、少年柔剣道教室、その他大きな行事に、地元民や子供達を招いては融和を計ってきたかすかずの努力によるものである。

「明るく、強く、頼もしく」隊長室の正面に掲げられた隊訓の下に若い隊員達は、市民に理解される。明るい隊。事にあっては強い隊。そして市民に心から信頼される頼もしい隊。を目指して日夜、訓練に勤務にはげんでいる。

六機と聞いて、すぐ頭に浮かぶのが「レスリング」。それほど強いのである。

昨年の国体では、東京代表のほとんどが六機の隊員であり、その実力のほどは、自衛隊レスリングと甲乙つけがたいという。このレスリングが幸して、昨年の警視庁百周年記念武道大会柔道の部では、見事に優勝をさらっている。

――わが隊の誇りは、こういった武道、スポーツばかりではありません。昨年の警部補試験でも並いる諸隊を押してナンバー・ワンになりました。これからの機動隊員は、やはり、心・技・体の三拍子そろっていなければいけません――

品川という地理的な条件から、羽田空港における諸問題は、先ず六機が出動する。ハイジャック、外国要人の警護と忙しい。

――すべての警備にあたって隊員が心すべきことは、日頃から何ごとにも強くあれ、ということです。その意味では昨年行なわれた洋上大学でも、参加した隊員達は、貴重な体験をしてきたと思います。世間の風を知ることは、有形、無形にたいへんプラスになります――

狭い隊舎、隊庭に悩まされてきた六機も、あと数ヶ月で新築六階建ての新隊舎ができるという。この新隊舎での新生六機に大きな期待をかけたいものである。

隊門をくぐってみて驚いた。猫の額といおうか、何ともはや狭い隊庭である。隊舎を見て、また驚いた。プレハブ造りのこれまた狭い隊舎だ。

これに反ばくするように、隊長さんは声高に言われる。

――隊庭も、隊舎も、たしかに狭く、けっして立派だとはいえません。しかし、こういった厳しい状況の中での生活、訓練は、めぐまれた環境では生まれてこないプラス・アルファの何かがありますよ――

熱気の込もった表情でこうおっしゃる六機・津和孝亮隊長。

この狭い隊庭では、訓練らしい訓練はできないので、近くの住民の人達の協力を得て、品川区勝島の同隊の目の前、

機動隊めぐり（9）
警視庁第六機動隊

――訂正とお詫び――

前号・第八号・われらがシンボルの文中で桜とあるのは、梅の誤りですので訂正するとともに、つつしんでお詫びいたします。

福岡県
警察機動隊

われらがシンボル⑩

県花の「梅の花」を中央に機動隊の「機」を表現し、えんじ色をバックに隊訓の「強く」、「賢く」を表わす2本の白線がスマートに走っている。

はげまし

はげまし　第10号
発行日　昭和50年3月25日
発行所　機動隊員を励ます会
東京都中央区八重洲5－1－28
〒104　ミツヤビル3F
☎03(272)3848

ひろがりゆく「励まし」の輪

九州支部発足す

春光うららかな九州・福岡市において、「機動隊員を励ます会」が、また一つ新たな大輪の花を咲かせた。九州支部の正式発会である。支部発会は昨年十二月の大阪についで二つ目、支部会員総数五〇〇名達成をメドに各支部ごとの支部発会式をもとうとの申し合わせが実現したもの。

スクラム組んで歌う機動隊員

春に集う三〇〇人の感銘

さる三月十二日の昼下り。一足早い春の訪れに和む福岡市は博多駅前に最近新装成ったばかりの住友生命ビル最上階のホールは、機動隊員を励ます会九州支部発会式に馳せつけた約三〇〇名の人で埋めつくされた。

集うものは、九州、支部会員約二〇〇名、福岡県警管部および県警機動隊長以下隊員約五〇名、さらには東京本部および大阪支部の世話人有志など。

会は、司会役をつとめた、二宗　正氏からの会員数の現況紹介をもって開会。

まず、九州支部世話人を代表して、自見真吉氏が労多くして報われるところ少ない機動隊員の蔭の力、心の支えとして会の運動を盛り上げ、もって隊員は安んじて治安の確立にまい進されたい旨をあいさつ、同時に来会者に対し、会の運動に対するよりいっそうの理解と協力を呼びかけた。

東京から来会した嘉悦康人氏の発声で乾杯、ついで、九州管区警察局長陰矢時雄氏が立って謝辞を述べ、さらに福岡県警察本部長宮地亨吉氏、福岡県警察警備部長三井一正氏がこもごも立って感謝のことばと県警機動隊の近況を述べた。最後に、県警機動隊長河口典民氏がいかにも第一線の指揮官らしい簡潔で力強いことばを述べて警察来賓側のあいさつを終った。

一方、東京から駆けつけた代表世話人の大内俊司氏は、機動隊員の日頃の忍苦に何とかして感謝の意を表したいという止むに止まれない気持でごく少数の有志が数年前に始めたささやかな運動の芽が、かくもりっぱな全国運動にまで成長したという会設立に至るまでのそもそもの精神とその後のいきさつを披露して、満場の感銘を呼んだ。

大阪から来会した平井逵三氏からも、九州支部発会への祝辞と会の発展を誓うあいさつがあり、最後に、九州支部発会に格別の労をとった世話人の一人である森山満治氏のユーモラスな音頭で万歳を三唱したのち、和やかなうちにも力強い発会式の幕を閉じた。

交流する理解と共感

和やかな歓談の合間に、先ごろ作曲成った「機動隊員をたたえる歌」、「機動隊員を励ます歌」二編の作曲者藤山一郎氏自身のピアノと独唱による試聴テープが披露された。

さらに「この世を花にするために」の歌がバックミュージックに流れるころともなれば、河口県警機動隊長の号令で機動隊員全員が正面に集合し、スクラム組んで、レコードに合わせての大合唱。会場のふんいきはいやが上にも高まった。

思い思いにテーブルを囲んで歓談する機動隊員および会員の方々に感想をたずねてまわったが、後日出席された機動隊員の方からわざわざ感想文を寄稿いただいたので代表して以下に紹介しておこう。

今月のことば

九州支部一会員より

多くの人々の御理解と御好意により、福岡支部も遅ればせながら、去る三月十二日に無事発会式を終え、東京から大阪へと広がった本会の輪を、たまたま新幹線の博多乗入れとほぼ時を同じくして九州の地まで延ばすことが出来ましたことを、御報告申し上げると共に尽力下さった方々に厚く御礼申し上げます。

発会式の前日、福岡では最大の市民の憩の場である大濠公園で、白昼、子供達の遊んでいる目の前で、又々過激派集団の内ゲバが演じられるという事件がありました。革マルか中核かは存じませんが極左グループということでは極めて少数派の同志たるべきはずのものが、互いに殺し合う処まで憎しみ合うというヤクザと同じレベルの敵対心は一体どこから出てくるものでしょう？恐らくそれは、彼らが、自らが人間であり、日本人であるという認識を忘れ、非常に貧しい言葉によって作られた観念の世界に閉じ込められてしまっているからでしょうか？言葉というものは人間が生み出した最大の文化であり、人間を最も偉大にするものでもありますが、時によっては逆に人間が言葉の留置場に閉じ込められ、人間らしく振舞うことを出来なくさせてしまうものなのかも知れません。何事も安易に論ずる前に常に原点たる人間に立ち戻り、人間とは何かという問いかけを忘れてはならないということでしょう。さすれば、少くとも同胞を殺すこともやむをえぬというようなことは、どこをどうたぐっても出てくるはずがありません。特にこれからの日本では、人間とは何でありかくあるべきものでこういう生活環境を必要とする、というようなある程度明確な価値基準を踏まえた上で政治や経済や教育のことを考えてゆかないことには、単純に過去の延長線上に明日の社会をイメージすることは出来なくなってきたのではないでしょうか？

このような一つの転換期に共に生きている機動隊の皆様方に私共が感じ、期待することは何なのでしょう？「励ます会」というのは最近の流行のようでもあり、又、〝励ます〟という言葉の語感には、〝励ましてあげる〟という一方的な感じがしないでもありませんが、実の処はこれは全くの相互作用だと思います。何となく無気力で不安な世相の中で、自分が感銘を受けるような事象に出かった感動や歓びから、それを与えてくれた対象を励ましあうということなのでしょう。私共は機動隊の皆様方のあのたくましい体躯で、いかなる難局にも踏ん張り立ち向っていく雄々しい姿に、何とも云えぬ安心感を憶え、〝励まされて〟いるからこそ、その労苦をいささかなりともねぎらわせて頂きたいということであり、それはあくまで、同胞としての心の交流であり、お互いの精神的な励まし合いの中でそれぞれの持分を全うする活力が湧いてくればそれ嬉しいことだと思います。

「機動隊員を励ます会」に出席して

福岡県警察機動隊員　稲田　明（二九歳）

「機動隊員を励ます会」に出席せよ、と急に言われてあわてて柔道衣を背広に着替えて出動車に飛び乗った。判っているのはただ住友ビルの十三階であるということだけであった。エレベーターが十三階に着きドアーが開いたとたん、軽い気持で出席した自分の気持が一発で吹き飛んだ。ロビーは一見して会社の重役と判る人達ばかりで一杯であった。そこに、ずらっと並んだ会員の方々の顔ぶれを見て、一瞬、ハッとした。

「われわれ機動隊員を励ます会」ができたことは知っていたが、その九州支部発会式に招待され感銘を受けて出席した次第であった。

まず、会場に招待され、次にテーブル上の料理の豪華さに再び驚いた。

「機動隊員を励ます会」を単純かつ形式的に考えていたが、「われわれ機動隊員を励ます会」の会員は、うわべだけで集まったのではなく、利害関係を抜きにして、ただ機動隊員の労苦を物心両面から何らかの形で援助したいという気持で集まった者ばかりです。機動隊員の皆さんが厳しい試練に耐え、日本の平和と市民の生活を守るため黙々とその職務に邁進されているとき、その背後に物言わぬ大多数の善良な市民がついているのだ、ということを知ってもらうために来ていただいたのです。」という言葉に新たな感動と職責の重大性に身が引締る思いであった。〝それにしても、機動隊長が一語一句かみしめるような口調で話された「我々は皆様方の御期待に応えるべく連日血のにじむような訓練に邁進しております。」の言葉を聞いた時、警察官になって良かった、そして、機動隊員として、ブルーのマフラーをしめることが出来る自分が誇らしく思えると同時に胸の中にある闘志がこみあげ目頭が熱くなってきた。機動隊は「この世を花にするために」あるのだ、我々を理解してくれる人々はこんなに多勢いてくれたのだ、我々の仕事が認められている、励まされている、頼りにされている、これが実感としてわかった今、国民の生命、身体、財産を守るため、与えられる任務の全てに頑張ろう。そして今日出席されている方々に代表されるすべての善良な人々のために風のようなデモにも、寸刻の油断も許されない空港警備にも、その血を吐くような猛訓練にも、黙々と心に誓った。

福岡県警察機動隊員　倉谷俊男（二五歳）

東京、大阪に「機動隊員を励ます会」ができたことは知っていたが、その九州支部発会式に招待され感銘を受けて出席した次第であった。

まず、会場に招待され、次にテーブル上の料理の豪華さに再び驚いた。

「機動隊員を励ます会」を単純かつ形式的に考えていたが、「われわれ機動隊員を励ます会」の会員は、うわべだけで集まったのではなく、利害関係を抜きにして、ただ機動隊員の労苦を物心両面から何らかの形で援助したいという気持で集まった者ばかりです。機動隊員の皆さんが厳しい試練に耐え、日本の平和と市民の生活を守るため黙々とその職務に邁進されているとき、その背後に物言わぬ大多数の善良な市民がついているのだ、ということを知ってもらうために来ていただいたのです。」という言葉に新たな感動と職責の重大性に身が引締る思いであった。〝それにしても、機動隊長が一語一句かみしめるような口調で話された「我々は皆様方の御期待に応えるべく連日血のにじむような訓練に邁進しております。」の言葉を聞いた時、警察官になって良かった、そして、機動隊員として、ブルーのマフラーをしめることが出来る自分が誇らしく思えると同時に胸の中にある闘志がこみあげ目頭が熱くなってきた。機動隊は「この世を花にするために」あるのだ、我々を理解してくれる人々はこんなに多勢いてくれたのだ、我々の仕事が認められている、励まされている、頼りにされている、これが実感としてわかった今、国民の生命、身体、財産を守るため、与えられる任務の全てに頑張ろう。そして今日出席されている方々に代表されるすべての善良な人々のために風のようなデモにも、寸刻の油断も許されない空港警備にも、その血を吐くような猛訓練にも、黙々と心に誓った。

四月総会のお知らせ

既報のように昭和五十年度総会が四月に行なわれますが、そのあらましが左記のようにきまりましたので御知らせいたします。なお詳細、出欠の有無等については追って個別に案内状をお送りいたします。

■日時　昭和五十年四月二十三日(水)　午後三時より
■場所　都市センターホテル別講（東京都千代田区平河町二－四－一）
電話（二六五）八二一一

機動隊物語⑨

前代未聞・安保警備（後）

デモ隊の下敷きとなって、女子学生一人が死亡したのをきっかけとして、デモ隊の勢いは、ますますその激しさを増した。

門柱にロープを掛け、これを引き倒し、図に乗った学生達は、国会構内から折りから配備してあった資材車や輸送車を次々と引き出して、火をつける。誰かが〝俺達の輸送車が燃やされるぞ！〟と叫ぶ。機動隊がその日の朝乗りつけた雪印の輸送車である。

ナタで輸送車のホロを切って、これを十数人の学生が、ゆさぶり、反動をつけ、あっという間に横転させる。そして車からガソリンを抜きとって火をつける。

パッと燃え上る。すでに路上には、焼かれた警察の車両が数台残骸をさらしていた。

この間、参議院第二通用門付近で、数十名の継新行動隊と名のる者達がデモ隊に突込むというハプニングがあったが、いよいよ激しさを加えたデモ隊に、部隊は、四号入口から供待所を結ぶ線までの後退をやむなくさせられたのである。

デモ隊の正門方向への侵入を阻止する。

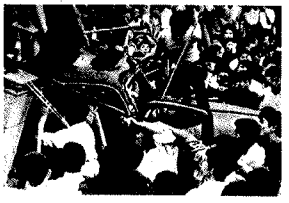
学生達からは〝税金ドロボー〟〝犬〟などとあらゆる悪口が飛ぶ。そして、ついにデモ隊は、正門内側方向に進行しようとしたため、部隊はガス筒を使用しながら構外に排除、午前一時すぎ平静をとり戻したのである。

そしてこの三日後の六月十八日、再び火の手が上った。

安保条約改定阻止国民会議は、アイゼンハワー米大統領の訪日中止によって、訪日当日予定していた動員をこの日にくり上げ、国会周辺に、学生等を含め、約十三万七千名という史上最高の動員を行ない、示威行動を行なった。一方、全学連主流派は、日比谷公園に約二万余名を集め「学生虐殺抗議」の集会後、国会周辺に進出、部隊に石、ビン等を投げ、車両破壊、三宅坂派出所の襲撃、私服警察官つるし上げ等の不法行為を行なった。その後、約九千名の学生は宮邸前に座り込み、翌午前六時半すぎに至り銀座方向にデモし、解散した。

この第一次安保闘争十六カ月間にわたる警備で、反対勢力の動員数は、集会三百六十七カ所、九十七万五千名、デモ二百二十三カ所、九十六万名であった。これに対し、二十七万九千名の警察官を動員したが、大規模な闘争においては、東京以外の部隊の参加により警備を行なった。連続警備の最長は、十二日間であった。なお検挙は、六百四十五名、負傷警察官千七百八十二名にものぼっている。

この安保警備の残した試練は、はなはだ大きく、今もなお教訓として生き続けている。



春を飾る武道始め

去る二月十二日、東京は中野にある警察学校において「昭和五十年度武道始め」が行なわれ、警視庁機動隊十個隊のおよそ六百五十名が参加し、柔道・剣道の両部門でその覇を競った。同大会に、当会から約八十名の会員が参会し、数々の美技に惜しみない声援を送っていた。

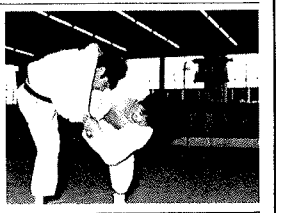
「武道始め」は、毎春警視庁機動隊のその年に行なわれる武道大会に先だけ、それらのセレモニーを兼ねて行なわれる。過去の経過を簡単に紹介すると、現在の十個隊に編成されてから、いわゆる新興勢力の台頭が期待されたが、惜しいところで優勝を逸している大会が目立つ。戦績的には、柔道部門では第一機動隊と第二機動隊が強味を示し、剣道部門は毎回優勝隊が入れ替わるほど各機動隊の力がきっ抗している。

迎えて今年は四年目。肌をさすような寒さのこの日は、午前八時半の開会と同時に会場はもう外とは対象的に熱気でうだるほど。国歌斉唱・優勝旗・優勝杯の返還があった後、警備部長の訓示、続いて試合上の注意が与えられた。

試合前のセレモニーの掉尾を飾って前回剣道部門で見事優勝を獲得した第一機動隊の門脇洋行副将による選手宣誓が行なわれ、その後すぐさま試合場へと散っていった。

午前中に予定通り柔・剣道ともに第二試合まで消化し、柔道部門では、第一・第二・第三・第六の各機が勝ち残り、これまでの実績通り、第一・第二の両機の優勝争いかと思われた。他方、剣道部門では第一・第五・第九・特事の各機が優勝た望みをつないだ。

十二時二十五分、四〇分の休憩時間後、正念場の第三試合が始まった。柔道部門では早くも優勝候補の下馬評の高い第一×第二機の好カード。接戦の末、第二機が第一機を下し、優勝旗獲得へ一歩近づき、六機との優勝戦を待つばかり。また、剣道部門では、第一機と第九機が優勝決定戦へと駒を進めていた。



この後、両部門の優勝戦開始に先立ち、それぞれの試合場で合気道および警じょう術の模範演技が行なわれ、大会に花を添えるとともに続いて部内高点試合が行なわれて勝ち残っている各選手に一層の気合をうながしていたようだった。

寒空にほのかな日差しを放っていた陽も落ち始めた午後三時三〇分頃、いよいよ決勝戦の火ぶたが切って落とされた。各選手とも目前に迫った優勝杯を前に、肩に力が入り動きにスムーズさを欠く。バックの応援にも一段と熱気が入る。「勝負あり！」。勝者を示す勝負審判の一挙手一投足にかたずをのんで見入る主将以下両軍の選手たち。

およそ三〇分。額に汗した各選手が対峙する格好で数列に並んだ。結果こそ柔道部門では六機が、剣道部門では九機がそれぞれ優勝したが、敗れたチームの各選手のさわやかな態度が強く印象に残った。

全試合が終了した。各選手が柔道試合場に集合した。各賞の表彰式である。続いて柔道・剣道の各審判長の講評があり、その後、警備部長が挨拶、来賓祝辞と続く。この時、当会を代表して松田太刀雄氏が祝辞を述べ、最後に参会者および選手全員による「出動の歌」合唱をもって全終了となった。

会員と隊員のひろば

隊員に接して

東京　T・T

春の声が近づくにつれて寒さもめっきり納まってきた。東京の近郊に住む私は、近頃では野鳥のさえずる音も一段と激しく聞こえる。

ところで、ひょんなことから昨年の四月にこの会に入会した。陽春だけなわといった頃だ。あれから早くも一年になろうとしている。それまでは機動隊については、せいぜい新聞記事の中で見る程度で、本当のところはほとんど知らなかった。

たしか二回目に送られてきた機関紙紙上だったと思うが、「機動隊行事参観希望者を募る」という記事が会員告知板の中に載っていた。機動隊についてあるいろいろ機会だと思い、早速事務局に問い合わせて、参観できるように取り計らってもらった。私が参観できる行事は十二月のクリスマスパーティーだった。当時、第二号の機関紙が届いたのが七月の末頃だったので、まだ半年も先のことである。

その間、会から送られてくる機関紙をもとに、機動隊の活動をより多く知ることができた。

十二月。参観の日がきた。会場につくと、そこではもうすっかり準備も整い、パーティーの開始を待つばかりになっていた。私服の隊員らはほとんど私と同年輩だ。パーティーが始まったのは数分後。そこここで歓談の輪ができる。だが、初めての参観にまったく戸惑ってしまった。

話題を考えているうちに五分・十分と過ぎていく……。思い切って隣りにいた隊員に話しかけた。

「入隊してどのくらい経ちますか？」「二年です。」一言交わすのみで他の隊員たちも、このわずかな会話に入ってきてくれた。あとはスムーズに話しが進んだ。

しばらくの歓談後、私は深い感銘を受けた。というより隊員の素顔を見たといった方が適切かも知れない。これを一言でいうならば、「人間機動隊に接した」という形容がぴったりだ。私と同年輩の隊員らが、難渋にじっと忍苦し、ご健勝を心からお祈りするのであります。

機動隊水難救助隊員としての抱負

第七機動隊第三中隊
巡査部長　野口　文雄

第七機動隊の水難救助班は、その歴史もまだ新しく訓練設備も十分でないが直径三メートル、深さ約一・五メートルのビニール製水槽と近くのプール、奥多摩の川で少しでも多くの実地訓練をと励み、救助活動に万全を期している。

本年の初出動は、調布警察署管内で、下宿に道書を残し小田急線の鉄橋にハンドバックと靴を残し、多摩川に飛び込んだと思われる若い女性の捜索だった。

流れが速く水温三度の川での潜水は、危険を伴う作業で、ある。静岡県から急き上京した両親、親戚の神にも祈るような視線を背にけけ、たき火で暖をとりながら自分を励まし、隊員を励まして捜索を続けた。

むなしく時間が経過し、冬の太陽が無情にも沈み、周囲が暗くなって未発見のまま捜索を打ち切った時は、隊員とともにがっかりしてしまった。

両親から感謝されたとき、我々がこれだけやって見つからなかったのだから、娘さんはこの冷たい水の中にはおらず、きっと思いなおしてどこかで元気でいるという私の願いが両親にも通じえたと思っている。なお、現在に至ってもこの娘さんの行方は判っていない。

二度目は玉川警察署管内で、工事中の橋を渡ろうとした中年の男性が、誤って多摩川に落ち溺れ死んだ事故だった。

第二機動隊の水難救助班に協力して、合同で捜索にあたったのだが、夜間、投光器を利用しての捜索は困難をきわめた。

我々救助班の活動を見守っていた群衆の中にもあきらめの空気がただよってきた。午後七時〇分捜索打ち切りの指示がなされたが、隊員の誰れもが上がろうとしないでもう一度、と水中にもぐり捜索を続けた。

午後七時一分、遺体となって発見された。

先般の水難救助班訓練の隊長査閲においても、水が張ってある水槽の中で元気よく訓練を行い技術の向上を図った。

査閲終了後の隊長から、訓練に訓練を重ね都民の期待に応えられるようにと訓授がなされた。

班員一同、いかなる困難な条件をも克服し、尊い人命を救助できるように逞しい機動隊水難救助班をつくりあげてゆくように、誓いあいながら氷の張っている水槽の中で頑張っている。

会員告知板

●会員増幅状況

今年度も残すところあとわずか、会員数も発足時に比しておよそ七倍に達しました。今後も一人でも多くのよき賛同者を得られることを願いつつ、今月の新規入会数をお知らせいたします。

法人会員　四社（二六四社）
特別会員　五名（五四五名）
一般会員　三〇五名（二六二〇）
合計三〇四六九
（三月十五日現在）

●会員の皆様にお願い

皆様方の厚いご支援のもとに本会もいよいよ隆盛をきわめてまいりました。ここに深謝するとともに会員の方々に次のことをお願いいたします。

発送事務の都合上、移転その他の住所変更等がありましたらすみやかに本会事務局までお知らせ下さい。

事務局　〒一〇四　東京都中央区八重洲五ノ一ノ六

●寄稿歓迎

編集部では、常時、会員の皆様方からの寄稿をおまちしています。

会員として、また市民としての立場から機動隊についてのご意見・ご感想や機動隊とのかかわりがあった経験談、あるいは本会に関するご意見ご希望など、幅広くお寄せください。採用文については紙上にてご紹介します。

なお、紙面の都合により四〇〇字詰め原稿用紙で三枚以内とします。

市民とともにある機動隊を

神奈川県警察本部長
廣山　紫朗

世に機動隊といいますと、すぐに極左暴力集団等の法秩序無視の暴挙と厳しく対決し、投石や火炎ビンの中で果敢に職務の遂行にあたる勇ましい機動隊員の姿を思いうかべるのでしょうか、どうしても何かいかめしいといったイメージを持ちがちでありますが、私には、こうしたイメージとはうらはらに、明るく朗らかな青年機動隊員諸君の顔がうかんでくるのであります。

多くの若者の中から選び抜かれてきた誇りと自信に満ちあふれた、そしてどこかまだ童顔の面影を残したやさしい顔であります。

こうした若者に、本会をはじめとする多くの理解者を得たことを、そしてその輪が、着実に広がりつつあることに深く感謝し、勇気づけられるのであります。

本会のご理解とご支援は、厳寒の中で厳しい勤務に励んでおります隊員にとりまして、まさに朗報ともいうべきものでありましょう。私は、平素から、部下職員に対して、市民のための、市民とともにある警察、いわば、「市民警察」に徹することを期待し、警察の原点をみつめなおし、公平中正な職務の遂行を強調しているのでありますが、本県機動隊の活躍は、まさに市民警察のそれであります。

激動の波に押し流されることなく、利害相克の動きに惑わされることのない、強い信念の下に、警察使命を全うしようとする努力を、隊員の汗のなかにみることができます。

市民とともにある機動隊、市民のための機動隊に徹しようとする本県機動隊の姿は、活動半径の広い、しかも多様な分野で現われつつあります。

今日も寒風の街頭に、機動隊員の姿がみられるのはそのためであります。犯罪多発地域の防犯パトロールに、暴走するサーキット族の取締りに、あるいは海、山の遭難者の救助に、祭礼行事の雑踏の中に、あるいはまた家を出たまま帰らない幼児を探して暗い河原に、数えあげれば際限がないほど、その集団警察力はそこかしこでいかんなく発揮され、県民の信頼を高めているのであります。

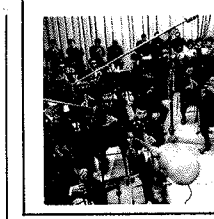
訓練につぐ訓練によって練えあげられた若い隊員の強じんな体力と旺盛な気力は、いまや市民警察活動の場で中核的な存在に成長しつつあります。

私は、本県機動隊の職務に対する情熱と、そのねばり強さに多くの期待をかけるとともに、隊員が、この期待に十分こたえてくれるものと確信いたします。

明日の市民警察活動のために、皆様がよせられた暖かいはげましの声を、若い機動隊員の諸君におくりつづけていただきたいと願ってやみません。

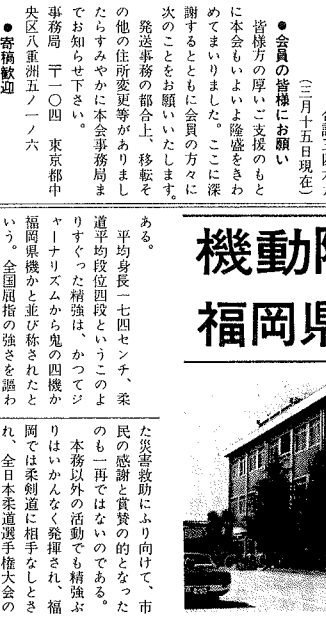
感謝の気持とともに、本会のますますのご発展と皆様のご健勝を心からお祈りするのであります。

会の歌レコード完成へ



さる三月六日、十日の両日日本コロンビアのスタジオで藤山一郎氏独唱、警視庁婦人警官鼓笛隊コーラス、警視庁音楽隊演奏による「機動隊員をたたえる歌」「機動隊員を励ます歌」のレコーディングが行なわれた。四月下旬にはドーナツ盤のレコードとして完成頒布の予定。

機動隊めぐり(10)
福岡県警察機動隊



福岡市では、年末になると通称「金太郎部隊」といえばだれでもあああれか、というほど市民におなじみになっている面々が街をまかり通る。

白ヘルメット、紺服に身をかためた一・八メートル前後のこの大男の集団こそ、年末特別警戒に当る福岡県警機動隊の集団警らなのである。大ていの不ていの輩はその姿を見ただけで逃げ出してしまうというから、悪い奴には大いに恐れられているわけだが、反面、善良な市民にとってこれぐらい頼りになる人達はいない。親しみをこめて町の人から金太郎部隊――つまり気はやさしくて力もちの連中――と仇名されているのも道理である。

平均身長一七四センチ、柔道平均段位四段というこのよりすぐった精強は、かつてジャーナリズムから鬼の四機が福岡県機かと並び称されたという。全国屈指の強さを謳われる機動隊なのである。

「しかし、強いばかりではダメなので、とくに教養面にも力を入れます。その結果昇任試験には常に優秀な成績を上げており、機動隊に来れば幹部に昇進できるということで、これが優秀な人材を年々集めるよき伝統となっています」と語るのは河口典民機動隊長。小柄ながらこれも柔道四段、熱血の九州男児である。

福岡県機の強さの伝統は、九州の土地柄にもよる。昭和二十八年の創設以来、数えてみれば、三井三池炭鉱の大争議、エンタープライズ号寄港反対闘争、板付基地反対闘争、九大学園紛争、安保闘争といった全国の耳目を驚かせた激烈な警備事件の洗礼をいくたびとなく浴びている。

労組関係のトラブルや内ゲバ事件は東京とまったく変らないどころか、それ以上の頻度で続発しており、今年になってからだけでも内ゲバ四件、爆弾事件をすでに二件数えるという。なみの強さではつとまらないわけである。

またこの強さを風水害、炭鉱の大爆発、近くは一昨年の熊本大洋デパート火災といった災害救助にふり向けて、市民の感謝と賞賛の的となったのも一再ではないのである。

本務以外の活動でも精強ぶりはいかんなく発揮され、福岡では柔剣道に相手なしとされ、全日本柔道選手権大会の福岡予選には三名が出場して三名とも勝ち抜くといった快挙を演じている。その他のスポーツでも同様。何せ土台すぐれた素材を日夜の猛訓練できたえてあるのだから。だが「隊員には忍の警備を第一に説き、迅速果敢の半面、常に冷静沈着であれと指導しています」と河口隊長。

ふと見ると「強く賢く明るく」のモット―。まことに頼もしい金太郎さんたちである。